

東京都港区

チャレンジコミュニティ・クラブの
実態と活動に関する調査報告書



目 次

挨拶	5
はじめに	11
1 調査の概要	13
2 調査の結果 その1—基本集計	15
3 調査の結果 その2—クロス集計	35
4 調査の結果 その3—活動内容実態集計	41
5 調査の結果 その4—CCクラブなどに関する自由回答	49
6 調査からいえること	55
おわりに	67
資料編		
①CCクラブ2018年度活動実態調査票	72
②チャレンジコミュニティ大学とは	80
③チャレンジコミュニティ・クラブとは	82
④チャレンジコミュニティ・クラブと会員の活動	83
(CC通信に掲載された11年間の活動)		

チャレンジコミュニティ・クラブの更なる発展を祈念して

チャレンジコミュニティ大学学長 港区長 武井雅昭



チャレンジコミュニティ大学は、地域の活性化や地域コミュニティの育成を図るため、地域で積極的に活躍するリーダーを養成することを目的として、平成19年に、港区と明治学院大学が連携して開設し、これまでに約700名の修了生がいます。

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんは、区民参画による検討組織や各総合支所での地域活性化のための協働事業、ボランティアグループ等の地域福祉活動のほか、各地区に分かれての自主活動など、多方面でご活躍いただいております。心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

現在、港区の人口は26万人に迫り、今後もあらゆる世代で増加し、区政80周年を迎える8年後には、30万人に達する見込みです。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が来年に迫り、港区の街並みはこれまでにないスピードで変わりつつあります。

人々の価値観やライフスタイルが多様化し、家庭環境や地域における人と人とのつながりが大きく変容する中、地域コミュニティにおける住民同士の活発な交流は、日々の安全で安心できる暮らしや、災害時の共助において欠かすことができません。

しかし、町会、自治会でも、会員数の減少や会の活動への住民の関心が低下するなど、活動の担い手不足が課題となっています。

区民、在勤者、学生、外国人等、多様な人々が共生する社会で、地域が一体となって防災・防犯・環境美化・交通安全などの様々なコミュニティ活動に取り組むためには、その活動を支え、先導していくリーダーとなる人材が必要です。

人生100年の長寿社会を迎えた今、「令和」という新しい時代の幕開けとともに、多くの方々が、心新たに、それぞれの未来に思いを馳せていることと思います。

チャレンジコミュニティ大学での学びや交流を通じて、皆さんがこれまでに培ってきた豊富な知識と経験に、更に磨きをかけ、自主的・主体的に地域の中で活躍していただくことは、港区の更なる発展のための大きな力となるものです。

区は、「参画と協働」を区政運営の柱に据え、今日まで地域の皆さんと共に区政の課題解決にあたってまいりました。引き続き、区民参画や地域における協働により築いてきた区民との信頼関係や、地域との絆を大切にしながら、地域の課題を地域の皆で解決し、お互いに支え合う、地域の誰もが安全に安心して心豊かに暮らすことができる「港区ならではの地域共生社会」の実現をめざし、地域活動への積極的な支援に全力で取り組んでまいります。

結びに、今後のチャレンジコミュニティ・クラブの益々の発展と、会員の皆様が、地域コミュニティの育成や活性化を推進するリーダーとして、これからも元気に地域でご活躍いただけることを心から願っております。

チャレンジコミュニティ・クラブの現状と未来

明治学院大学学長 松原康雄



チャレンジコミュニティ・クラブは、チャレンジコミュニティ大学の修了生によって自主的に組織された団体です。「チャレンジコミュニティ大学」は高齢者や今後高齢を迎える方がいままで培った知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて、個々の能力を再開発することを目指してきました。2018年度までに、毎年60名、約700名の修了生を輩出しています。チャレンジコミュニティ・クラブは、チャレンジコミュニティ大学の目的に合致する活動を展開されてきました。

今回の調査では、チャレンジコミュニティ・クラブ参加者の実態とクラブとしての活動実態が明らかにされています。詳細は、報告書をお読みいただきたいのですが、いくつかの特徴的結果をあげてみたいと思います。第一に、修了生の方々がその後も活動的な日常を送られており、その効果があつてか健康状態も比較的良いという点です。また第二に、活動を通じて人間関係にも広がりを見ることが出来ます。第三に、港区の施策に関心を持たれ始めたことです。区民参加の重要性が指摘されながらも、地域住民全体では区が展開する諸施策に必ずしも関心が高くないなかで、施策に関心を持ち続けることの意味は大きいと考えます。第四に、関心を有するだけでなく地域の諸課題の解決に意欲的に取り組んでいる実態があります。その活動内容は、「その他」を含め、20項目にもわたっています。なかには、複数の活動に参加されている方がいらっしゃることも明らかになりました。活動内容項目は、高齢者支援や子育て支援など福祉分野における喫緊の課題や、地域環境の整備、国際交流など全てが港区の現在と将来にとって重要な項目となっています。

本学は、港区のご理解とご協力を得て、チャレンジコミュニティ・クラブの活動を支援させていただいています。組織創生の契機もそうでしたが、支援の基本姿勢は主体的活動を基盤としていることに変化はありません。チャレンジコミュニティ大学で学んだ成果が地域の新たな諸課題を掘り起こし、施策形成のきっかけとなる場合や、地域住民の自主的活動に結びついていくことは、地域住民全体への貢献となっています。強制ではなく、ゆるやかな結びつきでの活動が継続の要になっているとも考えられます。チャレンジコミュニティ・クラブ会員間の交流がまさに地域住民の絆であり、そこから外延的に結ばれる絆も期待できます。今後とも、チャレンジコミュニティ・クラブが活発な活動を継続していくために、なにが求められているのか、この調査にはたくさんのヒントが示されています。その取捨選択や活かし方は、調査結果が多方面で共有されるプロセスで検討されていくことと思います。調査にかかわっていただいた方や諸機関・団体に感謝を申し上げますと共に、本学もチャレンジコミュニティ・クラブの「支え手」としての役割を継続していきたいと考えます。

「チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書」の発行に寄せて

明治学院大学社会連携担当副学長 永野茂洋



港区と明治学院大学の連携事業である「チャレンジコミュニティ大学」（以下CC大学）は、2007年に第1期生60名を迎えて開学しました。現在は、第13期生60名が、この4月より明治学院大学白金キャンパスの教室や、あるいは学外実習先で、大変熱心に学びを続けているところです。

この連携事業は、そのCC大学で学んだ方全員が、大学修了後に「チャレンジコミュニティ・クラブ」（以下CCクラブ）に登録し、港区内のそれぞれの地域、地区でさまざまな活動を自主的に行っていくという、「学びから実践へ」の仕組みが整っている点に最大の特色があると言えます。

この度、そのCCクラブでの「実践」の実態が、詳細な調査と分析によって、このように目に見えるかたちで明らかになったことの意義は大変大きく、調査分析に膨大な時間と労力を割いてくださいました、CCクラブ地域連携部会のみならず、そして、CC大学統括コーディネータの河合克義明治学院大学名誉教授、明治学院大学総合企画課社会連携課職員に、社会連携担当副学長として心より感謝を申し上げたいと思います。

わたしがCC大学とCCクラブに関わるようになったのは、副学長を拝命した2016年からですが、その折に河合克義教授よりうかがったのは、CC大学の受講生、そして修了生が、単なる「自己実現」のためだけでなく、困っているながら声を上げられず、周囲に気づかれずにいる方たちの気持ちを理解し、その方たちに寄り添い、自分たちは何ができるかを考えるようになる。そういう姿勢を持った区民、市民となるための機会と支援を提供するというのが、CC大学、CCクラブの基本的な考え方であるということでした。

これは地域の福祉と自治の実現にとって大事なだけでなく、明治学院大学の教育理念の根本に通じるものでもあり、明治学院に奉職する一教員として深い感銘を受けたのを思い出します。

今回の調査分析を通して、この当初からの構想が、2008年のCC大学第1期修了生から2018年の第11期修了生まで、CCクラブ傘下の活動において実際にさまざまな形で実践され、現実のものとなっている実態を読み取ることができ、関係者の一人として大変嬉しく思っているところです。

同時に、今回の調査分析によって、たとえば、CC大学修了生と他の区民の方々とをどのようにつないでいくかなど、CCクラブの今後の活動に向けて重要な課題があることも分かってまいりました。

地域コミュニティの課題は、多くの方々による多方面での協力と「隠れた」努力なしにはなかなか解決していかないもののように思います。明治学院大学社会連携課としても、武井雅昭港区長はじめ、港区議会議員のみならず、また港区の職員のみならず、そして、CCクラブの会員のみならずと今後も協力しながら、大学の持てる力を地域の課題解決に向けて継続的に傾注して行きたいと考えております。本調査報告書は、そのための基礎データとして利用価値も高く、わたしたちとしても、これを今後の事業展開のために十分に活用して行きたいと願っている次第です。

活動実態調査報告から思うこと

チャレンジコミュニティ・クラブ代表 齋藤正精



地域活動は意義深く人生に必要

報告書は調査対象として港区在住の高齢者に限られていますが、異なった人生経験を持つシニアの活動実態調査として貴重な資料ができたと考えております。行政の施策にも是非反映していただければ幸いです。多くの会員は人生100年時代といわれるいま、従来とは違って多様性に富んだ地域活動に参加して、少しでも地域に貢献できるようチャレンジしています。人生には「仕事、労働、活動の3つが必要だ!」とドイツ生まれの現代思想家アーレントは人間らしい生活、人間の条件として地域活動への参加意義を挙げています。その主張通り、報告書では設問の回答から地域に関心を持ち活動に参加することに生きがいを感じている人が多いと分析されます。地域で活動することにより人に少しでも役に立ち、グループで交流するようになって知人も増えて充実した人生を送っていると考えています。自己実現のためには地域活動が重要であり、地域に心地よい居場所を見つけようとする現代のシニア像がデータから浮かんできます。

明治学院大学と港区で連携した生涯教育への取り組みは素晴らしい

会員はCC大学の修了後クラブ活動組織に所属し、地域活動を開始します。大学と行政が連携し地域住民を対象とする生涯教育のカレッジと、その修了生のクラブ運営による地域活動への参画制度は、とても良い取り組みで全国都市においても同じような展開ができないか、モデルケースにできないかなど考えることがあります。いまままで仕事一筋だった方が都会でいきなり地域活動に参加するのは難しく、このような制度があると企業の定年退職者でも自分に合った活動を見つけて同窓の仲間となんらかのグループに参加して活動を始めるきっかけになります。

地域活動への参加は若いころからが理想的

調査回答から一部には活動に参加しない人やできない人もいます。高齢になると新しいことをやるのは億劫になるのは否めません。グループでは和が重要で他者の価値観と折り合いをつけることも大切で自分流では浮いてしまいます。うまく活動に参加できる人は自分の価値観を押し付けないことが自然とできています。人との良いコミュニケーションを築くには、若いころから仕事では得られない別の世界(寮生活、趣味やスポーツ合宿など)での体験が役に立つと思われまます。特にグループのリーダーは肩書のない対等な人間関係で協力して活動を推進していくスキル、個性も肯定的に受け入れる包容力やときには鈍感力なども必要だと痛感しております。現在政府が主導しているライフワークバランスが定着すれば若い世代も仕事だけでなくいろいろな活動に参加できるようになるのではないのでしょうか。近年災害ボランティアが定着し多世代が行動しているが、こういった経験を持つ若い世代がシニアになった時、ごく自然と地域活動に参加するようになるのではないかと期待しています。

チャレンジコミュニティ・クラブの
実態と活動に関する調査報告

はじめに

ーチャレンジコミュニティ・クラブのこれからの活動方向ー

河合 克義（明治学院大学学長特別補佐・名誉教授・
チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター）

チャレンジコミュニティ大学は、60歳以上の港区民を対象に、コミュニティ・リーダーを育成しようとしたものである。2019年度で13期目の新入生を迎えている。毎年60名ずつチャレンジコミュニティ大学として受け入れているので、合計数は780名となる。大学では年間週2コマの講義を受け、修了後は、チャレンジコミュニティ・クラブのメンバーとなる。その数は、すでに700名を超えた。チャレンジコミュニティ・クラブの活動は、この調査報告書で明らかになるように、多様なもので、港区で素晴らしい活動を展開している。同時に、その活動の方向性を考える時期でもある。

コミュニティ活動、住民による主体的地域活動とは何か、何をめざすものなのか。活動の力量を高める際に考えなければならないことは、コミュニティ活動をめぐって行政と住民活動の関係を問うことである。このことは、歴史的には「公私役割分担」という形で議論されてきた。「公」は行政施策、「私」は住民・国民の主体的活動（Voluntary Action）のことを指す。

イギリスでの公私役割分担論で有名なものとして、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスを1895年に創設したウェッブ夫妻の「繰り出し梯子理論」（1914年）がある。繰り出し梯子を例えに、繰り出す梯子を支える基礎部分は行政が担い、その上の繰り出した部分を国民の私的活動が担うとする理論である。行政という基礎部分がないと、その上の民間活動も成り立たないという考え方である。

ウェッブの影響を大きく受け、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスの学長にもなったW・H・ベヴァリッジは、チャーチル首相の下、第二次世界大戦後の国民生活を国家的に保障するプラン（いわゆるベヴァリッジ報告）を戦時中の1942年に策定した。他方、彼は、1948年には「ボランティア・アクション」という本を出版している。ベヴァリッジは、国家責任による生活保障施策を推進しつつ、他方、「社会進歩（Social Advance）」には、ボランティア・アクションすなわち国民の側の主体的な活動が欠かせないことを述べていた。

さて、最近の我が国の公私役割分担の現実をみると、行政側から国民の地域活動へのかなり大きな期待がある。その現実、公の責任が曖昧になり、国民側の役割ばかりが強調される傾向が強い。いま、日本のボランティア・アクションの自律性、力量が問われているのではないか。

チャレンジコミュニティ・クラブは、港区の行政にも参画しつつ、独自の活動を強力に展開してきている。日本のボランティア・アクションを先導するモデルとなってほしいと思う。

1 調査の概要

(1) 調査の名称

チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査

(2) 調査主体

調査の主体は、チャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」と略す。）である。ただし、調査票の設計、調査結果の集計・分析、まとめについては、チャレンジコミュニティ・クラブ地域連携部会、明治学院大学総合企画室社会連携課、及び明治学院大学学長特別補佐・名誉教授・チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター河合克義先生と共同で行った。

(3) 調査の目的と内容

本調査の目的は、CCクラブの活動実態と課題を明らかにし、今後のCCクラブの活動の方向性を検討するための基礎資料を得ることにある。

CCクラブは、チャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」と略す。）の修了生を中心に構成されている組織である。CCクラブは、2008年に1期生約60名でスタートしてから、2018年で11期生を迎え、約600名もの会員を擁する組織となった。その間、多くの会員が地域の中で多様な活動を展開してきた。そして、その活動は、年々広がりを持ち、地域に浸透してきている。組織が大きくなったことから、CCクラブ会員の活動の多様な状況は、全体的には充分には把握できていない。そこで、CCクラブ会員の活動状況を把握するために、CCクラブ会員の实態調査を実施することとした。

調査は、特に「CC大学修了前後の状況」と「CCクラブ会員状況」について行った。

(4) 調査対象

調査対象は、2018年6月1日現在のCCクラブ会員592名全員である。

(5) 調査時点及び期間

調査時点は2018年6月1日現在であり、調査期間は2018年6月25日から2018年9月26日までである。

(6) 調査の方法

本調査は、調査票を、全会員に郵送で一斉配布し、CCクラブ運営委員（CC大学の各期・各グループの代表者）が、調査用紙を回収した。各期や各グループで回収が困難な場合を想定して、返信用封筒を用意し、郵送による回収、およびファックス、メールによる回収も行った。

(7) 回収数及び回収率

本調査の回収総数は336ケース、回収率は56.8%、有効回収数は334ケース、有効回収率は56.4%である。

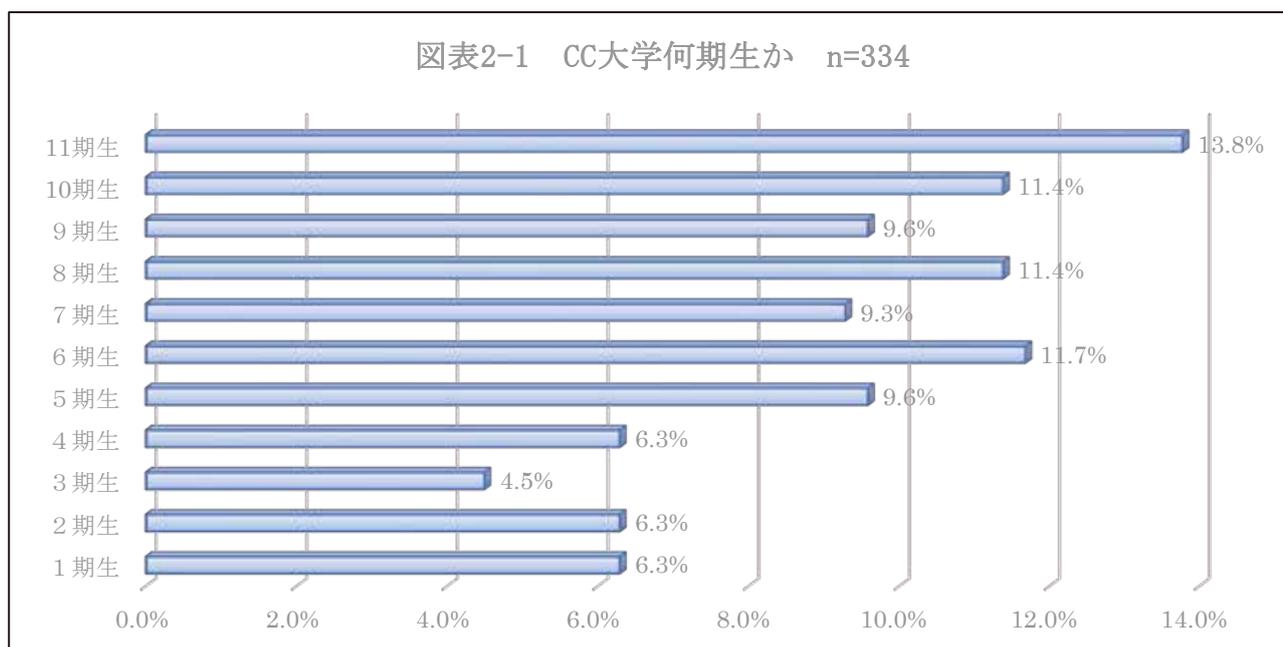
2 調査の結果 その1—基本集計

ここでは、調査の基本集計結果を概観する。

(1) CC大学何期生か

本調査の対象は、CC大学の1期生から11期生までである。回収された調査票の各期の分布は、図表2-1の通りである。11期生が13.8%と最も割合が高く、ついで6期生が11.7%、8期生と10期生がともに11.4%、5期生と9期生がともに9.6%、7期生が9.3%となっている。3期生の4.5%を除いて、1期生、2期生、4期生はともに6.3%であった。

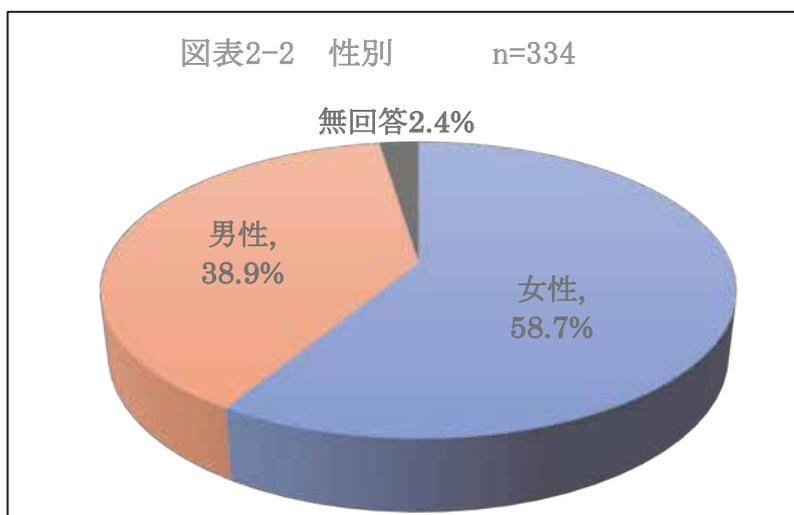
4期生以前で6%程度、5期生以降で1割前後となっている。



(2) 性別、年齢

性別は、女性が58.7%、男性が38.9%であった(図表2-2)。このように、回答者の6割は女性であった。

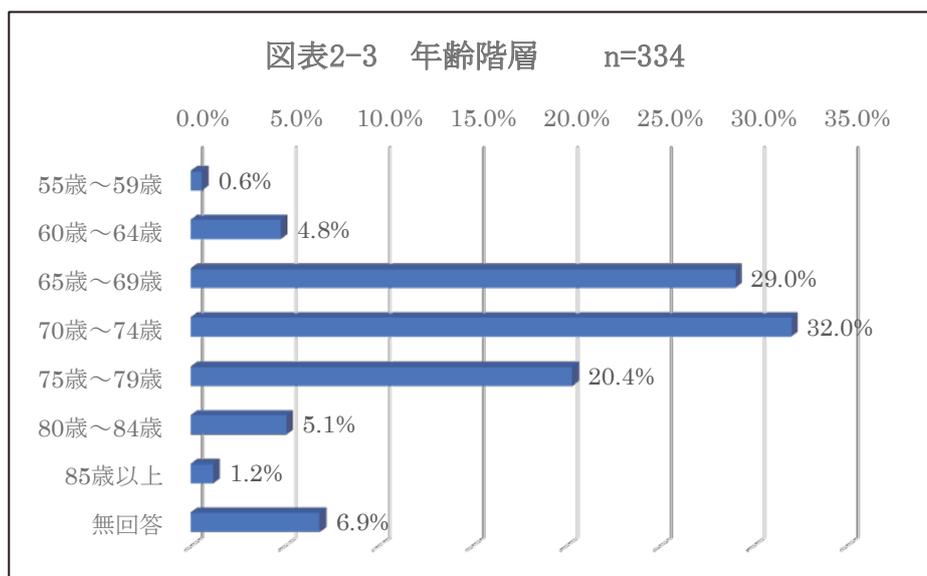
なお、今回の調査対象者(調査母数)592名の性別を見ると女性が390名、65.9%、男性が202名、34.1%となっている。母数では、女性の割合が高い。



年齢は、最低年齢が 55 歳、最高年齢が 89 歳であった。平均は 71.8 歳である。

各年代別に集計した図表 2-3 を見ると、「70 歳～74 歳」が最も割合が高く 32.0% を占め、次いで「65 歳～69 歳」が 29.0%、「75 歳～79 歳」が 20.4% であった。80 歳以上を合計すると 6.3% となる。

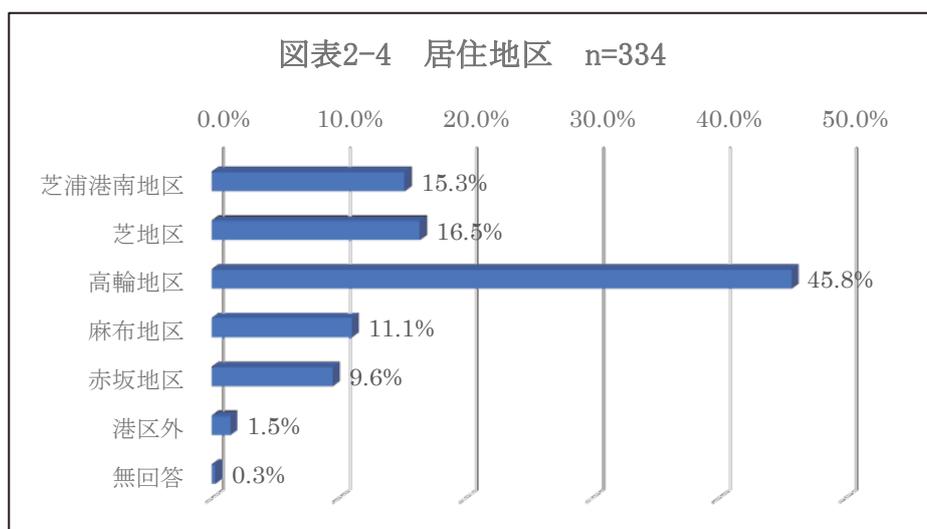
反対に、「55 歳～59 歳」は 0.6%、「60 歳～64 歳」は 4.8% となっている。なお、CC 大学の入学資格は、60 歳以上であるが、民生委員・児童委員は 60 歳未満も入学可能としている。毎年、数名の民生委員・児童委員が入学している。



(3) 居住地区

港区は、行政区として 5 つの地区に分けている。その 5 地区ごとに CC クラブ会員が居住している地区を見ると、「高輪地区」が 45.8% と最も割合が高い。次いで、「芝地区」が 16.5%、「芝浦港南地区」が 15.3% となっている。

「麻布地区」と「赤坂地区」は 10% 前後の割合であった (図表 2-4)。

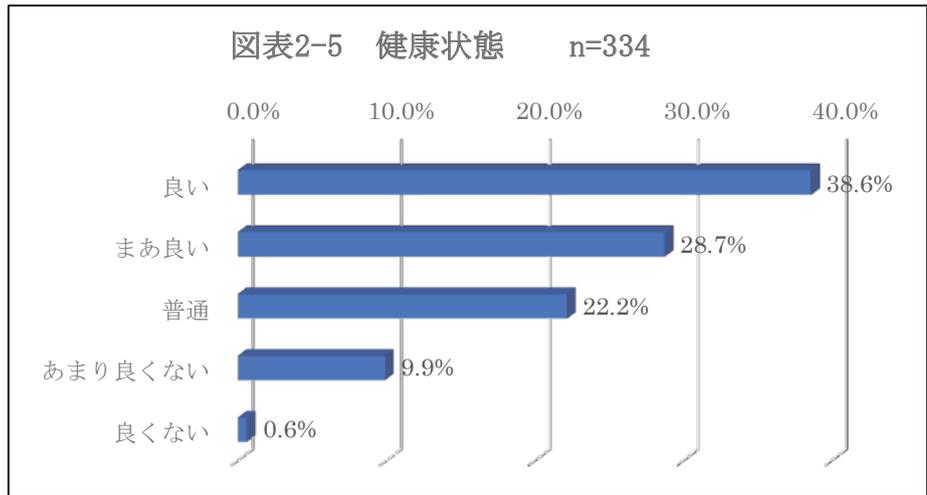


高輪地区に CC クラブ会員が多いのは、CC 大学が明治学院大学において開講されており、大学が地理的に近いことが理由のひとつである。なお、CC 大学を修了後、港区外に転居した CC クラブ会員が 1.5% いる。

(4) 健康状態

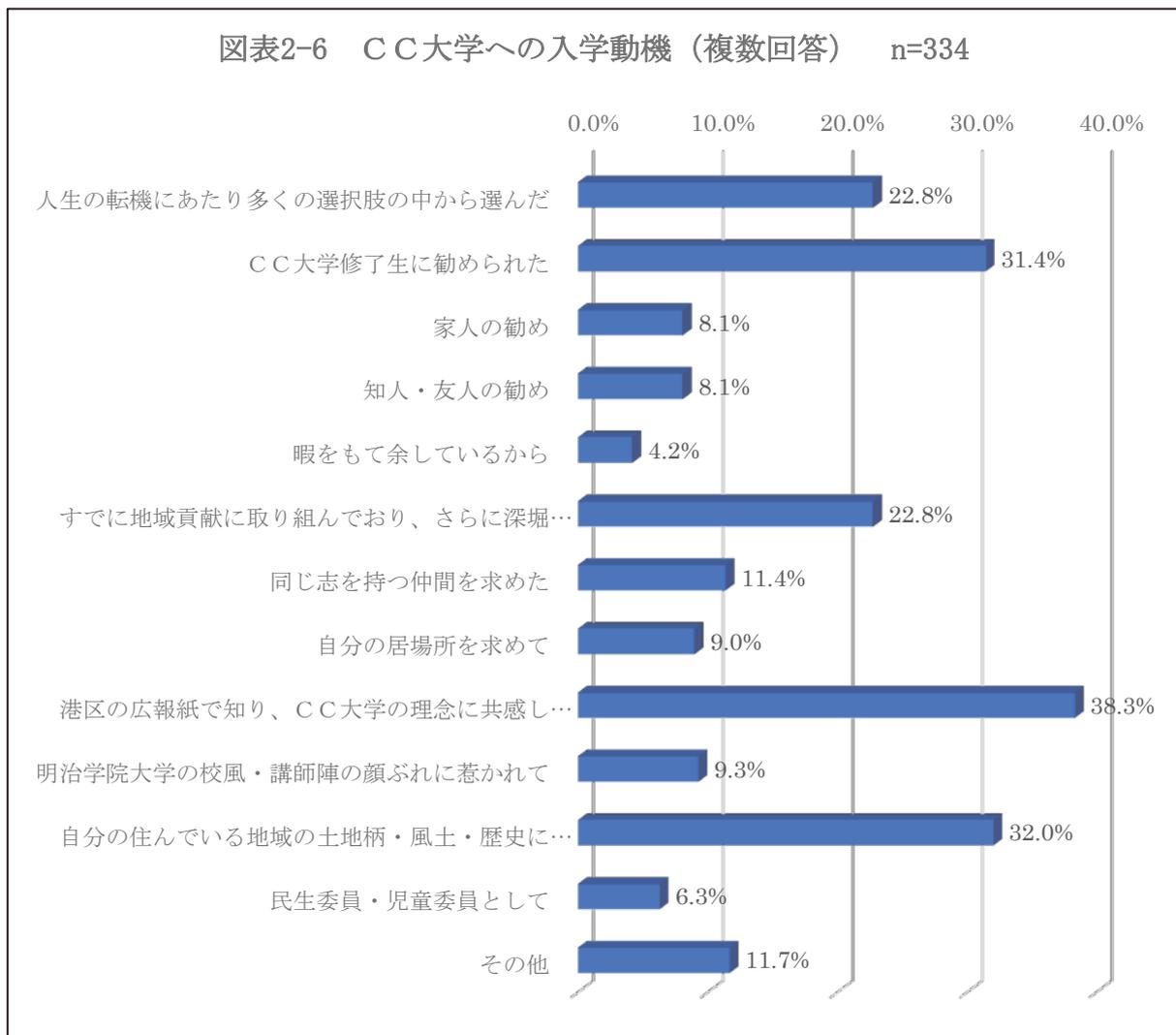
健康状態は、社会活動、地域活動または外出の前提として重要な要素である。図表 2-5 は、CCクラブ会員の健康状態を見たものである。

「良い」が 38.6%、「まあ良い」が 28.7%となっている。この2つを合わせると、67.3%と全体の7割弱を占めている。大半は、健康と言える。他方、「あまり良くない」と「良くない」を合わせると、10.5%と、全体の1割を占める。



(5) CC大学への入学動機

図表 2-6 は、CC大学への入学動機を見たものである。この設問は、複数回答である。全体のケース数は 334 であるが、それに対する割合を項目ごとに示した。



最も割合が高いものは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が38.3%、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が32.0%、「CC大学修了生に勧められた」が31.4%、そして「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」と「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深掘りを目指した」が、ともに22.8%となっている。これ以外の項目は、10%前後の割合であった。

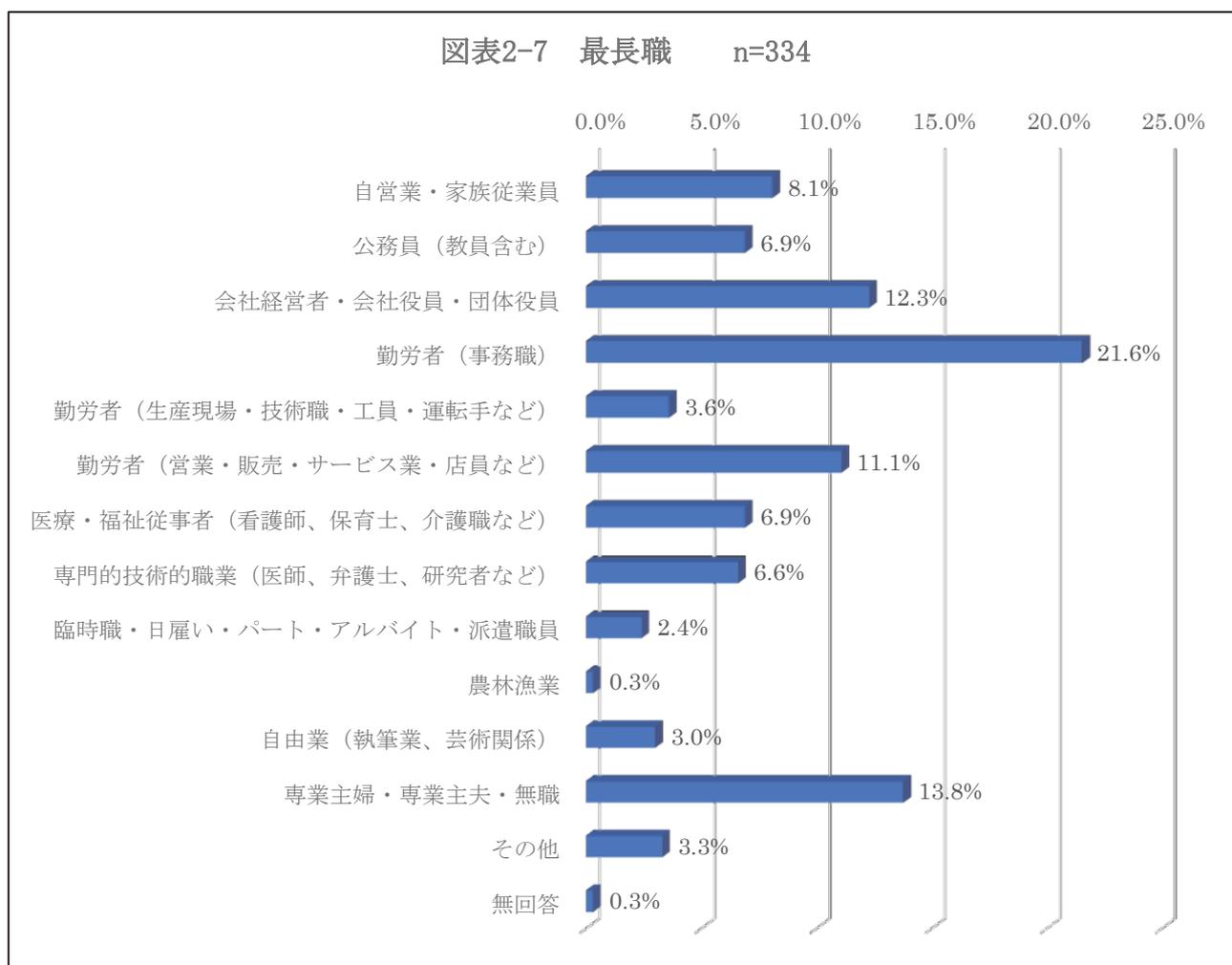
全体として、CC大学の理念に共感したとか地域に関心を持つようになったという理由からの入学が多い。またCC大学修了生からの勧めも大きな割合を占めている。

(6) 最長職

最長職すなわち生涯の中で一番長くしていた職業については（図表2-7）、最も割合が高いものは、「勤労者（事務職）」が21.6%を占めている。次いで、「会社経営者・会社役員・団体役員」が12.3%、「勤労者（営業・販売・サービス業・店員など）」が11.1%となっている。

その外、「自営業・家族従業員」が8.1%、「公務員（教員含む）」、「医療・福祉従事者（看護師、保育士、介護職など）」、「専門的技術的職業（医師、弁護士、研究者など）」が、ともに7%弱であった。

なお、「専業主婦・専業主夫・無職」は13.8%である。



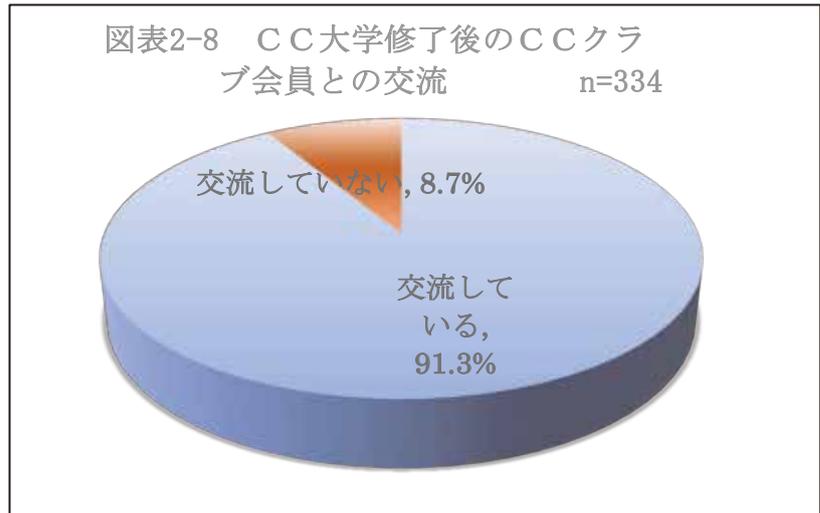
(7) CC大学修了後の状況

① CCクラブ会員との交流

この設問は、CC大学修了の後に、CCクラブ会員と交流しているかどうかを尋ねたものである。

図表 2-8 のとおり、「交流している」が91.3%、「交流していない」が8.7%であった。

このように、1割弱の人は交流がないが、9割を占める人は、CCクラブの会員との交流がある。

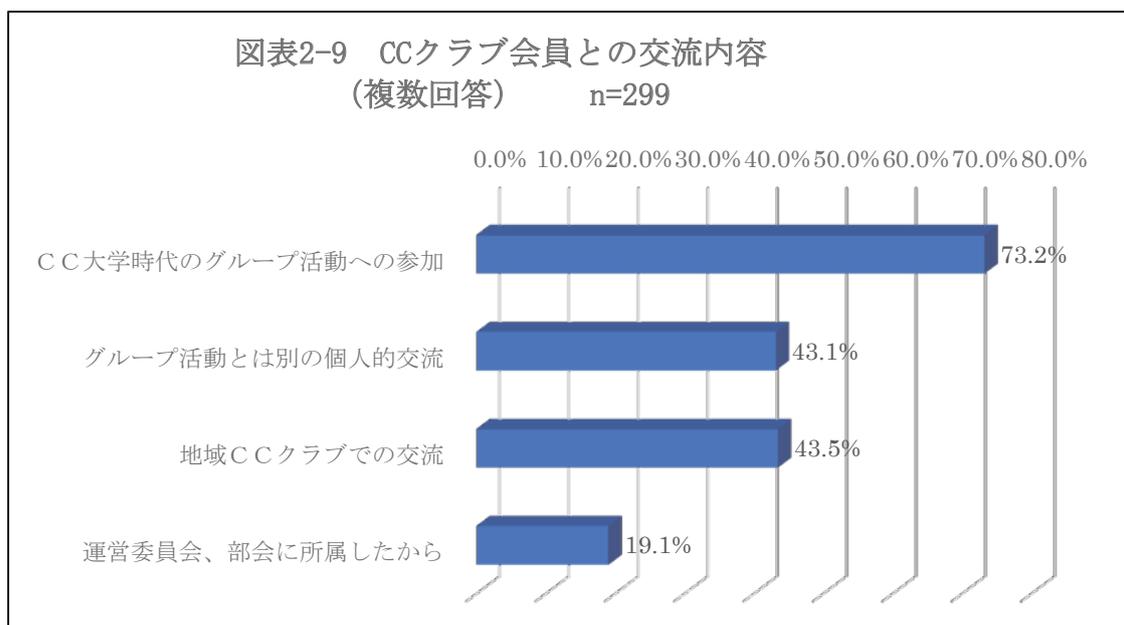


② CCクラブ会員との交流内容

図表 2-9 は、CCクラブ会員と交流している人に尋ねた質問で、交流の内容を答えてもらったものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「CC大学時代のグループ活動への参加」で73.2%を占めている。CC大学は、全体60名の受講生を、20人ずつの3グループに分けている。在学時代からこのグループごとの活動が活発に行われており、それが修了後も続いているのである。

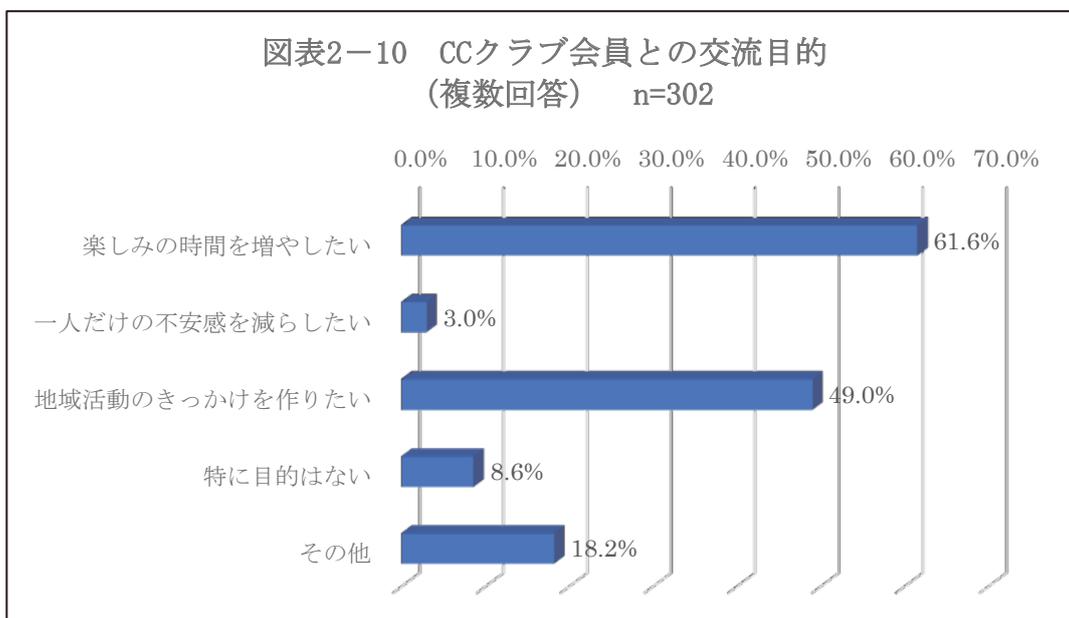
CC大学の主に修了生で組織されているCCクラブは、いま地域ごとのCCクラブを組織して活動しており、その「地域CCクラブでの交流」を挙げている人が、43.5%となっている。また「グループ活動とは別の個人的交流」が、43.1%を占める。

また、「運営委員会、部会に所属したから」が19.1%であった。



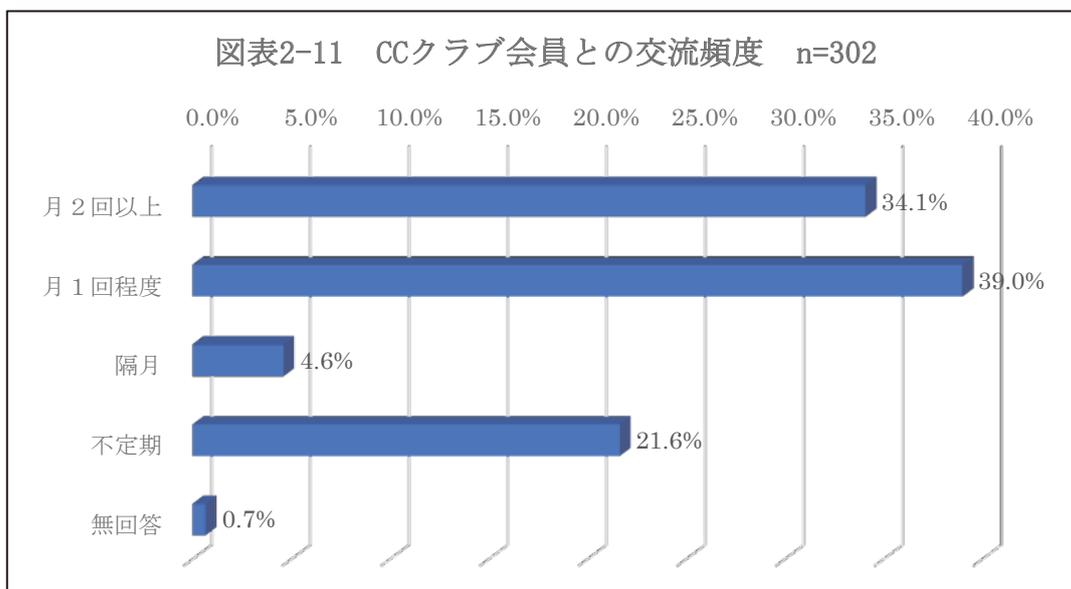
③ CCクラブ会員との交流目的

CCクラブ会員との交流目的については（図表 2-10、複数回答）、「楽しみの時間を増やしたい」が 61.6%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が 49.0%となっている。「特に目的はない」が 8.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が 3.0%であった。



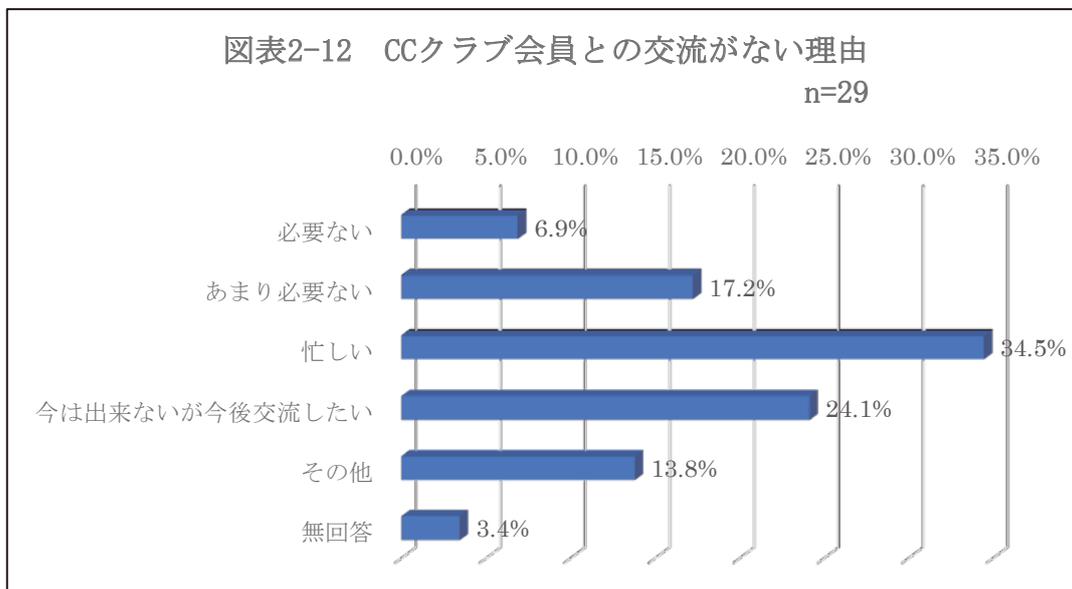
④ CCクラブ会員との交流頻度

CCクラブ会員との交流の頻度については（図表 2-11）、「月 1 回程度」が 39.0%と最も割合が高く、次いで「月 2 回以上」が 34.1%、「隔月」が 4.6%、「不定期」が 21.6%であった。



⑤ CCクラブ会員との交流がない理由

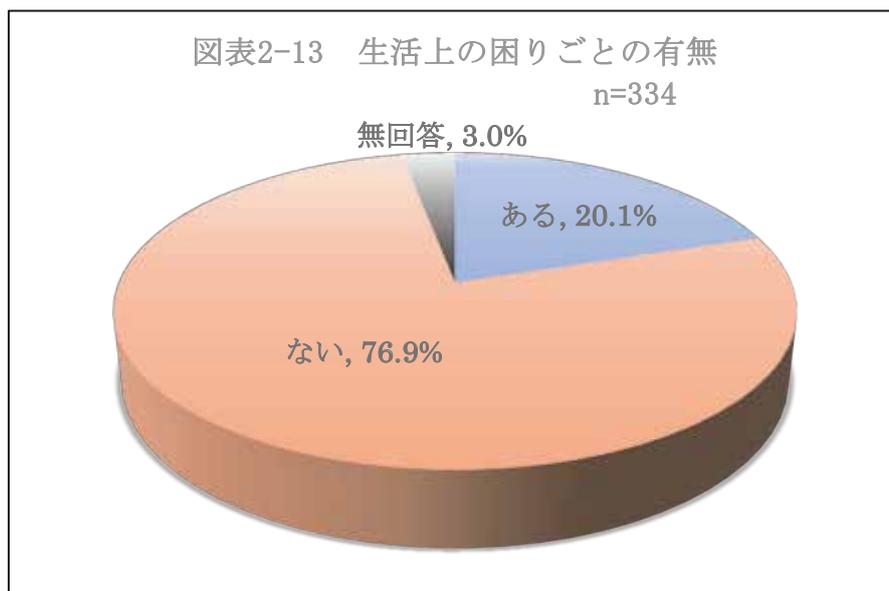
CCクラブ会員との交流がない29人に、その理由を尋ねた(図表2-12)。「忙しい」が34.5%、「今は出来ないが今後交流したい」が24.1%、「あまり必要ない」が17.2%、「必要ない」が6.9%であった。



(8) 生活上の困りごと

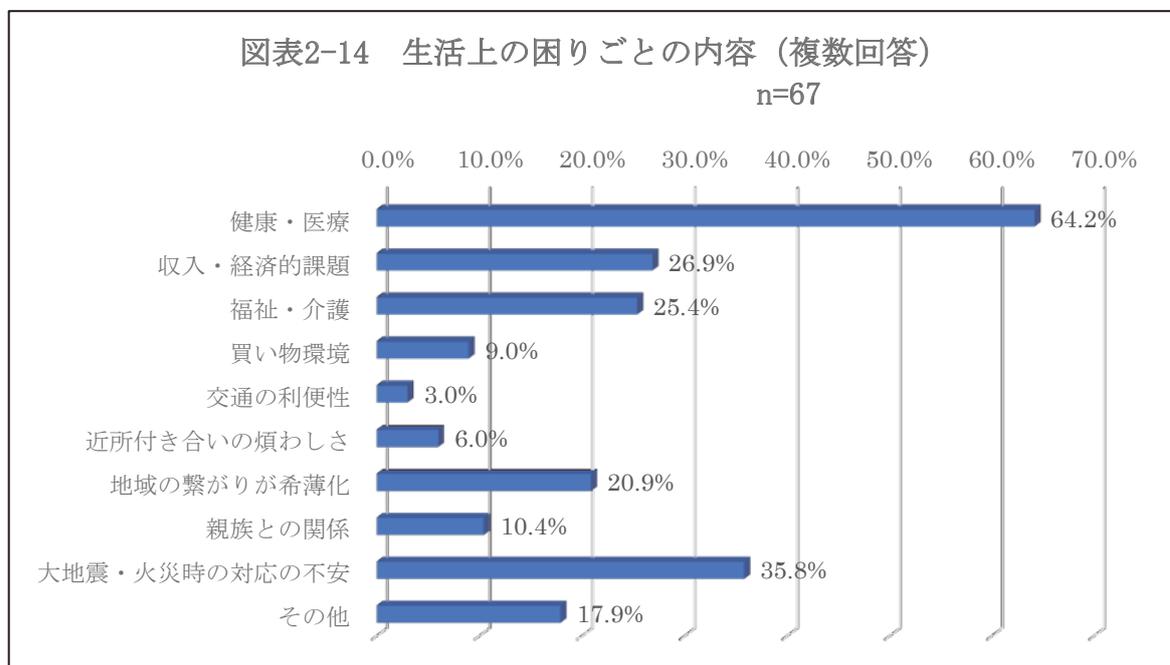
①生活上の困りごとの有無

生活上の困りごとについては(図表2-13)、「ない」が76.9%と全体の8割弱を占めている。他方、「ある」は20.1%であった。



②生活上の困りごとの内容

生活上の困りごとがあると答えた人に、その内容を尋ねた（図表 2-14、複数回答）。最も割合が高いものは「健康・医療」で、64.2%を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が35.8%、「収入・経済的課題」が26.9%、「福祉・介護」が25.4%、「地域の繋がりが希薄化」が20.9%となっている。その外、「親族との関係」と「買い物環境」が、それぞれ1割前後となっている。



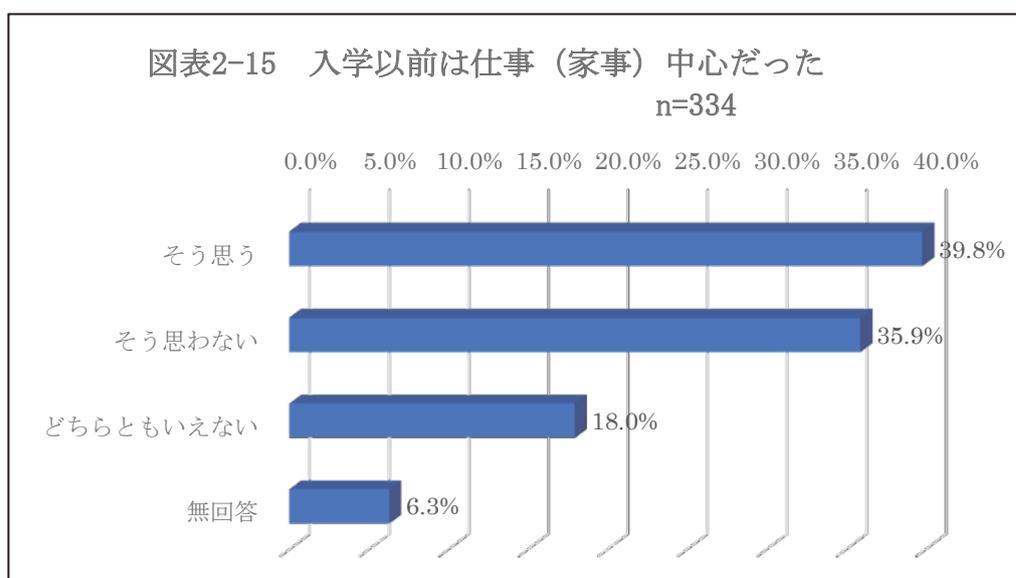
（9）CC大学入学以前と以後の意識について

CC大学入学以前と以後の意識について、次の10項目について尋ねた。

① 入学以前は仕事（家事）中心だったかどうか

まず、入学以前は仕事（家事）中心であったかどうかについての意識を尋ねた（図表 2-15）。

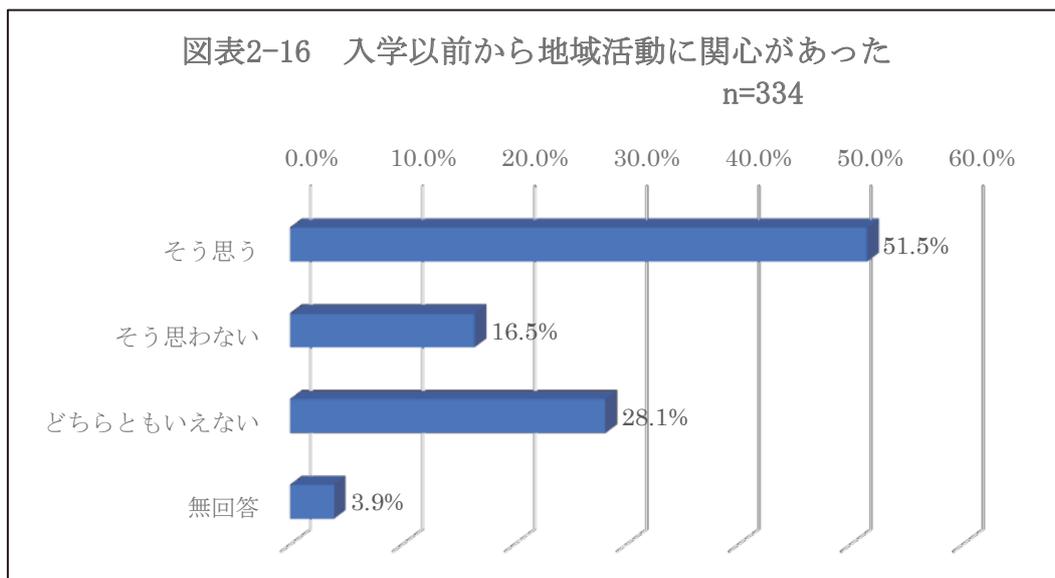
「そう思う」が39.8%、「そう思わない」が35.9%、「どちらともいえない」が18.0%となっている。



入学以前は仕事（家事）中心だったと思う人がとそうでない人とは、どちらもほぼ4割となっている。

② 入学以前から地域活動に関心があったかどうか

入学以前から地域活動に関心があったかどうかについては（図表 2-16）、「そう思う」が 51.5%となっている。他方、「そう思わない」が 16.5%、「どちらともいえない」が 28.1%であった。

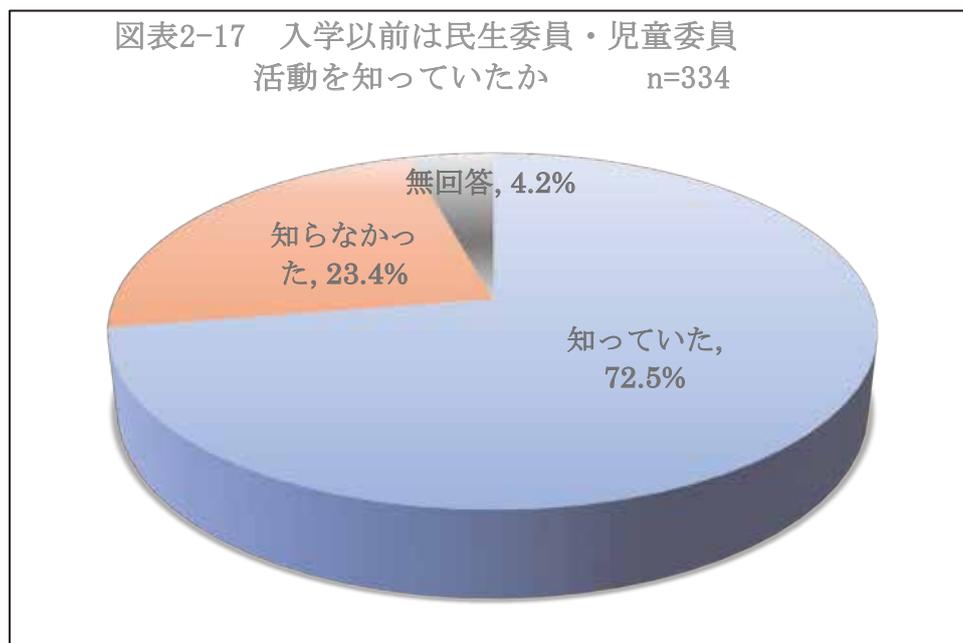


入学以前から地域活動に関心があった人が全体の半数を占めており、地域活動への意識が高い人が多い。

③ 入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうか

入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうかについては（図表 2-17）、「知っていた」が 72.5%、「知らなかった」が 23.4%であった。

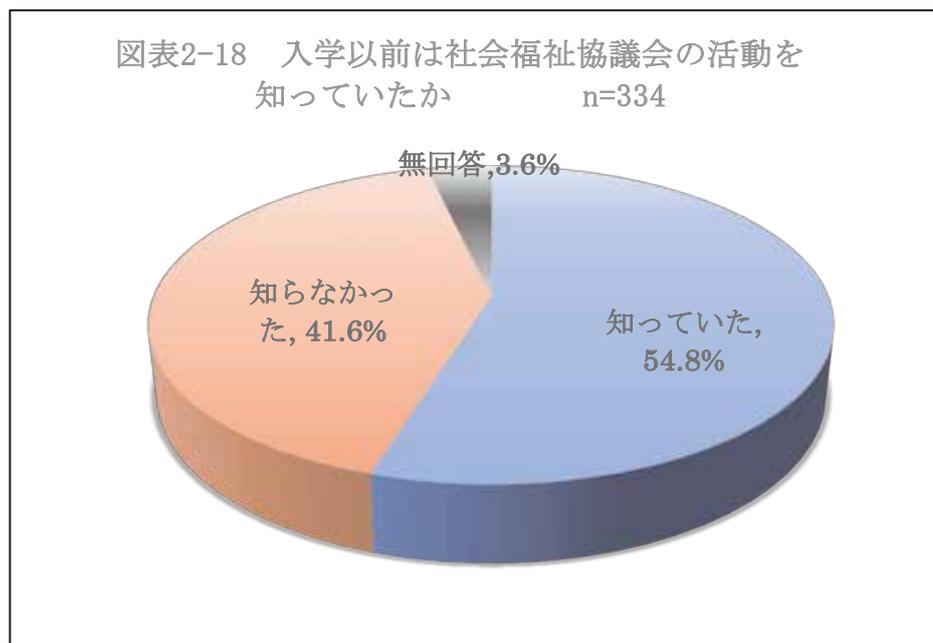
民生委員・児童委員活動を知っていた人が 7 割をも超えていることは、注目に値する。



④ 入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたかどうか

社会福祉協議会の活動についてはどうか（図表2-18）。入学以前、その活動を「知っていた」は54.8%、「知らなかった」は41.6%であった。

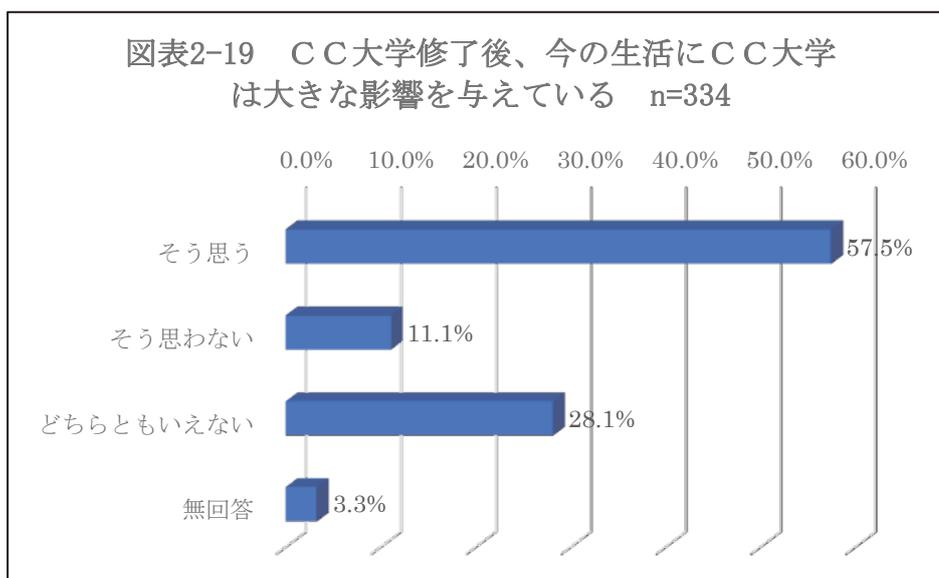
民生委員・児童委員活動よりは、社会福祉協議会活動の認知度は低いですが、それでも5割半となっている。



⑤ CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうか

CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうかについては（図表2-19）、「そう思う」が57.5%、「そう思わない」が11.1%となっている。

このように、CC大学修了後の今、CC大学は、全体の6割の人に大きな影響を与えている。

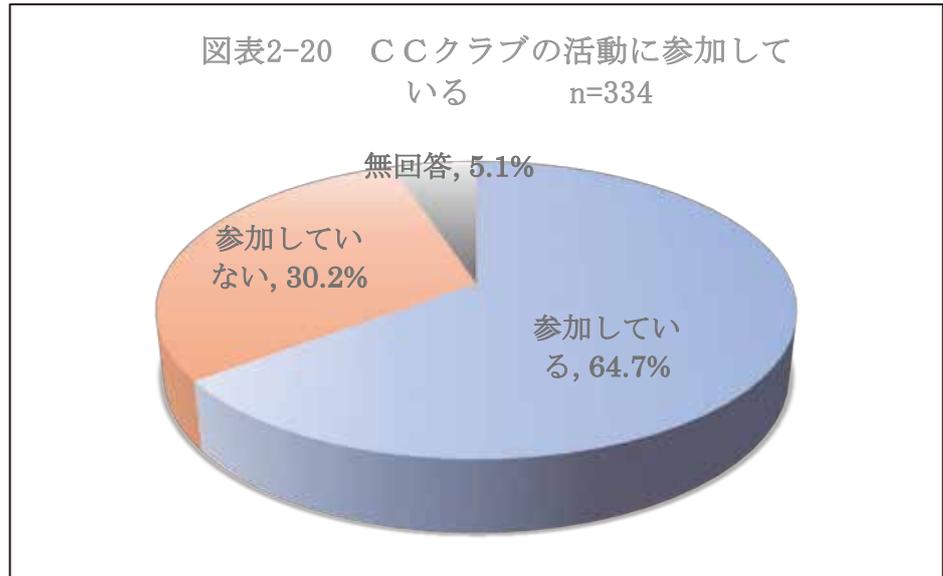


⑥ CCクラブの活動に参加しているかどうか

CCクラブは、いまや、活動の規模と種類で大きな発展をしてきている。

図表 2-20 は、CCクラブの活動に参加しているかどうかについて尋ねたものである。「参加している」が 64.7%、「参加していない」が 30.2%となっている。

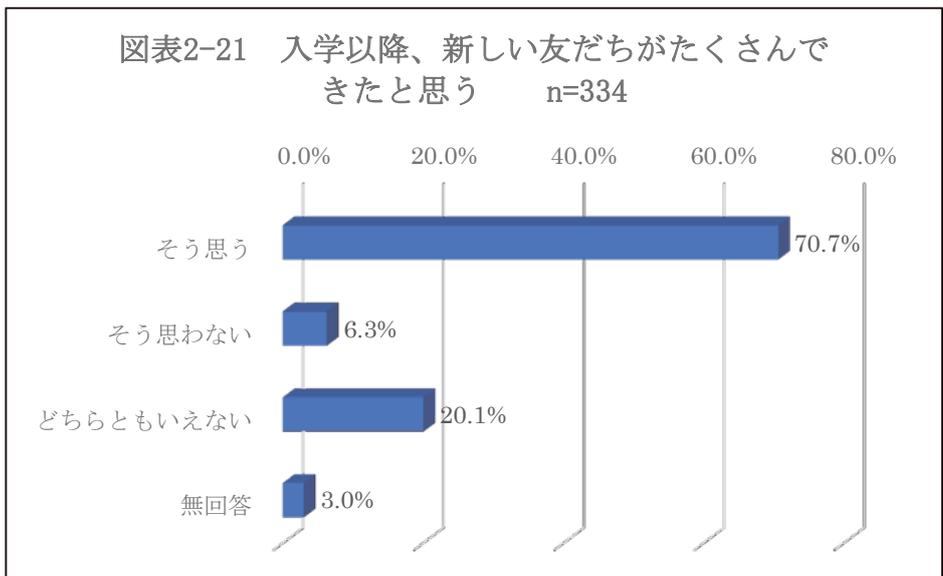
今回、回答してくれた人の中で、実に 6 割半が CCクラブの活動に参加している。



⑦ 入学以降、新しい友だちがたくさんできたかどうか

CC大学入学以降、新しい友だちができたかどうかについては（図表 2-21）、「そう思う」が 70.7%、「そう思わない」が 6.3%であった。

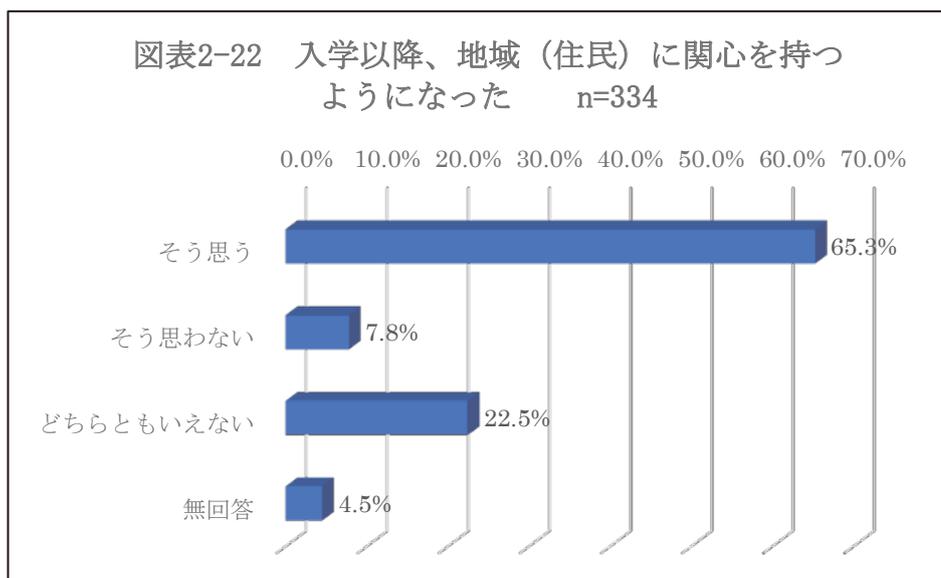
CC大学は、これまでのネットワークとは異なる新しい人間関係を形成してきており、7割の人がそう思っている。地域ネットワークの形成に非常に大きな役割を占めてきている。



⑧ 入学以降、地域（住民）に関心を持つようになったかどうか

CC大学入学以降、地域や地域住民に関心を持つようになったかどうかについては（図表2-22）、「そう思う」が65.3%、「そう思わない」が7.8%であった。

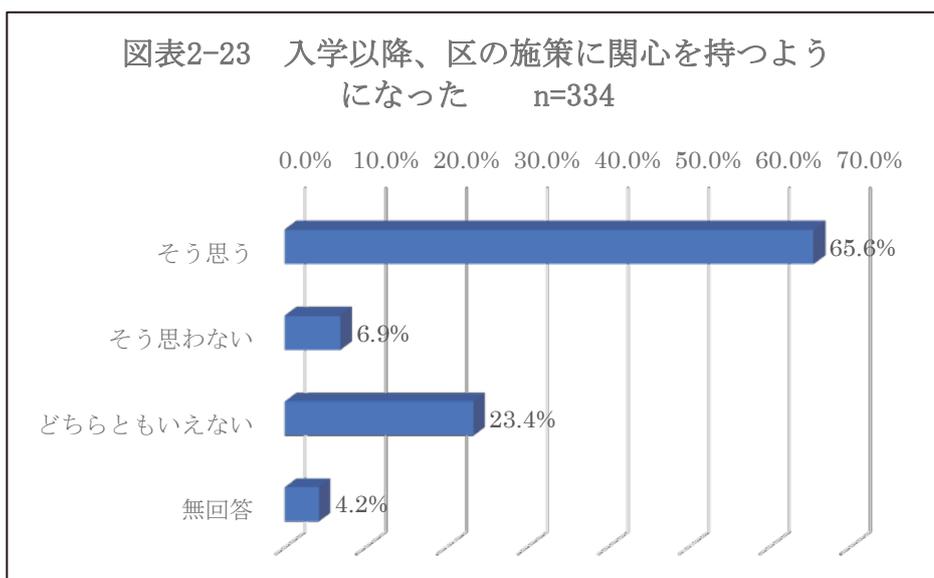
全体の6割半の人が、以前より地域や地域住民に関心を持つようになっている。



⑨ 入学以降、区の施策に関心を持つようになったかどうか

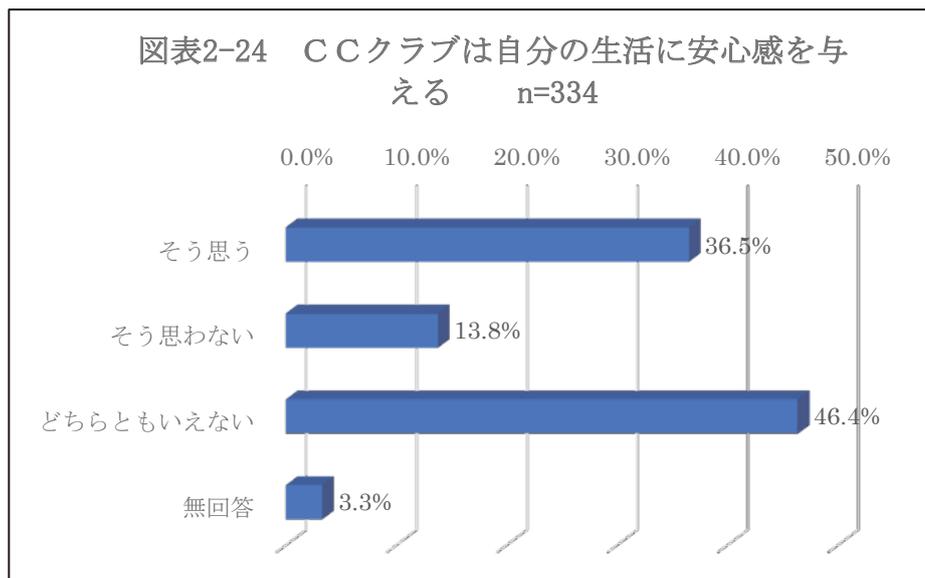
CC大学入学以降、港区の施策に関心を持つようになったかどうかについては（図表2-23）、「そう思う」が65.6%、「そう思わない」が6.9%であった。

前の設問⑧と同様、全体の6割半の人が港区の施策に以前より関心を持つようになっている。実際に、区の委員会その他の活動に参加・協力している人が増えてきている。



⑩ CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかどうか

CC大学入学以前と以後の意識についての設問の最後は、CCクラブの存在が自分にどのような意識的位置を与えているかを尋ねた。図表 2-24 の通り、「自分の生活に安心感を与える」かどうかについては、「そう思う」が 36.5%、「そう思わない」が 13.8%となっている。CCクラブの全体の 4 割の人にとって、CCクラブが「安心感」を与える存在となっている。



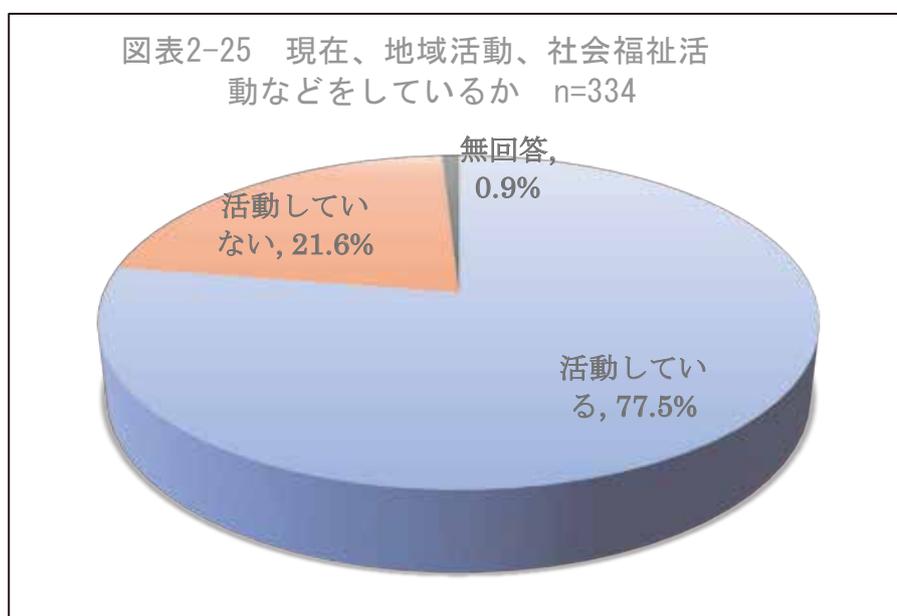
(10) 地域活動、社会福祉活動について

さて、CCクラブ会員が、どのような地域活動、社会福祉活動をしているかを見てみたい。以下、活動の有無、活動していない場合の理由、活動の拠点そして活動内容等について見ていこう。

① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうか

まず、地域活動、社会福祉活動をしているかどうかをみよう。図表 2-25 のとおり、「活動している」が 77.5%、「活動していない」が 21.6%となっている。

全体の8割近い人が地域活動、社会福祉活動をしている。



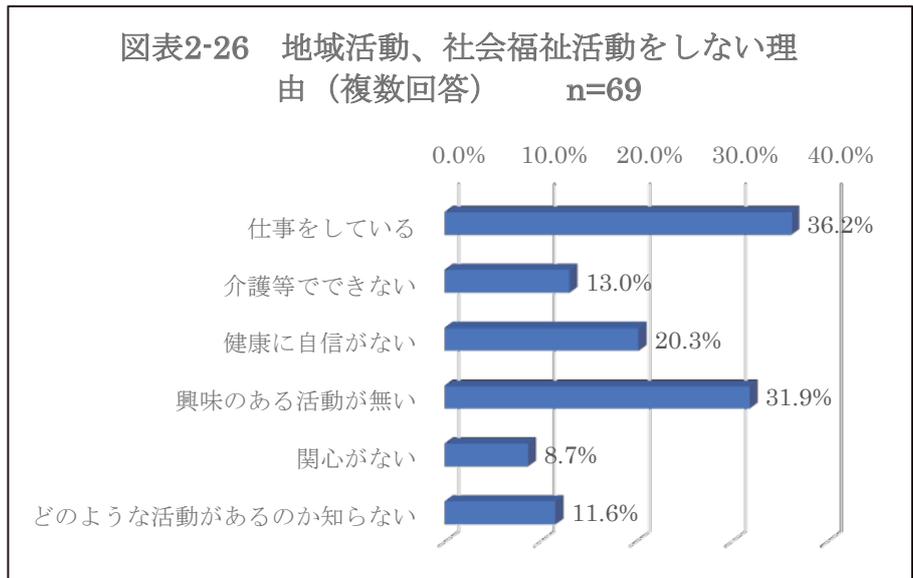
② 地域活動、社会福祉活動をしない理由

他方、地域活動、社会福祉活動をしていない人に、その理由を尋ねた(図表 2-26、複数回答)。

最も多いものが、「仕事をしている」で、36.2%、次いで「興味のある活動が無い」が 31.9%、「健康に自信がない」が 20.3%、「介護等でできない」が 13.0%となっている。

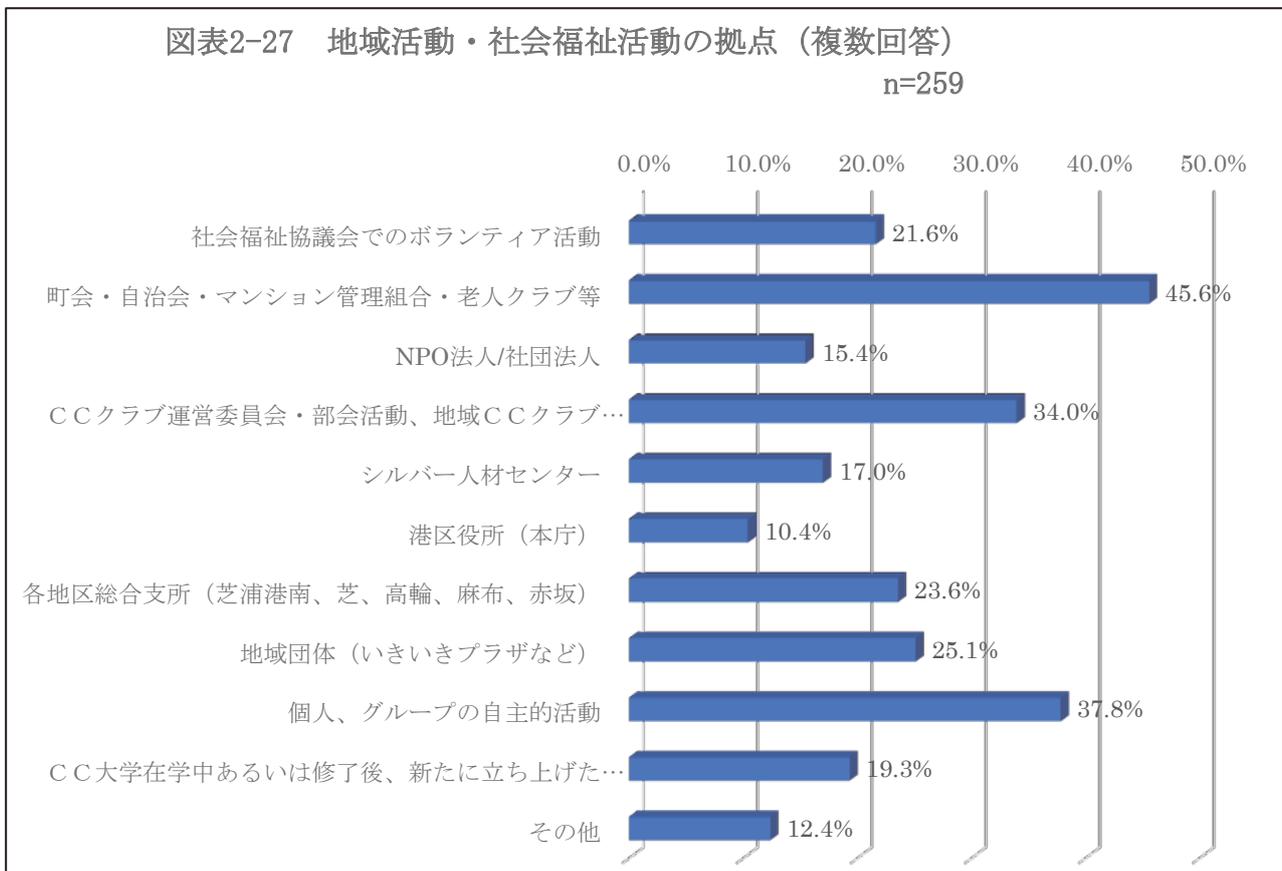
なお、「どのような活動があるのか知らない」が 11.6%となっている。

活動への参加を促進する方策を考える際、「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた 4 割の人々への働きかけの方法を考える必要がある。



③ 現在の地域活動、社会福祉活動の拠点

図表 2-27 は、現在、あるいは過去 2~3 年も含めた地域活動、社会福祉活動の拠点について答えてもらったものである (複数回答)。



活動拠点として最も高い割合のものは、「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」で、45.6%、次いで「個人、グループの自主的活動」が37.8%、「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が34.0%となっている。

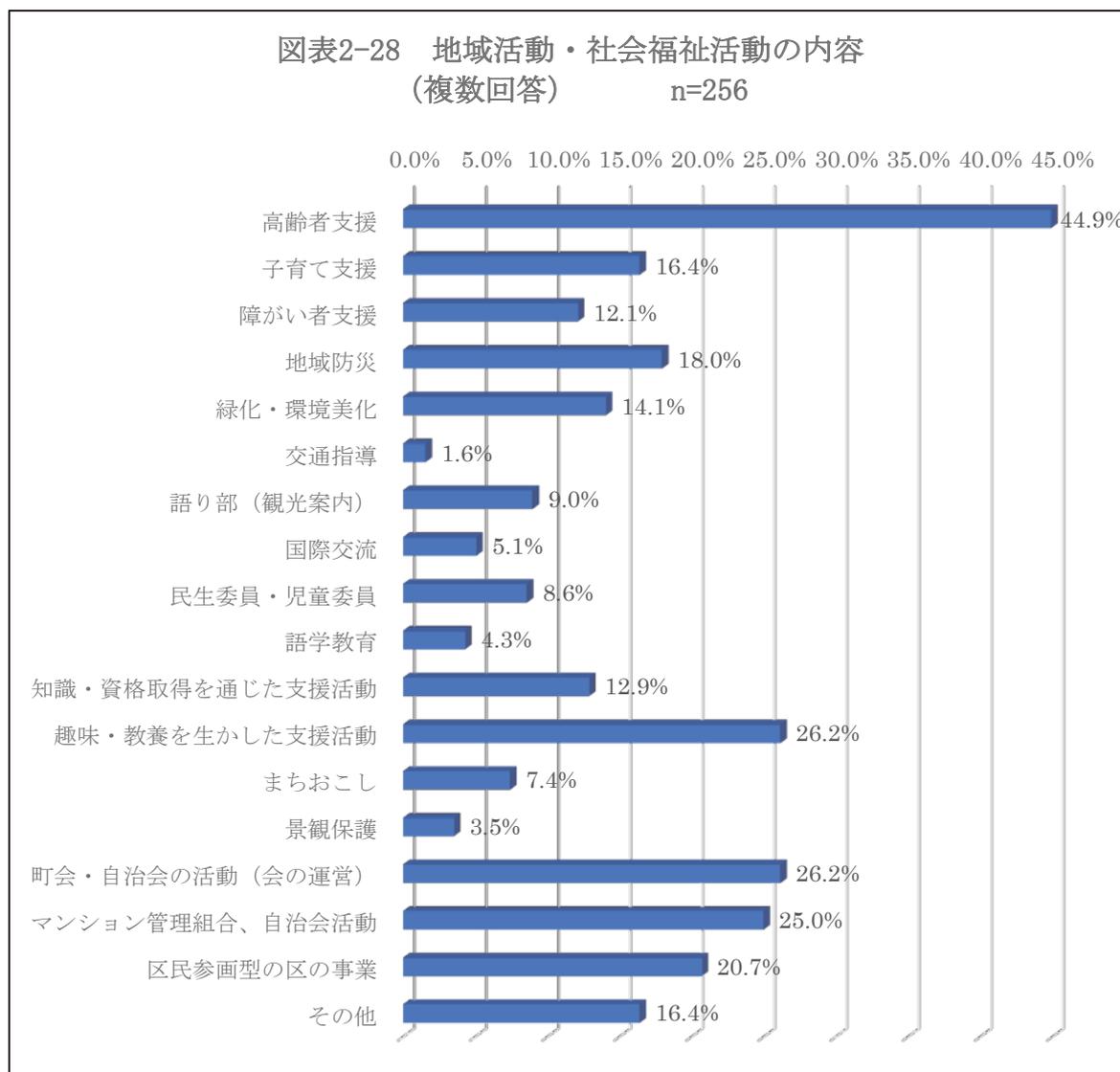
「港区役所（本庁）」が10.4%、「各地区総合支所」が23.6%となっている。また、「社会福祉協議会でのボランティア活動」は21.6%、「NPO法人/社団法人」は15.4%、「地域団体（いきいきプラザなど）」が25.1%であった。

以上のように、CCクラブ会員は、多様な拠点で活動を展開している。

④ 地域活動、社会福祉活動の内容

では、その活動内容はどのようなものか。図表2-28（複数回答）によって見てみよう。

地域活動、社会福祉活動で最も割合が高いものは、「高齢者支援」で44.9%となっている。



次いで、「趣味・教養を生かした支援活動」と「町会・自治会の活動（会の運営）」がともに26.2%、「マンション管理組合、自治会活動」が25.0%、「区民参画型の区の事業」が20.7%、「子育て支援」が16.4%、「障がい者支援」が12.1%、「民生委員・児童委員」が8.6%、「地域防災」が18.0%、「緑化・環境美化」が14.1%となっている。

分野別には、高齢者領域が最も高い割合を占めているが、子ども関係、障がい者関係も1割強から1割半を占めている。

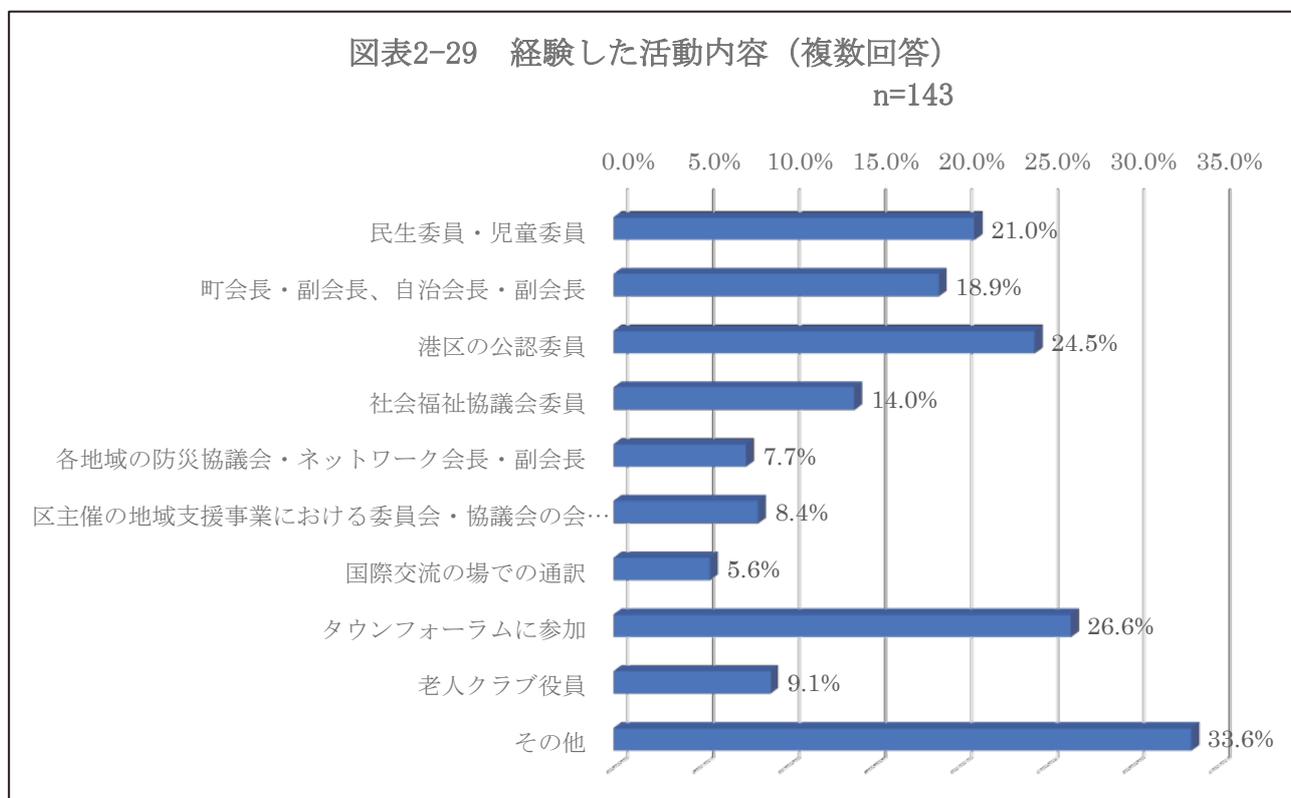
民生委員・児童委員については、港区では欠員の地区がまだあり、補充の課題があるが、すでに1割弱の人が民生委員・児童委員として活動している。ただし、CC大学は、民生委員・児童委員をしている人は、優先枠をもっており、CC大学入学以前から民生委員・児童委員をしている人が年間数名いる。とはいえ、CC大学修了後に民生委員・児童委員になっている人が出て来ており、港区の民生委員・児童委員活動に一定の貢献をしてきている。今後も民生委員・児童委員の担い手としてCCクラブへの期待は大きい。

そのほか、区民参画型の区の事業に関わっている人が2割いる。地域活動では、町会・自治会あるいはマンション管理組合・自治会でそれぞれ2割半となっている。

CCクラブのメンバーは、いろいろな知識、教養を持っており、それらを生かした活動が1割から2割半に及ぶ。また、地域防災にも2割弱関わっている。

⑤ これまで経験した活動内容

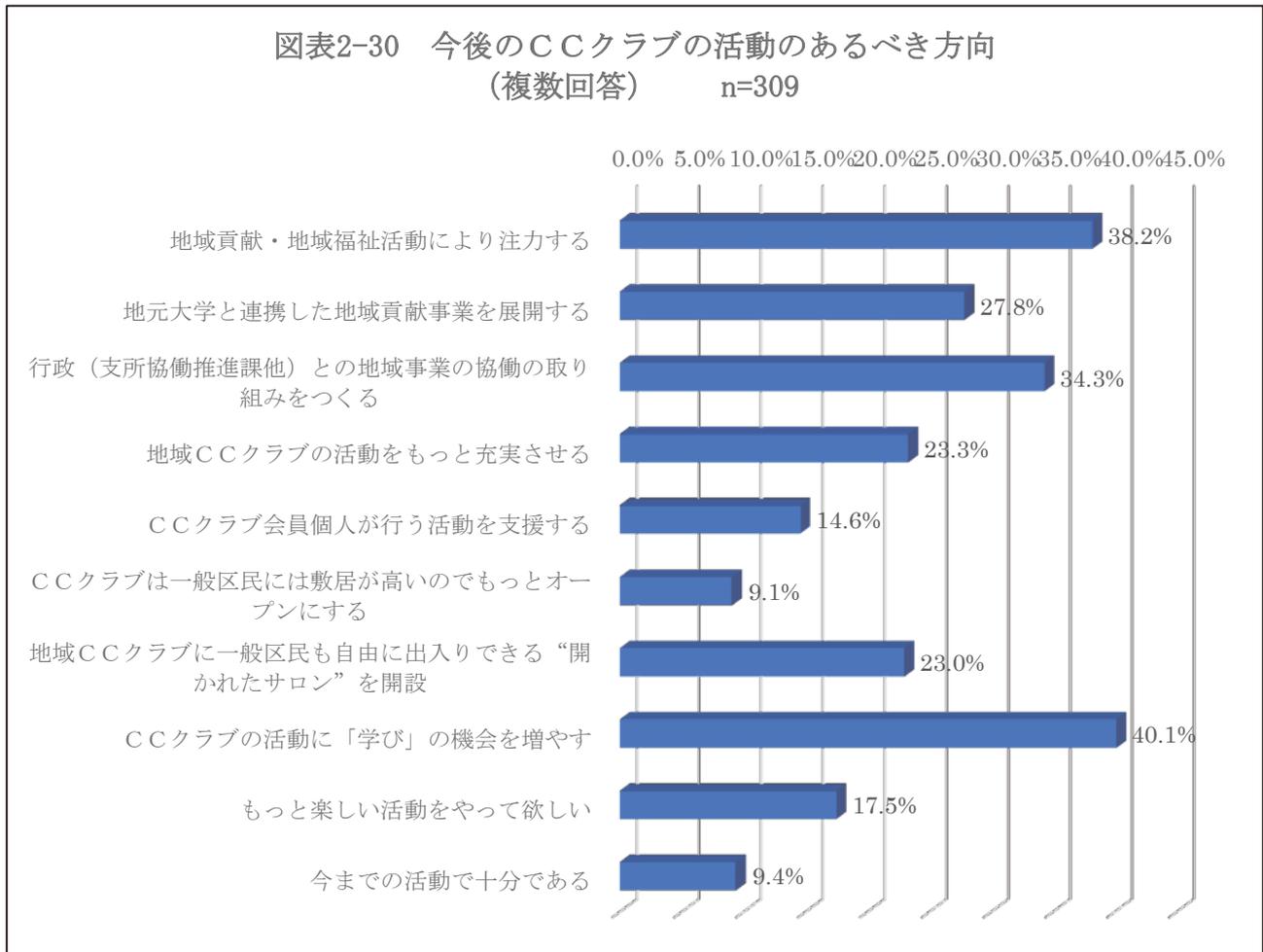
図表2-29は、CCクラブ会員が、これまで経験した活動内容である（複数回答）。最も割合が高いものが「タウンフォーラムに参加」で26.6%、次いで「港区の公認委員」が24.5%、「民生委員・児童委員」が21.0%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が18.9%、「社会福祉協議会委員」が14.0%、「老人クラブ役員」が9.1%、「区主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長等」が8.4%となっている。「その他」が多いが、CCクラブ会員が、ここに挙げた活動内容以外の多様な活動に参加しているからである。この点についての詳細は、41頁の「4 調査の結果 その3」の活動内容実態調査の分析結果を参照していただきたい。



(11) CCクラブの今後の活動について

①今後のCCクラブの活動のあるべき方向

図表 2-30 は、今後のCCクラブの活動のあるべき方向について尋ねた結果である。複数回答であるが、最も割合が高いものが、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」で40.1%、次いで「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が38.2%、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が34.3%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が27.8%となっている。



その他としては、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が23.3%となっている。CCクラブは、区全体活動以外に、現在、行政の総合支所の地域を基礎に地域ごとのCCクラブの組織を持っている。それは、「芝CCクラブ」（芝地区総合支所地域）、「明虹会」（芝浦港南地区総合支所地域）、「高輪地区CCクラブ」（高輪総合支所地域）、「3Aクラブ」（赤坂・麻布地区総合支所地域）の4つの地域組織である。これらの組織は、連絡協議会の機能も持っており、地域ごとの組織の連携を図る場、地域活動の拠点でもある。

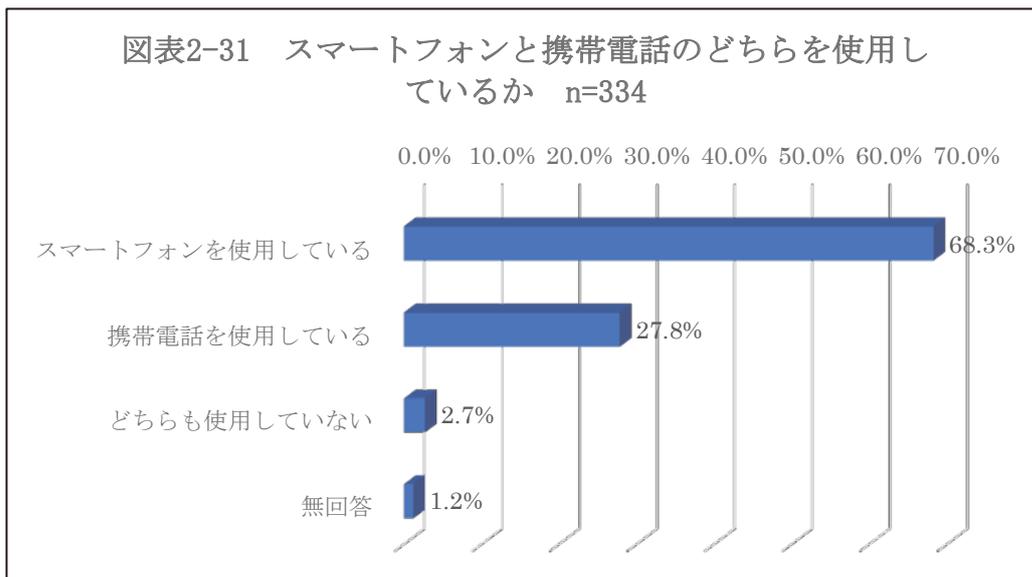
なお、「CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする」が9.1%あるが、これまでCCクラブは、CC大学の修了生で主に構成されてきたが、今後の方向として、この意見は検討すべき意見であろう。

② 携帯電話をはじめとしたモバイル環境について

CCクラブは、月1回、運営委員会を開催し、全体活動を進めてきている。運営委員会から、或いは会員同士の情報交換の媒体として、モバイル環境、SNS等の利用は有効であろうとの考えから、CCクラブ会員のモバイル環境について尋ねた。

1) スマートフォンと携帯電話のどちらを使用しているか

「スマートフォンを使用している」が68.3%、「携帯電話を使用している」が27.8%、「どちらも使用していない」が2.7%であった(図表2-31)。



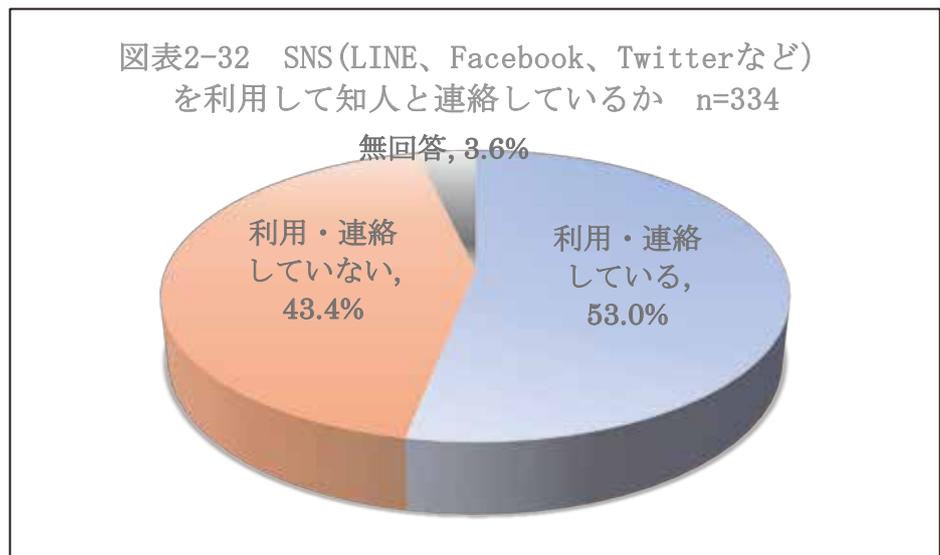
2) SNS(LINE、Facebook、Twitterなど)を利用して知人と連絡しているか

いま、LINE、Facebook、TwitterなどSNSを利用する人が増えてきているが、CCクラブの会員がどの程度利用しているかは不明であった。そこで、この質問をした。

結果は、図表2-32の通り、「利用・連絡している」が53.0%、「利用・連絡していない」が43.4%であった。

このように、利用・連絡

しているか否かは、利用・連絡しているが若干多いものの、全体的にはほぼ半々であった。



3) SNS を使ってCCクラブのホームページに投稿出来るようにして、連絡・コメント等で利用したいか

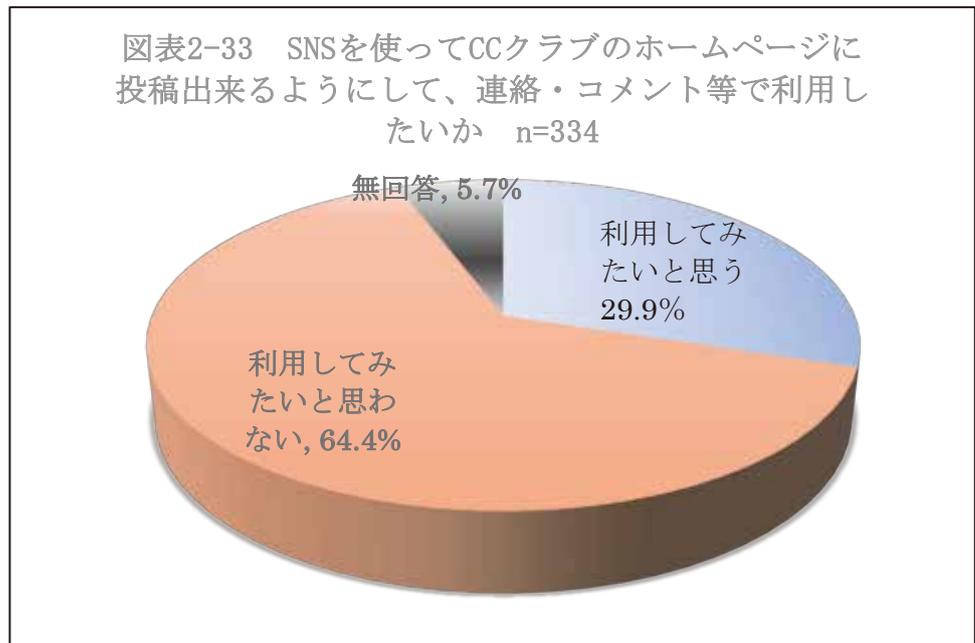
CCクラブは、充実したホームページを開設し、発信している (<http://www.minato-ccc.jp/>)。

このホームページは、社会への発信と同時に、CCクラブメンバー間の情報交換も行っている。

そこで、最後に、「SNS を使ってCCクラブのホームページに投稿出来るようにして、連絡・コメント等で利用した

いか」どうかを尋ねた (図表 2-33)。

その結果、「利用してみたいと思う」が 29.9%、「利用してみたいと思わない」が 64.4%であった。利用したいと考える人は、全体の 3 割であった。



3 調査の結果 その2—クロス集計

次に、すでに述べてきた基本集計を基礎に若干のクロス集計を行いたい。ただし、本調査の回収ケース数と多岐にわたる選択肢を持つ設問の限界から、有意なクロスは限られている。そこで、性別を基軸にCCクラブ会員の諸活動を中心に見ていこう。

(1) 男女別年齢階層

まず、男女別に年齢階層を見てみよう(図表3-1)。まず女性の場合、最も割合が高い年齢階層は「65歳～69歳」の36.9%で、次に「70歳～74歳」が29.0%、「75歳～79歳」が19.9%となっている。男性の場合は、「70歳～74歳」が41.7%と最も多く、次いで「75歳～79歳」が24.4%、「65歳～69歳」が22.8%となっている。

このように、女性の方が、若い層の割合が高いことが分かる。

図表 3-1 男女別年齢(年齢階層)

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
55歳～59歳	2	1.1%	0	0.0%	2	.7%
60歳～64歳	13	7.4%	3	2.4%	16	5.3%
65歳～69歳	65	36.9%	29	22.8%	94	31.0%
70歳～74歳	51	29.0%	53	41.7%	104	34.3%
75歳～79歳	35	19.9%	31	24.4%	66	21.8%
80歳～84歳	8	4.5%	9	7.1%	17	5.6%
85歳以上	2	1.1%	2	1.6%	4	1.3%
合計	176	100.0%	127	100.0%	303	100.0%

注：無回答を除く。

(2) 居住地区別男女

次に居住地区別に男女を見てみると(図表3-2)、全体では女性が6割を占めるが、居住地区別には赤坂地区と麻布地区では女性が7割近く、芝地区と高輪地区は6割程度、芝浦港南地区では男女比が半々となっている。

図表 3-2 居住地区別男女

	芝浦港南地区		芝地区		高輪地区		麻布地区		赤坂地区		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
女性	26	52.0%	33	62.3%	89	58.9%	24	66.7%	21	67.7%	193	60.1%
男性	24	48.0%	20	37.7%	62	41.1%	12	33.3%	10	32.3%	128	39.9%
合計	50	100.0%	53	100.0%	151	100.0%	36	100.0%	31	100.0%	321	100.0%

注：区外、無回答を除く。

(3) 男女別「CC大学への入学動機」

CC大学への入学動機（複数回答）として、まず、男女とも「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」がともに4割弱で最も割合が高い（図表3-3）。女性の場合、次は「CC大学修了生に勧められた」が34.2%、次いで「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が32.7%、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深掘りを目指した」が26.0%、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が21.4%となっている。

次に男性の場合、一番割合が高い「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」に次いで割合が大きいものは、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が30.8%、「CC大学修了生に勧められた」が25.4%、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が23.8%となっている。

男女で差が出ているのは、「家人の勧め」「自分の居場所を求めて」の項目で、「家人の勧め」は男性の方の割合が女性より高く、「自分の居場所を求めて」はその逆である。

図表 3-3 男女別「CC大学への入学動機(複数回答)」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ	42	21.4%	31	23.8%	73	22.4%
CC大学修了生に勧められた	67	34.2%	33	25.4%	100	30.7%
家人の勧め	9	4.6%	17	13.1%	26	8.0%
知人・友人の勧め	17	8.7%	8	6.2%	25	7.7%
暇をもて余しているから	2	1.0%	11	8.5%	13	4.0%
すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深掘りを目指した	51	26.0%	22	16.9%	73	22.4%
同じ志を持つ仲間を求めた	16	8.2%	20	15.4%	36	11.0%
自分の居場所を求めて	20	10.2%	9	6.9%	29	8.9%
港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから	75	38.3%	51	39.2%	126	38.7%
明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて	22	11.2%	9	6.9%	31	9.5%
自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから	64	32.7%	40	30.8%	104	31.9%
民生委員・児童委員として	17	8.7%	4	3.1%	21	6.4%
その他	25	12.8%	13	10.0%	38	11.7%
合計	196	100.0%	130	100.0%	326	100.0%

$\chi^2=38.166$ 自由度=10 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

※クロス集計のうち、複数回答の縦の合計は人数で、ケース数の合計ではありません。

(4) 男女別「入学以前は仕事(家事)中心だったか」

「入学以前は仕事(家事)中心だったか」について男女別に見ると（図表3-4）、「そう思う」と答えた男性は50.8%、女性は37.7%と男性の方が13.1ポイント大きい。

図表 3-4 男女別「入学以前は仕事(家事)中心だったか」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
そう思う	69	37.7%	62	50.8%	131	43.0%
そう思わない	79	43.2%	37	30.3%	116	38.0%
どちらともいえない	35	19.1%	23	18.9%	58	19.0%
合計	183	100.0%	122	100.0%	305	100.0%

$\chi^2=6.108$ 自由度=2 $p=0.047^*$ * $p<0.05$

注：無回答を除く。

(5) 男女別「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」

「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」については（図表 3-5）、「知っていた」が女性で 81.4%であるのに対し、男性は 66.1%と、女性の方が民生委員・児童委員活動への認識が高い。

図表 3-5 男女別「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
知っていた	153	81.4%	82	66.1%	235	75.3%
知らなかった	35	18.6%	42	33.9%	77	24.7%
合計	188	100.0%	124	100.0%	312	100.0%
$\chi^2=9.353$ 自由度=1 p=0.02* *p<0.05						

注：無回答を除く。

(6) 男女別「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」

「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」については（図表 3-6）、「知っていた」が女性の場合は 63.0%であるのに対し、男性は 46.7%と、女性の方が社会福祉協議会の活動を以前から知っている。

図表 3-6 男女別「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
知っていた	121	63.0%	57	46.7%	178	56.7%
知らなかった	71	37.0%	65	53.3%	136	43.3%
合計	192	100.0%	122	100.0%	314	100.0%
$\chi^2=80.72$ 自由度=1 p=0.04* *p<0.05						

注：無回答を除く。

(7) 男女別「地域活動、社会福祉活動の内容」

参加している地域活動、社会福祉活動については（複数回答、図表 3-7）、女性の場合、「高齢者支援」が 54.2%と最も割合が高い。次いで「趣味・教養を生かした支援活動」が 26.5%、「町会・自治会の活動（会の運営）」が 25.2%、「マンション管理組合、自治会活動」が 21.3%、「区民参画型の区の事業」が 20.0%と続く。

男性の場合、最も割合が高いのは「マンション管理組合、自治会活動」で 31.6%、次いで「高齢者支援」が 29.5%、「地域防災」が 26.3%、「町会・自治会の活動（会の運営）」が 25.3%、「趣味・教養を生かした支援活動」が 24.2%、「区民参画型の区の事業」が 22.1%と続く。

男女で大きな差は、女性で「高齢者支援」活動に関わる割合が男性より高いこと、「民生委員・

児童委員」になっている割合は、女性が5.7ポイント大きい。反対に男性の場合、「地域防災」に関わる割合が高い。男女で13.4ポイントの差がある。また「マンション管理組合、自治会活動」でも男性が多く、女性との差は10.3ポイントとなっている。

「区民参画型の区の事業」については、男女で差はなく、ともに2割の人が関わっている。

図表 3-7 男女別「地域活動、社会福祉活動の内容(複数回答)」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
高齢者支援	84	54.2%	28	29.5%	112	44.8%
子育て支援	28	18.1%	12	12.6%	40	16.0%
障がい者支援	20	12.9%	11	11.6%	31	12.4%
地域防災	20	12.9%	25	26.3%	45	18.0%
緑化・環境美化	23	14.8%	12	12.6%	35	14.0%
交通指導	2	1.3%	2	2.1%	4	1.6%
語り部(観光案内)	10	6.5%	11	11.6%	21	8.4%
国際交流	10	6.5%	3	3.2%	13	5.2%
民生委員・児童委員	17	11.0%	5	5.3%	22	8.8%
語学教育	10	6.5%	1	1.1%	11	4.4%
知識・資格取得を通じた支援活動	19	12.3%	14	14.7%	33	13.2%
趣味・教養を生かした支援活動	41	26.5%	23	24.2%	64	25.6%
まちおこし	8	5.2%	9	9.5%	17	6.8%
景観保護	1	.6%	6	6.3%	7	2.8%
町会・自治会の活動(会の運営)	39	25.2%	24	25.3%	63	25.2%
マンション管理組合、自治会活動	33	21.3%	30	31.6%	63	25.2%
区民参画型の区の事業	31	20.0%	21	22.1%	52	20.8%
その他	22	14.2%	19	20.0%	41	16.4%
合計	155	100.0%	95	100.0%	250	100.0%

$\chi^2=47.461$ 自由度=18 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

(8) 男女別「経験した活動内容」

これまで経験した活動(複数回答)を男女別に見ると(図表3-8)、女性の場合、最も割合が高い活動は「民生委員・児童委員」で27.7%、次いで「タウンフォーラムに参加」が19.3%、「港区の公認委員」が18.1%、「社会福祉協議会委員」が14.5%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が13.3%、「老人クラブ役員」が12.0%となっている。

男性の場合、最も割合が高い活動は、「タウンフォーラムに参加」で36.7%、次いで「港区の公認委員」が33.3%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が26.7%、次に「社会福祉協議会委員」「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」そして「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」の3つがともに13.3%となっている。

男女で大きな差は、女性で「民生委員・児童委員」、「老人クラブ役員」となった経験がある人が男性より多い。他方、男性については、「町会長・副会長、自治会長・副会長」、「港区の公認委員」、「タウンフォーラムに参加」の項目で女性より割合が高い。

図表 3-8 男女別「経験した活動内容(複数回答)」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
民生委員・児童委員	23	27.7%	7	11.7%	30	21.0%
町会長・副会長、自治会長・副会長	11	13.3%	16	26.7%	27	18.9%
港区の公認委員	15	18.1%	20	33.3%	35	24.5%
社会福祉協議会委員	12	14.5%	8	13.3%	20	14.0%
各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長	3	3.6%	8	13.3%	11	7.7%
本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長	4	4.8%	8	13.3%	12	8.4%
国際交流の場での通訳	5	6.0%	3	5.0%	8	5.6%
タウンフォーラムに参加	16	19.3%	22	36.7%	38	26.6%
老人クラブ役員	10	12.0%	3	5.0%	13	9.1%
その他	33	39.8%	15	25.0%	48	33.6%
合計	83	100.0%	60	100.0%	143	100.0%

$\chi^2=32.801$ 自由度=10 $p=0.000^*$ * $p<0.05$

(9) 男女別「今後のCCクラブの活動のあるべき方向」

最後に、「今後のCCクラブの活動のあるべき方向」について男女別にみると(図表 3-9、複数回答)、女性の場合、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」が42.2%と最も割合が高い。次いで「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が35.6%、「行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる」が32.2%、「地域CCクラブに一般区民も自由に出入りできる“開かれたサロン”を開設」が27.8%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が27.2%となっている。

男性の場合は、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が41.8%と最も割合が高い。ついで、「行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる」が36.9%、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」が35.2%、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が28.7%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が27.0%となっている。

女性と男性での違いが大きいのは、「地域CCクラブに一般区民も自由に出入りできる“開かれたサロン”を開設」で、女性の方が12.2ポイント大きい。また「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」については、男性の方が9.3ポイント大きい。

図表 3-9 男女別「今後のCCクラブの活動のあるべき方向(複数回答)」

	女性		男性		合計	
	ケース数	%	ケース数	%	ケース数	%
地域貢献・地域福祉活動により注力する	64	35.6%	51	41.8%	115	38.1%
地元大学と連携した地域貢献事業を展開する	49	27.2%	33	27.0%	82	27.2%
行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる	58	32.2%	45	36.9%	103	34.1%
地域CCクラブの活動をもっと充実させる	35	19.4%	35	28.7%	70	23.2%
CCクラブ会員個人が行う活動を支援する	21	11.7%	24	19.7%	45	14.9%
CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする	14	7.8%	13	10.7%	27	8.9%
地域CCクラブに一般区民も自由に出入りできる“開かれたサロン”を開設	50	27.8%	19	15.6%	69	22.8%
CCクラブの活動に「学び」の機会を増やす	76	42.2%	43	35.2%	119	39.4%
もっと楽しい活動をやって欲しい	21	11.7%	31	25.4%	52	17.2%
今までの活動で十分である	19	10.6%	10	8.2%	29	9.6%
合計	180	100.0%	122	100.0%	302	100.0%

$\chi^2=27.540$ 自由度=10 $p=0.002^*$ * $p<0.05$

4 調査の結果 その3－活動内容実態集計

(1) 活動内容実態調査の概要

1) 活動内容実態調査の目的

今回の「チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査」では、CCクラブ会員の活動の実態をより具体的に把握するために調査票別表（8頁）で活動内容等8項目について記載を求めた。この各項目への回答者は調査票回答者336名中185名、55.1%であったことを付け加える。

以下この活動内容についての集計・分析結果である。なお、集計・分析については地域連携部会が中心となっており、河合克義先生の助言を頂き作成した。

2) 調査の方法について

別表（8頁）に記載する活動件数は5件を限度とし、1件ごとに具体的内容等8項目について記載を求めた。

8項目の内容は次の①から⑧とした。

①活動区分

- | | | |
|---------------------|---------------------------|--------------|
| 1. 高齢者支援 | 2. 子育て支援 | 3. 障がい者支援 |
| 4. 地域防災 | 5. 緑化・環境美化 | 6. 交通指導 |
| 7. 語り部（観光案内） | 8. 国際交流 | 9. 民生委員・児童委員 |
| 10. 語学教育 | 11. 知識・資格取得を通じた支援活動 | |
| 12. 趣味・教養を生かした支援活動 | 13. まちおこし | 14. 景観保護 |
| 15. 町会・自治会の活動（会の運営） | 16. マンション管理組合・自治会活動（会の運営） | |
| 17. 区民参画型の区の事業 | 18. その他 | |

②活動内容名称

③具体的な活動内容

④関連団体

⑤活動拠点

1. 社会福祉協議会でのボランティア活動
2. 町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等
3. NPO法人/社団法人
4. CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動
5. シルバー人材センター
6. 港区役所（本庁）
7. 各地区総合支所（芝浦港南、芝、高輪、麻布、赤坂）
8. 地域団体（いきいきプラザなど）
9. 個人、グループの自主的活動
10. CC大学在学中あるいは修了後新たに立ち上げた個人、グループ活動
11. その他

⑥活動地区

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1. 芝地区 | 2. 麻布地区 | 3. 赤坂地区 |
| 4. 高輪地区 | 5. 芝浦港南地区 | 6. その他 |

⑦活動頻度（平均月単位回数）

個人活動頻度を各活動内容ごとに記入

⑧参加者募集の有無

3) 回答者数

前述のように別表（8頁）への回答者数 185名は、調査票総回答者数 336名の 55.1%となる。

4) 回答総活動件数

回答のあった 185名の総活動件数は 488件で、一人当たり平均 2.6件（ $488/185=2.6$ 件/人）である。また、記入件数の内訳は以下の通りである。

図表 4-1 活動内容件数内訳

1件記入者	62名	33.5%
2件記入者	33名	17.8%
3件記入者	31名	16.8%
4件記入者	28名	15.1%
5件記入者	31名	16.8%
合計	185名	100.0%

(2) 活動グループ数

回答のあった様々な活動に参加している 185名の会員のグループ数は 297で、その人数は延べ 362名である。このなかには会員が個人で活動しているケース（例マンションの理事など）58名が含まれており、それを除いたグループ数は 239であり、延べ人数は 304名である。

(3) 活動内容(図表 4-2、図表 4-3 参照)

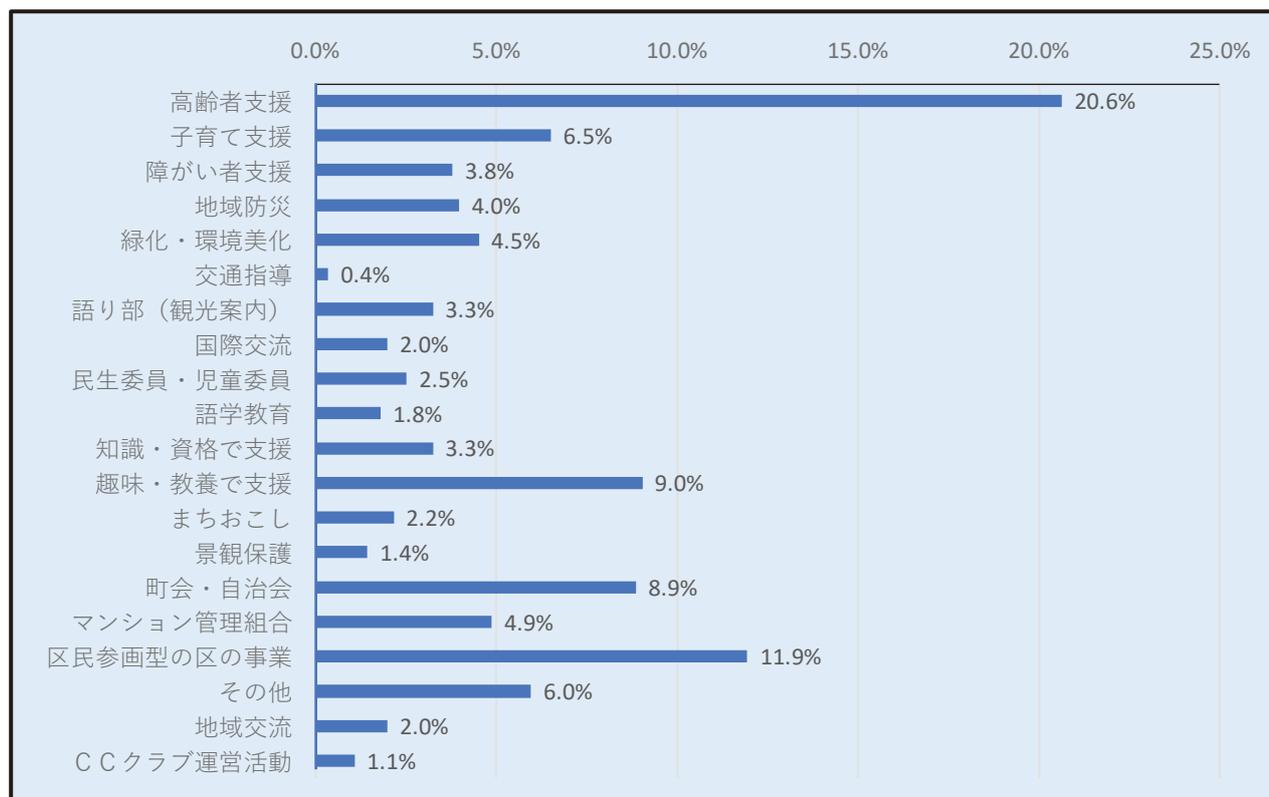
活動内容については、内容毎に 1~18の区分で表記するとしたが、そのうち、区分 18の「その他」の中で件数が多かった「地域交流カフェ」を 19、「CCクラブ運営活動」を 20とし、別区分として集計した。重複する内容についてはそれぞれで集計した。

最も多いのは「高齢者支援」の 114件で全体の 20.6%を占めた。次いで、「区民参画型の区の事業」で 66件（11.9%）、そして「趣味・教養を生かした支援活動」で 50件（9.0%）、「町会・自治会」活動の 49件（8.9%）、「子育て支援」36件（6.5%）である。「高齢者支援」の内訳では、サロン活動、介護施設訪問活動が多い。「区民参画型の区の事業」では各地区総合支所でのタウンミーティングへの参加が多くみられる。また、「趣味・教養を生かした支援活動」の中には複合回答として高齢者支援や子育て支援に生かしている会員もいる。「町会・自治会」活動と「マンション管理組合」活動を合計すると 76件（13.8%）となり、多くの会員が地域や生活居住環境に関する活動に参加している。

図表 4-2 活動内容区分件数表（複数回答あり、総件数 553 件）

	活動区分	件数		活動区分	件数
1	高齢者支援	114	11	知識・資格で支援	18
2	子育て支援	36	12	趣味・教養で支援	50
3	障がい者支援	21	13	まちおこし	12
4	地域防災	22	14	景観保護	8
5	緑化・環境美化	25	15	町会・自治会	49
6	交通指導	2	16	マンション管理組合	27
7	語り部（観光案内）	18	17	区民参画型の区の事業	66
8	国際交流	11	18	その他	33
9	民生委員・児童委員	14	19	地域交流	11
10	語学教育	10	20	CCクラブ運営活動	6
				合 計	553

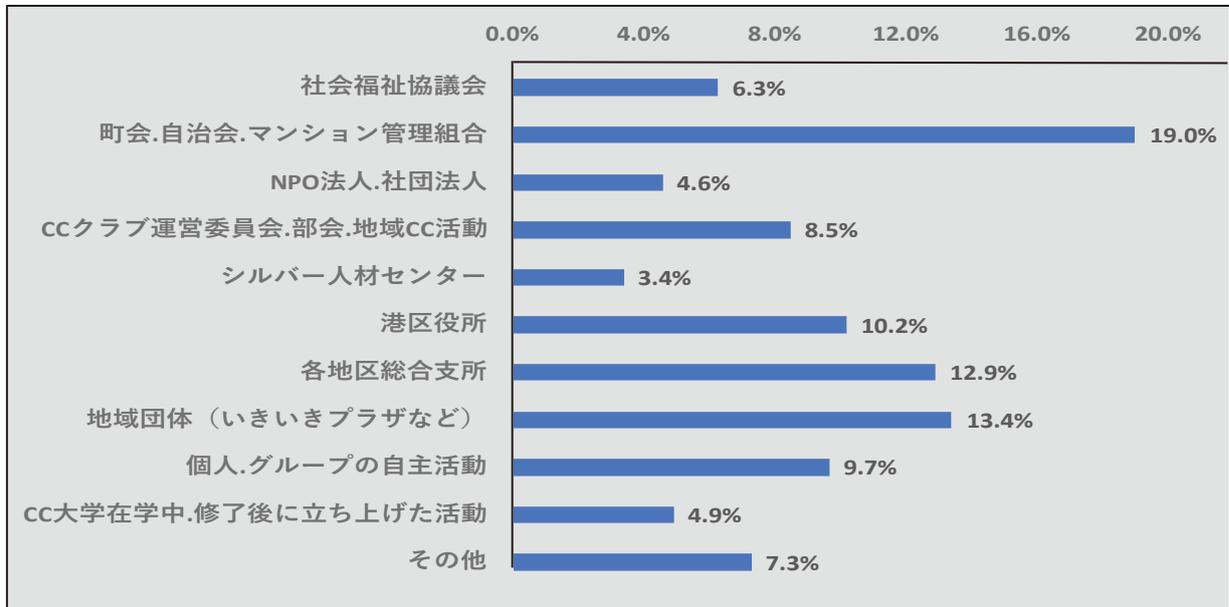
図表 4-3 活動内容区分別グラフ（構成比）



(4) 活動拠点 (図表 4-4 参照)

活動拠点については 11 の区分により記入を求めたが、最も多いのが「町会・自治会・マンション管理組合」で 112 件(19.0%)、次いで「地域団体(いきいきプラザなど)」で 79 件(13.4%)、「各地区総合支所」で 76 件 (12.9%)、「港区役所」60 件 (10.2%) および「個人・グループの自主活動」57 件 (9.7%) であった。

図表 4-4 活動拠点別グラフ (構成比、複数回答あり、総件数 590 件)



(5) 活動内容と活動拠点の関連について (図表 4-5 参照)

活動内容の一番多い「高齢者支援」でみると総件数 117 件の内、活動拠点は「地域団体 (いきいきプラザなど)」が 36 件、続いて「社会福祉協議会」が 19 件、「個人やグループの自主活動」が 18 件、「町会・自治会・マンション管理組合」が 16 件、そして「CCクラブ運営委員会・部会・地域CC活動」の 12 件となっている。

図表 4-5 活動内容と活動拠点の関連表 (複数回答あり、総件数 590 件)

活動区分	件数	社会福祉協議会	町会・自治会・マンション管理組合	NPO法人・社団法人	CCクラブ運営委員会・部会・地域CC活動	シルバー人材センター	港区役所	各地区総合支所	地域団体・いきいきプラザなど	個人グループの自主活動	CC大学在学中・修了後に立ち上げた活動	その他
1 高齢者支援	117	19	16	3	12	2	3	3	36	18	3	2
2 子育て支援	43	7	0	12	1	1	4	2	5	2	5	4
3 障がい者支援	21	1	0	2	5	0	1	1	0	5	1	5
4 地域防災	23	1	11	1	0	0	1	4	0	2	0	3
5 緑化・環境美化	26	0	4	0	7	2	0	8	0	4	1	0
6 交通指導	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7 語り部 (観光案内)	20	0	0	2	0	0	5	5	2	2	0	4
8 国際交流	10	0	0	3	0	1	2	1	0	1	0	2
9 民生委員・児童委員	26	2	0	0	0	0	14	10	0	0	0	0
10 語学教育	10	0	0	0	0	0	0	1	5	2	1	1
11 知識・資格で支援	19	0	0	1	2	2	5	1	1	3	1	3
12 趣味・教養で支援	55	2	2	1	6	1	4	4	13	9	6	7
13 まちおこし	16	0	1	0	1	5	1	2	1	3	1	1
14 景観保護	8	0	3	0	0	2	0	1	0	2	0	0
15 町会・自治会	50	1	48	0	0	0	0	0	1	0	0	0
16 マンション管理組合	27	0	26	0	0	0	0	0	0	1	0	0
17 区民参画型の区の事業	67	1	0	1	0	1	15	31	15	0	1	2
18 その他	33	3	0	1	2	3	5	2	0	3	6	8
19 地域交流カフェ	11	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0
20 CCクラブ運営活動	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0
合計	590	37	112	27	50	20	60	76	79	57	29	43

(6) 活動地区 (図表 4-6、図表 4-7、図表 4-8 参照)

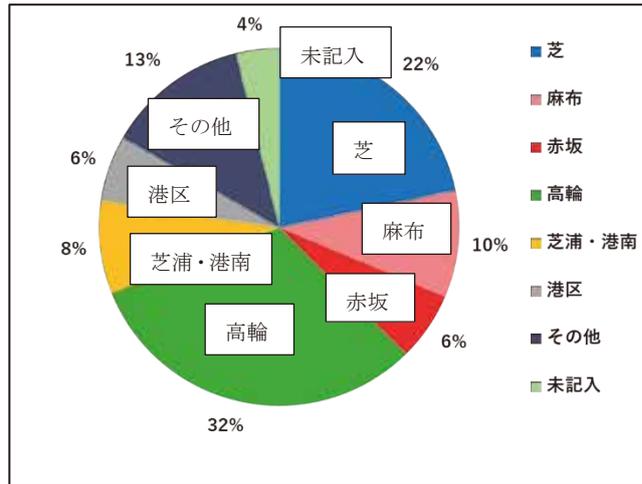
最も多いのが高輪地区の 163 件 (32%)、続いて「芝地区」112 件 (22%)、「その他」66 件 (13%)、「麻布地区」50 件 (10%)、「芝浦・港南地区」43 件 (8%)、「赤坂地区」32 件 (6%)
 そして「港区全体」が 31 件 (6%) である。「その他」の回答から港区全域を別項目とし、「その他」は活動が地域を重複して行われているケースとした。

活動内容を地区別の特徴で見ると、「高齢者支援」では「麻布・赤坂地区」が極端に多く、「障がい者支援」では「芝地区」、「町会活動」では「高輪地区」、「芝浦・港南地区」は「マンション管理組合」の活動と「区民参画型の区の事業」への参加が多かった。

図表 4-6 活動地区表

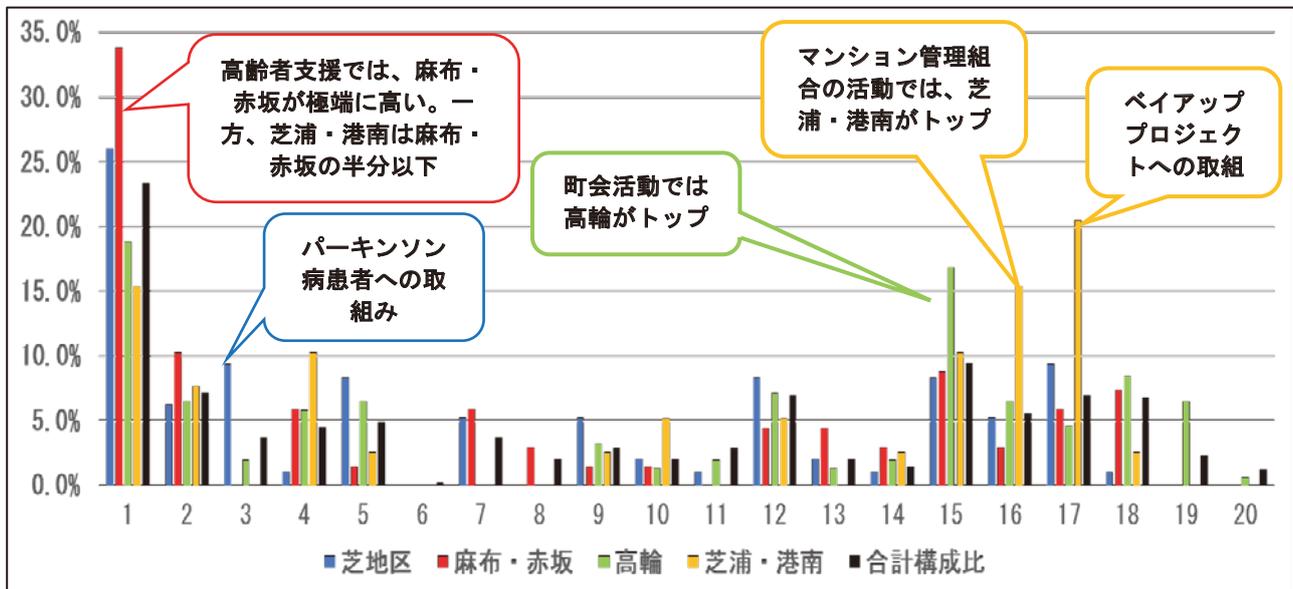
芝	112
麻布	50
赤坂	32
高輪	163
芝浦・港南	43
港区	31
その他	66
未記入	20
合計	517

図表 4-7 活動地区グラフ (複数回答あり、総件数 517 件)



単位 = 件数

図表 4-8 活動内容の活動地区別区分 (構成比)



活動区分	活動区分	活動区分	活動区分	活動区分
1 高齢者支援	5 緑化・環境美化	9 民生・児童委員	13 まちおこし	17 区民参画型の区の事業
2 子育て支援	6 交通指導	10 語学教育	14 景観保護	18 その他
3 障がい者支援	7 語り部 (観光案内)	11 知識・資格で支援	15 町会・自治会	19 地域交流 カフェ
4 地域防災	8 国際交流	12 趣味・教養で支援	16 マンション管理組合	20 CCクラブ運営活動

(7) 活動内容区分別の活動頻度 (図表 4-9 参照)

各活動内容について活動頻度を月単位で回数を求めた。総活動件数 488 件の内、月 1 回が最も多く 160 件 (32.8%) で、次に月 1 回以上～4 回未満の 142 件 (29.1%)、月 4～5 回と月 1 回未満は同じ 52 件 (10.7%) である。月に 6～12 回活動しているケースも 40 件 (8.2%) あり、毎日活動しているアドプト活動もある。

図表 4-9 活動内容区分別活動頻度 (総件数 488 件)

活動区分	件数	1つの活動区分内容に対する活動頻度 (月間)						
		月1回未満	月1回	1回以上～4回未満	4～5回	6～12回	13～30回	未記入
高齢者支援	114	7	44	28	15	10	0	10
子育て支援	35	5	5	12	4	3	0	6
障がい者支援	18	2	10	3	1	1	0	1
地域防災	22	5	9	6	0	0	0	2
緑化・環境美化	24	2	6	6	6	1	1	2
交通指導	1	0	0	0	0	0	0	1
語り部 (観光案内)	18	1	4	8	3	1	0	1
国際交流	10	2	2	4	0	1	0	1
民生委員・児童委員	14	0	0	2	3	7	0	2
語学教育	10	0	0	6	4	0	0	0
知識・資格で支援	14	0	4	3	4	2	0	1
趣味・教養で支援	34	5	9	8	8	3	0	1
まちおこし	10	0	2	8	0	0	0	0
景観保護	7	2	1	2	0	2	0	0
町会・自治会	46	4	13	18	2	6	0	3
マンション管理組合	27	3	15	5	0	0	0	4
区民参画型の区の事業	34	9	15	7	1	0	0	2
その他	33	4	15	7	1	3	2	1
地域交流カフェ	11	1	2	8	0	0	0	0
CCクラブ運営活動	6	0	4	1	0	0	0	1
合計	488	52	160	142	52	40	3	39

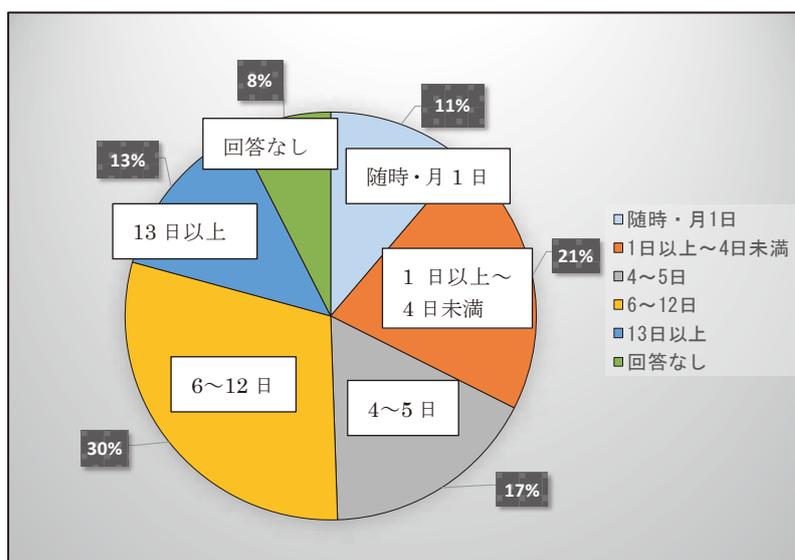
(8) 会員の個人別活動日数 (延日数) (図表 4-10、図表 4-11 参照)

個人の活動を延日数で表現すると最も多いのが 1 か月あたり「6～12 日」が 56 名 (30%)、「1 日以上～4 日未満」が 40 名 (21%)、「4～5 日」が 32 名 (17%)、そして「随時・月 1 日」が 21 名 (11%) である。13 日以上が 25 名 (13%) おり、中にはほぼ毎日活動している会員もいる。

図表 4-10 個人別活動日数

図表 4-11 個人別活動日数 (構成比)

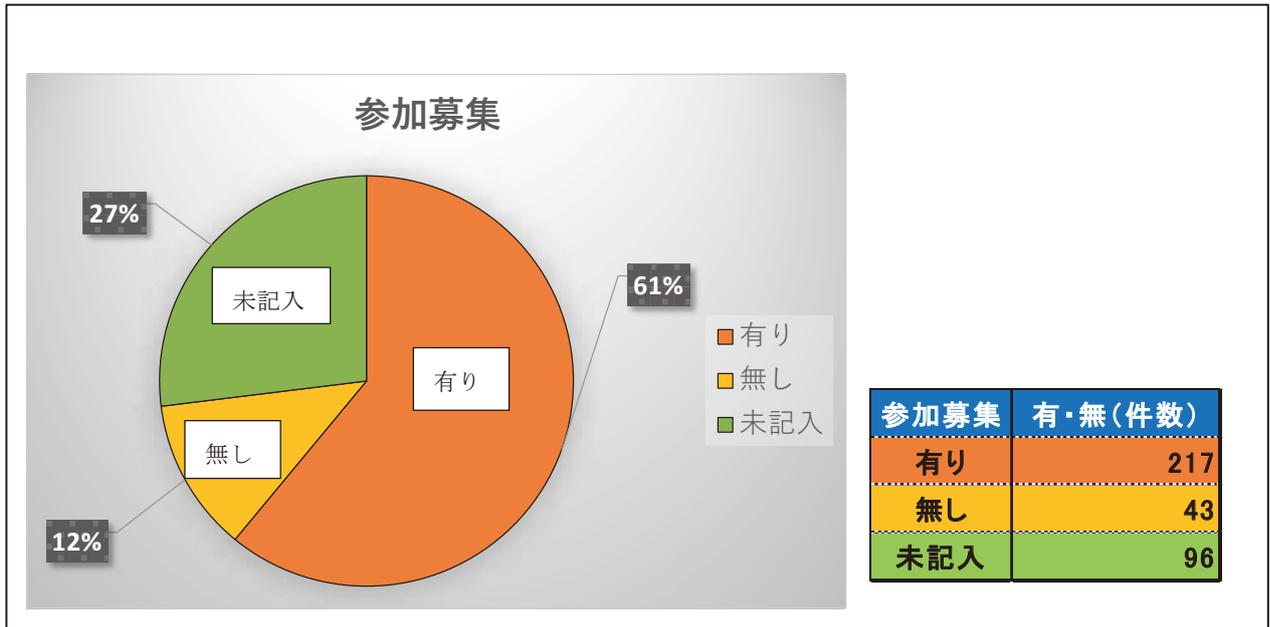
活動延日数	人数
随時・月1日	21
1日以上～4日未満	40
4～5日	32
6～12日	56
13日以上	25
回答なし	14



(9) 活動グループへの参加公募の有無（図表 4-12 参照）

個人もしくは参加しているグループが新しく活動参加者を募集していると答えた個人もしくは参加するグループの数は 217（61%）である。

図表 4-12 参加募集



参考資料

CCクラブ会員活動イメージ図

CCクラブ会員が広い分野で活躍

パソコン

ビリヤード

音楽セラピー

麻雀

囲碁

茶道

邦楽演奏

和太鼓

習字

かんがり

臨床美術

アロマ

高齢者支援、子育て支援、障がい者支援、知識・資格を通じた支援、趣味・教養を生かした支援、区民参画型の区の事業の6つの活動区分について、CCクラブ会員の具体的な活動内容を紹介

カヌー

ヨット

スキー

声かけ

買物代行

体操

介護予防

音訳

パーキンソン病支援

講演会

ベイアアップ

とばつむぎ

ミツバチ

まち歩き

劇

手話

フラダンス

日本舞踊

折り紙

傾聴

食事提供

美容室

カフェ

サロン

老人クラブ

大正琴

歌

学業支援

まなマルシェ

子むすび

絵本読み聞かせ

サイエンス講座

おもちゃの病院

プレーパーク

カヌー

ヨット

スキー

声かけ

買物代行

体操

介護予防

音訳

パーキンソン病支援

講演会

ベイアアップ

とばつむぎ

ミツバチ

まち歩き

手芸

おもちの病院

おやつ作り

みどりを育むP

情報紙作り

情報紙作り

5 調査の結果 その4—CCクラブなどに関する自由回答

調査の最後に、CCクラブについて自由に回答してもらう欄を設けた。自由回答の総数は、73 ケースであった。以下、回答内容から分類し、項目ごとのケース数を示し、さらに具体例を抜粋して記載したい。

なお、一つの回答には複数の要素が含まれていることが多く、ここではそれらを別々に集計し直している為、以下に示す回答内容の柱ごとの総数は一致しない。

回答総数 73 件

分類項目	ケース数	回答総数に対する割合(%)
1. CCクラブの活動についての意見	62	84.9%
(1) CCクラブの活動の内容について	35	
1.1 良い点	8	
1.2 改善点	15	
1.3 要望	13	
(2) CCクラブの活動機会について	16	
(3) CCクラブの交流について	11	
2. CCクラブ会員の社会参加について	6	8.2%
3. CCクラブ会員の生活について	6	8.2%
4. 関係する大学、行政や社会福祉協議会について	10	13.7%
(1) 大学への要望	1	
(2) 行政への要望	2	
(3) 社会福祉協議会への要望	3	

回答を頂いた自由回答より、代表的な意見を抜粋し掲載する。プライバシーに関する情報については修正を行い、表現方法について僅少の修正を加えた。

1. CCクラブの活動についての意見

(1) CCクラブの活動の内容について

1.1 良い点

男 最近、各種の活動が活発化してきて良いと思う。また、会員相互の情報交換の一層の活発化、会員に対する支援体制、情報活用への強化もお願いしたい。

女 1年間CCで学び、少しは社会に目を向けられるようになり、CCクラブの皆さんとの交流を楽しみながら地域福祉に貢献出来れば幸いと思う。

女 CC大学に参加したことで退職後の生活を豊かな気持ちで送れたことに感謝。都合により区の活動にかかわる事はできないが皆様の活動を誇りに思い、今後に生かしていきたい。

1.2 改善点

男 CCクラブは株式会社のような営利を目的とした団体活動ではない。CCクラブのスポンサーは港区役所であり、納税者である港区民であろう。CCクラブのメンバー登録者が600名近くになり、その活動も多種多様になってきている。これらの活動の中から骨太の活動を後押しするためにも、例えば、「高齢者の防災心得」とか「高齢者介護施設の増設」など看板活動にしていく政策としてもらいたい。幸い、「子ども食堂」「幼児への見守り」など少しずつ運用面に改善の兆しが見える。依然として改善の兆しが見えない社会問題に「仕事を辞めて親の介護をせざるをえない現状に今の行政はどこまで対応ができているのだろうか」がある。これは民間を含めた高齢者介護施設の実態に関わることであるが、まずもって費用面からも現状を知りたい。

男 CCクラブ本部（仮称）と地区CCクラブとの役割を明確にし、本部は地区CCクラブの支援に徹する。（地区CCクラブが地域への貢献サービスの主役となるよう人的、経済的支援を本部が担う）

男 市役所、総合支所の窓口でCCクラブについて尋ねてもほとんど知られていない。ましてや一般人が知っている訳が無い。これはCCクラブが内側の活動に終始していることに起因している。CCクラブが区民に評価されるためには活動範囲を広げる必要がある。

そのためには活動資金が必要で本来行政が行うべき活動の一端をCCクラブが行っていることを訴え、理解して頂き、資金の援助（助成）を仰いだらいかげしょう。

女 どんどんメンバー数が増えるCCクラブの管理のみにエネルギーが注がれ、当初期待されていたCCとしての活動はほとんどなされていない。個々のメンバーはCCの名前を背負って様々な取り組みをしているので、このままでもいいのかもしれないが勿体ないと思う。港区の無償支援活動はボランティアが不足しているのでCCクラブメンバーに参加を働きかけるなど出来ないだろうか。このままではCCクラブにいる意味を見出せない。

女 過去についての報告会より、未来型、問題提示型検討会や講演会の企画を増やして欲しい。

女 地域活動はあまりリーダーシップ型を強く出さず、溶け込み馴染み型がいいと思う。

男 サロン等定期的な活動は、軌道に乗せるまで大変な苦労があり、また継続にも相応のエネルギーが必要だが良くも悪くも固定化（マンネリ化）する傾向は避けられない。毎年の新規加入者の新しい発想（アイデア）や意欲を受け入れるための「常に新しさを受け入れる柔軟な姿勢」を失わないように意識したい。

男 同期、同じグループ、地区CCなど結束力のある単位ごとの活動は実行力アップになると思う。

男 各種活動の地域格差が大きすぎるのを調整してほしい。

女 60名が一年間時間を共有し、多少交流し、修了。3つのグループに分かれて行動したが、1年が過ぎ尚20名のグループで行動することに疑問。共通の情報、知識を持つ事ができなくて、特に行動も別々になる意味が理解できない。各組リーダーが別々になり、方向が違ってしまうことは残念。(基本的問題)

男 いろいろな活動が分かるようにすれば、それを見て参加する人も増えると思う。

男 CCクラブは会員の地域活動や福祉活動に対して、きめ細かい情報を提供することに徹すべきだと思う。会独自の事業展開は必要がない。まして、実質上、会と行政とか協働で行う事業等はありませんと考える。CCクラブは会員のために、CC大学のカリキュラムの見直し、地域活動などにおける問題点の、解決のための提言等々を提供する事も一案だと考える。

1.3 要望

男 同窓会的なもので良いのです。

男 地域活動を実施している会員にとって有益な存在であってほしい。

男 CC大学の修了生の目標は①各個人が元気であること②各自が地域貢献に取組み、自から活性化③行政と住民の仲立ちをし、社会の効率を上げる。CCクラブは修了生の親睦と情報交換の場でありたい。

男 CCクラブは自主性に任せて、活動すれば良いと思う。

女 自主的な活動をしていくために、CCクラブ用の予算を組んでほしい。

男 成果を期待するのではなく、気楽なクラス活動が良い。

男 CCクラブの方向は新しい分野に活動を拡大するのではなく、今ある諸施策を住民一人一人に行き届いた、より身近なものにするためにさらなる努力が必要だと思う。行政や社会福祉協議会の施策をより生きたものにする事。

女 スマホの一層の活用のため、初心者向けに使い方講座を開いてほしい。

男 CCクラブのマンパワーとして動員されるのは負担である。

男 活動内容がわかりづらい。

男 ・自発的意思を大切に強要しない。(やりたくない人は入れない)

・本部は全体の方向性を示し、全体活動を主管する。

・地域は、より身近な実践活動。(交流と地域貢献)

(2) CCクラブの活動機会について

男 自分と同様の地域活動をしている会員との情報交換の場を作ってほしい。

女 地域の中で権利擁護支援を必要とする人への支援活動など住みやすい地域社会づくりに貢献できる場が欲しい。

女 同期で入った方でもCCで学ぶことで福祉に関心を寄せ、地域活動を目指す気運が高まるがそれを生かす場が見つからない人もいる。福祉の世界は人材不足、金不足なので活躍の場が提供できるようにしてほしい。

女 このアンケート結果を今後のCCクラブ活動にどう生かしていくのか知りたい。

男 防災士の資格を取得したので生かしたい。

女 港区から色々な方法で区民へのメッセージは出ていますが、まだ区民の周知が不足していると感じています。CCクラブの役割として、行政と区民のパイプ役をもう一步、推し進める事が出来たらと願っています。今回のアンケート調査ではご苦勞が多いと思います。お世話になりますのでよろしくお願ひいたします。

女 CCクラブはシニアだけの集まりで、活動に限界がある。年々、年齢を重ねて、身体も弱くなり、集まっても楽しくない。何らかの目的をもって若い人と交流することが良いと思う。※私は週に5日ほど健康のためにウォーキングをしております。コースは4本ほどあり日替わりでコースを選びます。そのウォーキングの途中でわかったのですが、「白金どんぐり公園」「広尾の有栖川公園」では毎日土日もラジオ体操が行われており、私も参加することがあります。誰が主催しているのかわかりませんが、顔見知りになり、お天気の話など交わすようになっておまけに身体にも心にも良くて、いい活動だなと感じます。各地域の公園でCCクラブの会員が「ラジオ体操会」を主催するというアイデアはいかがでしょうか？思いつきですが、ご一考頂けると嬉しいです。

女 ①各地区のサロン活動の紹介を社協で行っていますが、各地区のCCクラブの活動内容や実績の紹介もして頂きたいと思います。②サロンや地域のイベントに参加できない孤立した高齢者、また、CC修了生の中で活動参加のない孤立している方のことも課題とっております。

女 CCクラブと社協のボランティア養成講座との情報共有ももっと必要かもしれないと思う。CCクラブのボランティア活動は、活動に定着して素晴らしいと思う。

女 自分が役立てる事は、力仕事、頭脳活動など何でもさせて頂きたいが、インフォメーションが届きにくく残念です。3年前に母の介護をし、今は何でも出来るのでボケないうちに役立ちたい。

(3) CCクラブの交流について

男 CCクラブは修了生のその知見が生かされていない。本人の了解を取った上で修了生の得意となる分野のデータベースでも作ったらどうか。

男 CCクラブ員の中には、色々なたくさんのボランティア活動を行っている人がいる。このアンケートを生かすためにネットワークを充実させ、ボランティア活動の広報、支援をすることでさらに多くのボランティアが増える。

女 同じ期の3グループの交流が全くないのが残念（より多くの方の活動を知りたいので）。

2. CCクラブ会員の社会参加について

女 地域貢献、地域福祉活動に貢献したく、第一歩として地域の方々と顔みしりになり、お互い信頼しあえる間柄になる為に町会の役員になり、色々な行事に参加して各年齢での要望を知り、色々な行事に反映させて行きたいと思っています。CCの方も二人参加されて喜んでいきます。

女 ボランティア自主活動を始めるにあたり、まず直面する課題は資金です。CC大学でも社協でも介護予防リーダー・サポーター養成講座でも、高齢者の活動参加を推奨くださいますが、誰もが気楽にできるボランティア活動を目指し、料金を無料で行う大変さを痛感致します。こうした

活動が高齢者の健康寿命を延ばす最善策として推奨されるのではないかと推測しまして今後の介護医療費上昇の防止的な資金援助としてもお願いしたいと、困窮自主活動グループからの申し出です。

3. CCクラブ会員の生活について

女 女性は勢いがあるが、定年退職後の男性の“居場所”について考えても良いのでは？地域とは無縁できた人が多く家族でも浮いている。

4. 関係する大学、行政や社会福祉協議会について

(1) 大学への要望

女 港区内の全大学の学生食堂を地域の高齢者の食堂として考えてほしい。メニューはそのまま、自立した高齢者が食を介して学生と高齢者の交流をすることになるのではないかと。

(2) 行政への要望

女 港区は地域ごとに認知介護予防施設があり、大変充実した福祉行政に満足しています。その施設を利用して感じることはどう施設の行事を催すなど、体力、気力を含めて無力だという高齢者がいますが、特に独居老人は引きこもりであり、一日中家にいて外出はあまりせずかつ介護施設の利用までは認定されていない高齢者が案外居住していると気づいたのです。そうした高齢者を月2回位、お喋りの場を提供しては如何と思いはじめています。5-6人位のテーブルとお茶を用意してテーマを決めず、昔話や日頃の思いを語って「今日は随分話したなあ」位の感想で終わりにする。もし要望があれば、20分ぐらいのプログラムを計画するような仲間になれるように、独居老人に対して様々な施設があろうと思いますが介護施設利用者と介護予防施設利用者（いきいきプラザなど）の間で独居老人の居場所が必要だと思います。しかし、独居老人世帯について、個人情報との関係で把握できないのが難点と地区ごとに分かれた地区が広すぎ、広地域のため地区割も難しいのかなと思っています。CCクラブの活動で独居老人に呼びかけて上記のような活動をしているところがあれば知りたいと思います。

女 「行政にお願い」CCで学ばせて頂いた一年間は大変貴重な時間でした。修了から約半年が過ぎ、先輩達の活動を一緒にさせて貰い気づいた事があります。PR不足か拠点（協働、いきいきなど）が遠いのか、またあまり関心が無いのか一般の方々の参加がほとんど見られず残念な事です。CCで学ばれた方々は真面目な人が多く、何か役に立ちたいと思っております。かと言って、いきなり地域に入り込めず、どんな活動したら良いのか判らない状況で現在に至っているのではないのでしょうか。今、高輪地区総合支所協働推進課が中心にやってくれてますがもっと横の繋がりが（各地区総合支所協働推進課）まで広げ、そこから各町会に働きかけをしてもらい、CCで学んだ人達がもっと町会の活動に参加出来るよう（まずは、町会の年中行事、子供会、お祭り、餅つき等々の手伝いから始め人脈をつける）地域に馴染んでもらいます。その中で気づいた事、改善した方が良く、CCで学んだことがきっと役立つと確信しております。地域を知ると情報も入ってきます。本当は何を求めているのかを知れば自ずから活動が明確になります。CC大学

が目標にしている（地域の活性化やコミュニティの育成の原動力として積極的に活躍して頂く地域活動のリーダーを養成することを目的としています）とあるように目標が目標で終わらないように行政が後押しをしてくださることを切にお願いしたいと思います。

（3）社会福祉協議会への要望

女 CCクラブ活動を活発にさせたいので社会福祉協議会など支援をお願いしたい。

女 社協について、このところ、きめ細かく地域活動を囲って下さっておりますが、仲立ちなどの関係が難しいと思います。これに対してCCの人手に頼るのはどうでしょう？

6 調査からいえること

これまで、調査の結果を見てきたが、ここでは、本調査からいえることを整理したい。まずは基本集計で何が見えてきたか、次いで幾つかのクロス集計からいえること、さらにCCクラブの活動内容実態調査そして自由回答からいえることをまとめ、課題について述べたい。

A アンケート調査の要約

(1) CC大学何期生か—1期～4期が6%程度、5期以降は10%程度

本調査の対象は、CC大学の1期生から11期生までである。回収された調査票の各期の分布は、11期生が13.8%と最も割合が高い。4期以前で6%程度、5期以降で1割前後となっている。

(2) 性別、年齢—6割が女性、平均年齢は72歳、70歳代が5割

性別は、女性が196人で58.7%、男性が130人で38.9%。

年齢は、最年少が55歳、最高齢が89歳であった。平均は71.8歳である。年代別には、「70歳～74歳」と「65歳～69歳」がともに3割程度、「75歳～79歳」が2割であった。80歳以上は6%である。

(3) 居住地区—「高輪地区」が半数弱、「芝地区」と「芝浦港南地区」が1割半、「麻布地区」と「赤坂地区」は1割前後

5地区ごとにCCクラブ会員が居住している地区を見ると、「高輪地区」が46%と最も割合が高い。次いで、「芝地区」と「芝浦港南地区」が1割半程度となっている。「麻布地区」と「赤坂地区」は1割前後の割合であった。

CC大学を修了後、港区外に転居したCCクラブ会員が1.5%いる。

(4) 健康状態—「良い」が4割弱、「まあ良い」が3割

CCクラブ会員の健康状態を見ると、「良い」が39%、「まあ良い」が29%となっている。この2つを合わせると全体の7割弱を占めている。大半は、健康と言える。他方、「あまり良くない」と「良くない」を合わせると1割である。

(5) CC大学への入学動機—CC大学の理念に共感したとか地域に関心を持つようになったから、またCC大学修了生からの勧め

複数回答であるが、最も割合が高いのは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が38%、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が32%、「CC大学修了生に勧められた」が31%、そして「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」と「すでに地域貢献に取り組んでおり、

さらに深掘りを目指した」が、ともに23%となっている。これ以外の項目は、1割前後の割合であった。

全体として、CC大学の理念に共感したとか地域に関心を持つようになったという理由からの入学が多い。またCC大学修了生からの勧めも大きな割合を占めている。

(6) 最長職—「勤労者（事務職）」が2割、「会社経営者・会社役員・団体役員」が1割強、「勤労者（営業・販売・サービス業・店員など）」が1割

最も割合が高いのは、「勤労者（事務職）」が22%を占めている。次いで、「会社経営者・会社役員・団体役員」が12%、「勤労者（営業・販売・サービス業・店員など）」が11%となっている。

その外、「自営業・家族従業員」が8%、「公務員（教員を含む）」、「医療・福祉従事者（看護師、保育士、介護職など）」、「専門的技術的職業（医師、弁護士、研究者など）」が、ともに7%弱であった。

なお、「専業主婦・専業主夫・無職」は14%である。

(7) CC大学修了後の状況

① CCクラブ会員との交流—9割が交流あり

「交流している」が91%、「交流していない」が9%であった。このように、9割を占める人は、CCクラブの会員との交流がある。

② CCクラブ会員との交流内容—「CC大学時代のグループ活動への参加」が7割強、「グループ活動とは別の個人的交流」が4割強

最も割合が高いのは、「CC大学時代のグループ活動への参加」で73%を占めている。「地域CCクラブでの交流」を挙げている人が、44%となっている。「グループ活動とは別の個人的交流」が、43%を占める。「運営委員会、部会に所属したから」が19%であった。

③ CCクラブ会員との交流目的—「楽しみの時間を増やしたい」が6割、「地域活動のきっかけを作りたい」が5割

「楽しみの時間を増やしたい」が62%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が49%となっている。「特に目的はない」が9%、「一人だけの不安感を減らしたい」が3%であった。

④ CCクラブ会員との交流頻度—「月1回程度」が4割

「月1回程度」が39%と最も多く、次いで「月2回以上」が34%、「隔月」が5%、「不定期」が22%であった。

⑤CCクラブ会員との交流がない理由－「忙しい」が3割半、「今は出来ないが今後交流したい」が2割半

CCクラブ会員との交流がない29人に、その理由を尋ねた。「忙しい」が35%、「今は出来ないが今後交流したい」が24%、「あまり必要ない」が17%、「必要ない」が7%であった。

(8) 生活上の困りごと

①生活上の困りごとの有無－ある人は2割

「ない」が77%と全体の8割弱を占めている。「ある」は20%であった。

②生活上の困りごとの内容－「健康・医療」が6割半、「大地震・火災時の対応の不安」が3割半

最も割合が高いのは「健康・医療」で、64%を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が36%、「収入・経済的課題」が27%、「福祉・介護」が25%、「地域の繋がりが希薄化」が21%となっている。その外、「親族との関係」と「買い物環境」が、それぞれ1割前後となっている。

(9) CC大学入学以前と以後の意識について

CC大学入学以前と以後の意識について、次の10項目について尋ねた。

①入学以前は仕事(家事)中心だったか－「そう思う」が4割

まず、入学以前は仕事(家事)中心であったかどうか。

「そう思う」が40%、「そう思わない」が36%、「どちらともいえない」が18%となっている。

②入学以前から地域活動に関心があったか－「そう思う」が5割

「そう思う」が52%となっている。他方、「そう思わない」が17%、「どちらともいえない」が28%であった。

入学以前から地域活動の関心があった人が全体の半数を占めており、地域活動への意識が高い人が多い。

③入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたか－「知っていた」が7割

「知っていた」が73%、「知らなかった」が23%であった。

民生委員・児童委員活動を知っていた人が7割をも超えていることは、注目に値する。

④入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか－「知っていた」が5割半

入学以前、その活動を「知っていた」は55%、「知らなかった」は42%であった。

民生委員・児童委員活動よりは、社会福祉協議会活動の認知度は低いですが、それでも5割半となっている。

⑤ CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかー「そう思う」が6割弱

「そう思う」が58%。「そう思わない」が11%となっている。CC大学修了後の今、CC大学は、全体の6割の人に大きな影響を与えている。

⑥ CCクラブの活動に参加しているかー「参加している」が6割半

「参加している」が65%、「参加していない」が30%となっている。今回、回答してくれた人の中で、実に6割半がCCクラブの活動に参加している。

⑦ 入学以降、新しい友だちがたくさんできたかー「そう思う」が7割

「そう思う」が71%、「そう思わない」が6%であった。地域ネットワークの形成に非常に大きな役割を占めてきている。

⑧ 入学以降、地域（住民）に関心を持つようになったかー「そう思う」が6割半

「そう思う」が65%、「そう思わない」が8%であった。全体の6割半の人が、以前より地域や地域住民に関心を持つようになっている。

⑨ 入学以降、区の施策に関心を持つようになったかー「そう思う」が6割半

「そう思う」が66%、「そう思わない」が7%であった。全体の6割半の人が港区の施策に以前より関心を持つようになっている。実際に、区の委員会その他の活動に参加・協力している人が増えてきている。

⑩ CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかー「そう思う」が4割弱

「自分の生活に安心感を与える」かどうかについては、「そう思う」が37%、「そう思わない」が14%となっている。CCクラブの全体の4割の人にとって、CCクラブが「安心感」を与える存在となっている。

(10) 地域活動、社会福祉活動について

CCクラブ会員が、どのような地域活動、社会福祉活動をしているか。

① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかー「活動している」が8割弱

「活動している」が78%、「活動していない」が22%となっている。全体の8割近い人が地域活動、社会福祉活動をしている。

② 地域活動、社会福祉活動をしない理由－「仕事をしている」が4割弱、「興味のある活動が無い」が3割、「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた4割の人々への働きかけの必要性

最も割合が高いものが、「仕事をしている」で36%、次いで「興味のある活動が無い」が32%、「健康に自信がない」が20%、「介護等でできない」が13%となっている。

なお、「どのような活動があるのか知らない」が12%となっている。

活動への参加を促進する方策を考える際、「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた4割の人々への働きかけの方法を、考える必要がある。

③現在の地域活動、社会福祉活動の拠点－「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」が4割半、「個人、グループの自主的活動」が4割弱

現在、あるいは過去2～3年も含めた地域活動、社会福祉活動の拠点について答えてもらった。

活動拠点として最も割合が高いものは、「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」で46%、次いで「個人、グループの自主的活動」が38%、「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が34%となっている。

「港区役所（本庁）」が10%、「各地区総合支所」が24%となっている。また、「社会福祉協議会でのボランティア活動」は22%、「NPO法人/社団法人」は15%、「地域団体（いきいきプラザなど）」が25%であった。

以上のように、CCクラブ会員は、多様な拠点で活動を展開している。

④地域活動、社会福祉活動の内容－4割半を占める「高齢者支援」

地域活動、社会福祉活動で最も割合が高いものは、「高齢者支援」で45%となっている。

次いで、「趣味・教養を生かした支援活動」と「町会・自治会の活動（会の運営）」がともに26%、「マンション管理組合、自治会活動」が25%、「区民参画型の区の事業」が21%、「子育て支援」が16%、「障がい者支援」が12%、「民生委員・児童委員」が9%、「地域防災」が18%、「緑化・環境美化」が14%となっている。

分野別には、高齢者領域が最も高い割合を占めているが、子ども関係、障がい者関係も1割強から1割半を占めている。

民生委員・児童委員については、港区では欠員の地区がまだあり、補充の課題があるが、すでに1割弱の人が民生委員・児童委員として活動している。ただし、CC大学は、民生委員・児童委員をしている人は、優先枠をもっており、CC大学入学以前から民生委員・児童委員をしている人が年間数名いる。とはいえ、CC大学修了後に民生委員・児童委員になっている人が出て来ており、港区の民生委員・児童委員活動に一定の貢献

をしてきている。今後も民生委員・児童委員の担い手としてCCクラブへの期待は大きい。

そのほか、区民参画型の区の事業に関わっている人が2割いる。地域活動では、町会・自治会あるいはマンション管理組合・自治会でそれぞれ2割半となっている。CCクラブのメンバーは、いろいろな知識、教養を持っており、それらを生かした活動が1割から2割半に及ぶ。また、地域防災にも2割弱が関わっている。

⑤これまで経験した活動内容—「タウンフォーラムに参加」、「港区の公認委員」がそれぞれ2割半、「民生委員・児童委員」と「町会長・副会長、自治会長・副会長」がそれぞれ2割

最も多いものが「タウンフォーラムに参加」で27%、次いで「港区の公認委員」が25%、「民生委員・児童委員」が21%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が19%、「社会福祉協議会委員」が14%、「老人クラブ役員」が9%、「区主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長等」が8%となっている。「その他」が多いが、CCクラブ会員が、ここに挙げた活動内容以外の多様な活動に参加していることからである。この点の詳細は、p41以降の活動実態調査の分析結果を参照していただきたい。

(11) CCクラブの今後の活動について

①今後のCCクラブの活動のあるべき方向—「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」と「地域貢献・地域福祉活動により注力する」がそれぞれ4割、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が3割半

最も割合が高いものが、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」で40%、次いで「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が38%、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が34%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が28%となっている。

その他としては、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が23%となっている。CCクラブは、区全体活動以外に、現在、行政の総合支所の地域を基礎に地域ごとのCCクラブの組織を持っている。それは、「芝CCクラブ」（芝地区総合支所管轄地域）、「明虹会」（芝浦港南地区総合支所管轄地域）、「高輪地区CCクラブ」（高輪総合支所管轄地域）、「3Aクラブ」（赤坂・麻布地区総合支所管轄地域）の4つの地域組織である。これらの組織は、連絡協議会の機能も持っており、地域ごとの組織の連携を図る場、地域活動の拠点でもある。

②携帯電話をはじめとしたモバイル環境について

CCクラブは、月1回、運営委員会を開催し、全体活動を進めてきている。運営委員会から、或いは会員同士の情報交換の媒体として、モバイル環境、SNS等の利用は有効

であろうとの考えから、CCクラブ会員のモバイル環境について尋ねた。

1) スマートフォンと携帯電話のどちらを使用しているか

「スマートフォンを使用している」が68%、「携帯電話を使用している」が28%、「どちらも使用していない」が3%であった。

2) SNS(LINE、Facebook、Twitter など) を利用して知人と連絡しているか

「利用・連絡している」が53%、「利用・連絡していない」が43%であった。

このように、利用・連絡しているか否かは、「利用・連絡している」が若干多いものの、全体的にはほぼ半々であった。

3) SNS を使ってCCクラブのホームページに投稿出来るようにして、連絡・コメント等で利用したいか

「利用してみたいと思う」が30%、「利用してみたいと思わない」が64%であった。利用したいと考える人は、全体の3割であった。

(12) クロス集計

クロス集計としては、性別を基軸にCCクラブ会員の諸活動を中心に見てきた。

まず、男女別に年齢階層を見ると、女性の方が、若い層の割合が高いことが分かった。

①男女と居住地区

また、居住地区別に男女を見ると、全体では女性が6割を占めるが、居住地区別には赤坂地区と麻布地区では女性が7割近く、芝地区と高輪地区は6割程度、芝浦港南地区では男女比が半々となっている。

③ CC大学への入学動機

CC大学への入学動機(複数回答)として、まず、男女とも「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」がともに4割弱で最も割合が高い。女性の場合、次は「CC大学修了生に勧められた」が3割半、次いで「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が3割強、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深掘りを目指した」が2割半であった。

男性の場合、一番割合が高い「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」に次いで割合が大きいものは、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が3割、「CC大学修了生に勧められた」が2割半となっている。

③入学以前は仕事(家事)中心だったか

「入学以前は仕事(家事)中心だったか」について男女別に見ると、「そう思う」と答えた男性は5割、女性は4割弱と男性の方が割合が高い。

④入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか

「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」については、「知っていた」が女性で8割であるのに対し、男性は6割半と、女性の方が民生委員・児童委員活動への認識が高い。

⑤ 入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか

「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」については、「知っていた」が女性の場合は6割強であるのに対し、男性は4割半強と、女性の方が社会福祉協議会の活動を以前から知っている割合が高い。

⑥ 地域活動、社会福祉活動の内容

参加している地域活動、社会福祉活動（複数回答）については、女性の場合、「高齢者支援」が5割半と最も割合が高い。次いで「趣味・教養を生かした支援活動」と「町会・自治会の活動（会の運営）」が共に2割半、「マンション管理組合、自治会活動」と「区民参画型の区の事業」が2割であった。

男女で大きな差があるのは、女性で「高齢者支援」活動に関わる割合が男性より高いこと、「民生委員・児童委員」になっている割合は、女性が6ポイントほど大きい。反対に男性の場合、「地域防災」に関わる割合が高い。男女で13ポイントの差がある。また「マンション管理組合、自治会活動」でも男性が多く、女性との差は10ポイントとなっている。

「区民参画型の区の事業」については、男女で差はなく、ともに2割の人が関わっている。

⑦経験した活動内容

これまで経験した活動（複数回答）を男女別に見ると、女性の場合、最も割合が高い活動は「民生委員・児童委員」で3割弱、次いで「タウンフォーラムに参加」が2割、「港区の公認委員」が2割弱、「社会福祉協議会委員」が1割半となっている。

男性の場合、最も割合が高い活動は、「タウンフォーラムに参加」で4割弱、次いで「港区の公認委員」が3割強、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が3割弱、次に「社会福祉協議会委員」「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」そして「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」の3つがともに1割強となっている。

男女で大きな差は、女性で「民生委員・児童委員」、「老人クラブ役員」となった経験がある人が男性より多い。他方、男性については、「町会長・副会長、自治会長・副会長」、「港区の公認委員」、「タウンフォーラムに参加」の項目で女性より割合が高い。

⑧今後のCCクラブの活動のあるべき方向

「今後のCCクラブの活動のあるべき方向」（複数回答）について男女別にみると、女性の場合、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」が4割強と最も割合が高い。次いで「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が3割半、「行政（支所協働推

進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる」が3割強、「地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる“開かれたサロン”を開設」が3割弱となっている。

男性の場合は、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が4割強と最も割合が高い。ついで、「行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる」が4割弱、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」が3割半、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が3割弱となっている。

女性と男性での違いが大きいのは、「地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる“開かれたサロン”を開設」で、女性の方が12ポイント大きい。また「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」については、男性の方が9ポイント大きい。

B 活動内容実態調査(4 調査の結果 その3—活動内容実態集計)からいえること

今回のチャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査では、調査票の最後に添付した別表にて会員の活動内容を具体的に記載してもらった。どのような内容で、どこを拠点とし、どのぐらいの頻度で活動しているか等8項目について回答をいただいた。これにより、多くの会員が地域で様々な活動に熱心に取り組む実態が明らかになった。

1. 回答者数について

別表回答者数は、総回答者336名の中、185名であり、比率は55.1%となっている。記載された総活動件数は488件であった。又、185名の様々な活動に参加している会員のグループ数は239、延べ人数は304名である。活動内容は多種多様であり、地域の様々な場面で数多くの活動が展開されている。

2. 調査の方法

別表に記載する活動件数は一人5件までとした。回答のあった185名が記載した総活動件数は488件で、一人当たり平均2.6件となる。5件記入者は31名、1件記入者は62名であった。

3. 分析からみえること

回答のあった185名の様々な活動に参加している会員のグループ数は297で、その人数は延べ362名である。このなかには会員が個人で活動しているケース(例マンションの理事など)58名が含まれており、それを除いたグループ数は239であり、延べ人数は304名である。

活動区分別件数をみると、全体の中で高齢者支援活動が114件と一番多く、構成比は20.6%であった。内訳は、サロン活動、高齢者施設訪問活動(折り紙教室、歌のサービ等)、傾聴、介護予防活動、老人クラブ運営活動、健康(スポーツ・娯楽)に関する活動など多岐にわたっており、そのほとんどが、CCクラブ会員が主体となって活動している様子が見えてくる。また、「知識・資格取得を通じた支援活動」、「趣味・教養を

生かした支援活動」の複合的な要素も見られる。身に付けた趣味や教養が生かされ、高齢者支援という地域貢献に寄与する結果となっている。

二番目は、「区民参画型の区の事業」で66件、全体の11.9%となっている。今回の調査では、芝浦・港南地区はじめ、高輪地区、芝地区のタウンミーティング及びタウンフォーラムへの参画が多くみられるが、他にも介護予防、防災、観光案内、など区の事業に多くの会員が興味を持ち、行政と一体となって地域に貢献する実態が見られる。つづいて、「趣味・教養で支援」50件、「町会・自治会」が49件となっている。「町会・自治会」活動では、会員の多くは町会長など役員として地域の行事全般の企画運営に関わる一方で、清掃活動、防災、防犯活動にも従事し、一部の会員はサロン運営で町内の交流を図るなど、地域内の融和、連帯、活性化に貢献している。

CC大学に入学する前から町会活動に参加していた会員も多いと思われるが、入学以降、地域や地域住民に関心を持つようになったと回答した人が6割を超えている（基本集計1）ことからCC大学修了後に町会の活動に積極的に参加する会員が増えていることが推測される。

「趣味・教養を生かした支援活動」の内訳は、音楽、美術、パソコン、舞踊（フラダンスなど）、茶道など多種多様であり、ほとんどが会員の自主活動となっている。

「子育て支援」は36件で、主なものは社会福祉協議会が運営する「子むすび」活動、会員が中心となって立ち上げたNPO法人「みなそと」の「プレーパーク」活動、学習支援活動、図書館などでの読み聞かせなどがある。

「マンション管理組合、自治会活動」に従事しているケースは27件で、理事会の運営への参加が多いが、防災活動やマンション内で高齢者が集まる会を主催する会員もいる。

「緑化・環境美化」活動では、25件の内、芝CCクラブのアドプト活動への参加者が最も多く、高輪地区タウンミーティングの「みどりを育むプロジェクト」、芝浦港南地区総合支所の環境美化活動やその他自主活動のケースもあった。

「地域防災」活動としては、自主的活動、支所など地域防災団体に参加しての活動、マンションでの活動の他日本防災士会に所属しての活動もあった。

「障がい者支援」活動では、芝CCクラブが主となって支援する「港区パーキンソン病友の会」支援活動への参加、障がい者施設での音楽活動などの自主活動、障がい者の方に寄り添う個人での活動も見られた。

「語り部（観光案内）」としての活動をみると、港区地区総合支所（観光協会）に所属して活動しているケースが多いが、観光ガイドボランティアとして活動するなど個人や自主グループで活動する会員もいる。

「知識・資格取得を通じた支援活動」ではパソコン、傾聴、ヨット教室、科学、など多岐にわたる活動があり、その多様さに驚かされる。

「民生委員・児童委員」については、CC大学入学時に民生委員・児童委員であった

会員以外で修了後に民生委員・児童委員になった方もいる。

「まちおこし」の内容は「まちづくり協議会・研究会」への参加や支所毎のタウンミーティングへの参加、公園における活動が見受けられる。

「国際交流」活動は国際交流協会での外国人への支援活動や港区、キスポートでの通訳活動があった。

「語学教育」は外国人に対する日本語教育と日本人に対する英語、スペイン語教育支援活動などである。

活動区分「その他」の中で、突出して多かった「コミュニティ・カフェ高輪」と「サロン麻布」の活動を「その他」から分けて「地域交流カフェ」として別分類とした。

さて、活動区分について内容を見てきたが、その活動の拠点を見てみると（図表4-4）、最も多いのは「町会・自治会・マンション管理組合」の112件で全体の19.0%、次いで「いきいきプラザなど地域団体」が79件となっており、「各地区総合支所」76件、「港区役所」60件、「個人・グループ」の57件と続く。このことは活動区分別件数の数値に多くは関連していることが分かる（図表4-5）活動区分の件数が多い高齢者支援で見ると、117件（複数回答あり）の活動拠点は「いきいきプラザなど地域団体」が36件、町会・自治会・マンション管理組合が16件となっている。また、サロン活動など社会福祉協議会を拠点とする活動もある。個人あるいは少数のグループで個別に活動しているケースも18件あった。

子育て支援の拠点ではNPO法人など会員が主体となって立ち上げた団体が12件と多く、社協の「子むすび」事業等への参加が7件と続いている。障がい者支援では地域CCクラブに加え個人・グループの自主活動も目に付く結果となっている。

活動拠点として「CC大学在学中あるいは修了後、新たに立ち上げた個人、グループ活動」と答えた件数が29件あった。活動内容は、子育て支援、障がい者支援、語学教育、まちおこしなどあらゆる分野に及んでいる。

活動地区ごとの状況をみてみると（図表4-6、4-7）、高輪地区の163件、芝地区112件、と続くが、高輪地区が多いのは、この調査の回答者の内、高輪地区居住者が45.8%（基本集計1）と約5割を占めていることが要因と考えられる。活動は1地区だけに限らず、全体の6%にあたる31件が港区全地区にわたる活動であり、その他の66件の内、ほとんどが2地区以上に活動を展開している状況が見られる。

活動内容の活動地区別区分（図表4-8）では、各地区での活動の特徴の一つを示している。高齢者支援では、「麻布・赤坂地区」が極端に高く、マンション管理組合の活動では「芝浦・港南地区」が高いパーセンテージを表している。

活動内容ごとの活動の頻度を月単位で表すと（図表4-9）、総活動件数488件の内、1回が最も多く160件、32.8%、次いで1回以上～4回未満の142件、29.1%となっており、一方で毎日活動しているアドプト活動（緑化・環境美化）もある。月1回の内、高齢者支援活動は44件と最も多い。

会員の個人別活動日数（延日数）（図表 4-10、4-11）では、個人の活動を延日数で表現すると1ヶ月あたり6～12日が56名と最も多く、1日以上～4日未満が40名と続き、また13日以上が25名おり、なかには、ほぼ毎日活動している会員もいる。

活動グループへの参加公募の有無についての回答結果は（図表 4-12）、個人やグループで活動している多くが参加者を募集している。「グループ」の中には港区や各総合支所が公募しているものも含まれる。

C 自由回答からいえること

1. CCクラブの活動のあり方については様々な意見があり、大きく分けると次のようになる。

- ・同窓会的な活動、あまり強要されない、成果を期待されない気楽な活動を望む意見
- ・CCクラブは会員の自主性に任せる組織で良いとする意見
- ・CCクラブあるいはCCクラブ会員の地域活動はリーダーシップ型を強く出さず、溶け込み型が良いとする意見
- ・CCクラブ運営部門は地区CCクラブの支援に徹するという意見
- ・CCクラブの存在はまだまだ知られていない部分が多く、内向きの活動から区民に評価されるために活動範囲を広げる必要があるという意見

2. 地区CCクラブ、CCクラブ運営部門に対する要望

- ・未来型、問題提示型検討会や講演会の企画を増やして欲しい意見
- ・自主的な活動を支援する資金的な援助を望む意見
- ・地域活動をしている会員同士の意見交換の場を望む意見
- ・各地区CCクラブの活動内容の紹介を望む意見
- ・ボランティア活動の広報、支援を望む意見
- ・修了時のグループ、修了期、地区CCクラブを越えた交流を望む意見

3. 大学、行政などについて

- ・大学に対してはCC大学のカリキュラムに対する要望と食堂利用についての意見があった。
- ・具体的な「独居老人」に関する意見、CCクラブの活動に関して行政の後押しを要望する意見があった。

おわりに

CC大学の修了生からなるCCクラブは2018年で設立11年目を迎え、600名に及ぶ会員を擁するまでになった。

今回のCCクラブ活動実態調査では、全体の約57%にあたる336名の会員から回答があった。

回答結果から見えるのは、図表2-25で見ると約8割の会員が地域活動、社会福祉活動に取り組む姿である。

回答者の平均年齢は71.8歳、男女比は4対6で女性がやや多い、取り組む活動の内容は多岐にわたり、その多くは、誰かの為、何かの為といった遣り甲斐に通じるものであり、これまでに培ってきた経験や知識を生かした活動が様々な場所で展開されている様子が見えてくる。このことは、CC大学・CCクラブ設立の目的である「生きがいのある豊かな人生の創造と地域貢献活動の中核としての人材育成」が着々と進展されているのではないかとと思われる。

会員のCC大学入学時の動機は、との問いには、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が全体の38%と最も多く、次に「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が32%と続く。入学の時点で多くの人がすでに入学の目的、その先の指針を見据えていることが分かる。入学してからは地域や地域住民に関心を持つようになったと答えた人が全体の6割を超えている。このことが、修了後に町会活動等地域に密着した活動に積極的に参加する会員が増えていることにつながっていると推測される。

CC大学入学以前から民生委員・児童委員として活動している人もいるが、CC大学修了後に民生委員・児童委員になって活動している人が出てきており、このことは、港区の民生委員・児童委員活動に一定の貢献をしてきていると考えられる。民生委員・児童委員について港区では補充の課題がある状況から、今後も民生委員・児童委員の担い手としてCCクラブへの期待は大きいものと思われる。

CC大学修了後の状況においては、修了後もCCクラブ会員と交流しているかとの問いには、実に9割を超える会員が交流していると答えている。CC大学時代のグループ間での交流、各地域の地区CCクラブでの活動を通しての交流等、CC大学に入学していなければ生まれることのない人との交流を通しての仲間づくり、友人関係等の形成は、日々の生活を豊かにするのに欠くことのできない貴重な財産と言えるのではないかと。また、このことは地域における新しい人間関係の形成でもあり、地域ネットワークづくりに役立つものと考えられる。

調査に回答した会員の内55%にあたる185名の会員から地域活動の実態について具体的に回答を頂いた。

活動の内容をみると高齢者支援活動の件数が最も多く、その内訳は、サロン活動、傾聴活動、介護予防活動等多様である。高齢者がいつまでも健康でいきいきした毎日が送れるよう、助け合い、集い合える居場所づくりを目指すなど、様々な形での高齢者支援活動は、益々高齢化が進む地域の中で、大きな役割を担うものと思われる。

「区民参画型の区の事業」の活動では、高輪地区など各地区総合支所が主導するタウンミーティング及びタウンフォーラムへ参画する会員が多くみられ、他にも防災、観光案内など区の事業に興味を持つ会員が行政と一体となって地域に貢献する実態が見られる。

「趣味・教養を生かした支援活動」における、音楽、美術、茶道など、一方で、「知識・資格取得を通じた支援活動」でのパソコン教室、ヨット教室、科学教室などにおいては、いずれも多くは会員の自主活動であり、長年積み重ねたスキルを携え、地域の中で地域住民と一体となって取り組む様子が見えてくる。

あなたの活動の拠点はどこですかとの問いに「CC大学在学中あるいは修了後、新たに立ち上げた個人、グループ活動」との回答が29件あった。活動内容は子育て支援、障がい者支援、語学教育、まちおこしなどあらゆる分野におよんでいる。CC大学で共に学んだ仲間がその経験を基に、それぞれの技術や資格を活かす目的で新たに活動拠点を立ち上げ、地域での活動を自主的に展開している実態は会員の目標の一つになると思われる。

その他、活動の拠点としてはNPO法人を立ち上げるケースもあり、例えば、子育て支援活動のプレーパーク活動「みなと外遊びの会」では会員が中心となってNPO法人を立ち上げ、地域の公園での活動を展開している。このことは、未来を担う子どもたち、地域の子育て世代への思いやり支援活動として高い評価を得ている。

このように様々な活動を行う個人やグループに対し、参加者公募の有無について回答を求めたところ、ほとんどの個人やグループが参加者を募集していると回答している。活動への参加を呼び掛ける方策を考える際、「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」といった人々への働きかけにどのような方法があるのかを考える必要がある。さらに、ボランティア活動をしたいけど自分に合う活動が見つからないという意見も多くあり、ボランティア現場との情報の共有化をはかると共に、活動を行っている個人やグループと活動に参加を希望する人を橋渡しする新たな仕組みづくりが求められている。

今回の調査票の中で、行政、社会福祉協議会、CCクラブに対する意見、要望を自由に記入する欄を設けた。

CCクラブの活動のあり方については、CCクラブはその存在について地域のなかで認知されない部分が多い、区民に評価されるため活動範囲を広げる必要があるという意見があった。

CCクラブでは行政の総合支所管轄毎に4つの地区CCクラブの組織を設けている。これらの組織は地域活動の拠点であり、年4回、各地区CCクラブが集まって開かれる「地区CC会議」においては、情報交換など連絡協議会の機能も持っている。地区毎の活動としては、芝地区の「芝CCクラブ」は本芝公園などでの花壇の手入れ等を行う、「アドプト活動」を通しての緑化・環境美化活動等、芝浦港南地区の「明虹会」は、行政との協働でベイヤッププロジェクト活動等、高輪地区の「高輪地区CCクラブ」は住民との交流の場としてコミュニティ・カフェを3か所で開き、地域コミュニティの育成に努めている等、赤坂・青山・麻布地区の「3Aクラブ」は、地域企業とのコラボによる地域貢献活動等、それぞれの地域における特性を生かした活動を展開し、かつ、地区間の横展開を模索することにより活動範囲を広げることに注力している。

CCクラブ本部としては、これら4地区CCクラブの活動への支援、取りまとめ等、総括的な活動に徹すべきというCCクラブと地区CCクラブとの関わりについての意見もあった。

一方では、CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにすべきとの意見もあった。これまでCCクラブは、CC大学の修了生で構成されてきたが、今後の方向性として、一般

地域住民の方々や学生など、環境や世代を超えた地域の中でのCCクラブのあり方についてこの意見は検討すべきものと思われる。

先に述べたように発足後11年を経て、600名にも及ぶ大きな組織となった現在、「地域活動のリーダーを育てる」としてのCCクラブの存在意義をさらに高めることが期待されているのではないか。

CCクラブとしての重点活動の設定と具体的なスタートが求められている。同時に行政、社会福祉協議会、地域団体との連携を強めつつ、CCクラブとしての自主性を保つことでより効果的な形での活動に繋げていければ良いのではないか。

CCクラブ、地区CCクラブ、会員各自がそれぞれの立場でこの調査結果を真摯に受け止め、今後の活動に生かしていくことが望まれる。

最後に、今回のCCクラブ活動実態調査を実施するにあたり、ご支援・ご協力いただいた河合克義明治学院大学名誉教授はじめ関係各位のみなさまへ心より厚くお礼申し上げます。

(CCクラブ地域連携部会長 吉田 由紀子)

資料編

- ①CCクラブ 2018 年度活動実態調査票
- ②チャレンジコミュニティ大学とは
- ③チャレンジコミュニティ・クラブとは
- ④チャレンジコミュニティ・クラブと会員の活動

CCクラブ 2018年度活動実態調査

ご協力をお願い

CCクラブは今年で約600名もの会員を擁するまでになりました。その間、多くの会員の皆様が地域の中で多様な活動を展開されている実態があります。その活動が地域に浸透していく状況を多くの皆様に知っていただき、地域と一体となった地域貢献活動につなげていくために「2018年度活動実態調査」を実施いたしますので、何卒ご協力頂けますようよろしくお願い申し上げます。

調査の結果は「活動報告会」やホームページなど様々な方法で公表させていただきます。

※この調査は無記名ですが、8ページに関しては希望される方は氏名の記入をお願いいたします。お名前等個人情報が公表されることはありません。

2018年6月

CCクラブ代表 斎藤正精

調査担当：地域連携部会

この調査についてご不明な点がありましたら、下記までお問合せ願います。

【メールでのお問い合わせ】 CCクラブ ccc.dfo.member@gmail.com

【電話でのお問い合わせ】 地域連携部会 部会長 吉田 由紀子 電話 03-3445-3710

【調査対象範囲】 1～11期生

ご回答にあたってのお願い

【調査用紙のご記入方法】

1. ご回答には、黒のボールペンか濃い鉛筆をお使いください。
2. ご回答は、選択肢からあてはまる項目を選び、番号に○印をつけてください。
3. 記述項目については簡潔に分かりやすく記入してください。

【調査用紙の返送方法】

1. 運営委員が集める場合

- ①ご回答後の調査用紙は、各期の運営委員に9月中旬頃迄にお渡しください。
- ②各期、各グループの運営委員はまとめて9月26日(水)の運営委員会にご持参ください。
- ③9月26日に出席されない運営委員は、明治学院サービスにご持参ください。

2. 上記1.の方法が困難な場合は以下の方法で各個人がご返送ください。

- ① メールの場合 送付先 明治学院サービス アドレス ccclub@meijigakuin-s.co.jp
- ② ファックスの場合 送付先 明治学院サービス FAX番号 03-5421-1556
- ③ 返送用封筒を使用の場合(92円切手を必ず貼ってください)
- ④ 持参の場合 明治学院サービスにご持参ください(裏面の地図参照)
送付先 〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

株式会社 明治学院サービス 電話:03-5421-1555

回答期限：2018年9月26日(水)

CCクラブ 2018 年度活動実態調査

1. 基本項目 (2018 年 6 月 1 日現在でお答え下さい)

■あなたご自身についておうかがいします。

問 1. あなたは、CC大学の何期生ですか (○は1つ)

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|----------|----------|--------|
| 1. 1期生 | 2. 2期生 | 3. 3期生 | 4. 4期生 | 5. 5期生 | 6. 6期生 |
| 7. 7期生 | 8. 8期生 | 9. 9期生 | 10. 10期生 | 11. 11期生 | |

問 2. 性別のあてはまる方に○をし、年齢をご記入下さい

- | | | |
|-------|-------|---------------------------------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 満 _____ 歳 (2018 年 6 月 1 日現在でお答えください。) |
|-------|-------|---------------------------------------|

問 3. あなたのお住まいはどの地域ですか (○は1つ)

- | | | | | | |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 1. 芝浦港南地区 | 2. 芝地区 | 3. 高輪地区 | 4. 麻布地区 | 5. 赤坂地区 | 6. 港区外 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|

問 4. ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか (○は1つ)

- | | | | | |
|-------|---------|-------|------------|---------|
| 1. 良い | 2. まあ良い | 3. 普通 | 4. あまり良くない | 5. 良くない |
|-------|---------|-------|------------|---------|

2. 入学時の状況

問 5. あなたがCC大学に入学した動機は何ですか (○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ |
| 2. CC大学修了生に勧められた |
| 3. 家人の勧め |
| 4. 知人・友人の勧め |
| 5. 暇をもて余しているから |
| 6. すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した |
| 7. 同じ志を持つ仲間を求めた |
| 8. 自分の居場所を求めて |
| 9. 港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから |
| 10. 明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて |
| 11. 自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから |
| 12. 民生委員・児童委員として |
| 13. その他(具体的に) |

(_____)

問6. あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか (○は1つ)

1. 自営業・家族従業員	2. 公務員(教員含む)
3. 会社経営者・会社役員・団体役員	4. 勤労者(事務職)
5. 勤労者(生産現場・技術職・工員・運転手など)	
6. 勤労者(営業・販売・サービス業・店員など)	
7. 医療・福祉従事者(看護師、保育士、介護職など)	
8. 専門的技術的職業(医師、弁護士、研究者など)	
9. 臨時職・日雇い・パート・アルバイト・派遣職員	10. 農林漁業
11. 自由業(執筆業、芸術関係)	12. 専業主婦・専業主夫・無職
13. その他	

()

3. CC大学修了後の状況

問7. CC大学修了後の交流についておうかがいします

(1) あなたは、CC大学修了後、CCクラブ会員の皆さんと交流していますか (○は1つ)

1. <u>交流している⇒(2)へ</u>	2. <u>交流していない⇒(3)へ</u>
-----------------------	------------------------

(2) 上記(1)で「1. 交流している」と答えた方におうかがいします

① どのような交流をしていますか (○はいくつでも)

1. CC大学時代のグループ活動への参加	2. グループ活動とは別の個人的交流
3. 地域CCクラブでの交流	4. 運営委員会、部会に所属したから。

② 交流の目的は何ですか (○はいくつでも)

1. 楽しみの時間を増やしたい	2. 一人だけの不安感を減らしたい
3. 地域活動のきっかけを作りたい	4. 特に目的はない
5. その他	

③ 交流の頻度は次のどれですか (○は1つ)

1. 月2回以上	2. 月1回程度	3. 隔月	4. 不定期
----------	----------	-------	--------

(3) 上記(1)で「2. 交流していない」と答えた方におうかがいします (○は1つ)

1. 必要ない	2. あまり必要ない	3. 忙しい	4. 今は出来ないが今後交流したい	5. その他
---------	------------	--------	-------------------	--------

問8. 生活を送る上での困りごとはありませんか (○は1つ)

1. ある ⇒ 問9.へ	2. ない
--------------	-------

問9. 問8で「1. ある」とお答えの方に困り事の内容をおうかがいします

(○はいくつでも)

1. 健康・医療
2. 収入・経済的課題
3. 福祉・介護
4. 買い物環境
5. 交通の利便性
6. 近所付き合いの煩わしさ
7. 地域の繋がりが希薄化
8. 親族との関係
9. 大地震・火災時の対応の不安
10. その他お困りのことを簡単に記入して下さい。

()

問10. CC大学入学以前と以後の意識についておうかがいします

次の項目について、あなたの気持ちに近いものを○で囲んで下さい。(○は一つ)

(1) 入学以前は仕事(家事)中心だった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(2) 入学以前から地域活動に関心があった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(3) 入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(4) 入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(5) CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えている

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(6) CCクラブの活動に参加している

1. 参加している 2. 参加していない

(7) 入学以降、新しい友だちがたくさんできたと思う

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(8) 入学以降、地域(住民)に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(9) 入学以降、区の施策に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(10) CCクラブは自分の生活に安心感を与える

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

問15. あなたは、次のような活動に携わった経験はありますか（〇はいくつでも）

1. 民生委員・児童委員
2. 町会長・副会長、自治会長・副会長
3. 港区の公認委員
4. 社会福祉協議会委員
5. 各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長
6. 本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長
7. 国際交流の場での通訳
8. タウンフォーラムに参加
9. 老人クラブ役員
10. その他

()

問 16. 問 13～15 でおうかがいした活動について、具体的な活動内容を最後にある別紙
(8 ページ) に記入してください

5. CCクラブの今後の活動について

問17. 今後のCCクラブの活動のあるべき方向についておうかがいします（〇はいくつでも）

1. 地域貢献・地域福祉活動により注力する
2. 地元大学と連携した地域貢献事業を展開する
3. 行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる
4. 地域CCクラブの活動をもっと充実させる
5. CCクラブ会員個人が行う活動を支援する
6. CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする
7. 地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる“開かれたサロン”を開設
8. CCクラブの活動に「学び」の機会を増やす
9. もっと楽しい活動をやって欲しい
10. 今までの活動で十分である

問18. あなたの携帯電話をはじめとしたモバイル環境についておうかがいします。

(1) あなたはスマートフォンと携帯電話のどちらを使用していますか

1. スマートフォンを使用している
2. 携帯電話を使用している
3. どちらも使用していない

(2) SNS(LINE、Facebook、Twitter など) を利用して知人と連絡していますか

1. している
2. していない

(3) CCクラブのホームページがFacebookなどで簡単に投稿できれば、自分も連絡やコメントなどグループ間で利用してみたいと思いますか

1. 利用してみたいと思う
2. 利用してみたいと思わない

裏面の7ページに続きます

行政、社会福祉協議会,CCクラブなどについて、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入下さい。

アンケート調査にご協力下さいましてまことにありがとうございます。
なお、問 16 の回答は8ページの用紙に記入してください。
よろしく願い申し上げます。

(別表) 問16 問13～15でおうかがいした活動について、具体的な活動を下記に5つ迄記入してください

連絡を取ることに承諾いただける方は氏名をご記入下さい()期()グループ・氏名()

通番	活動区分 (問14の区分)	活動内容名称	具体的な活動内容	関連団体	活動拠点 (問13の区分)	活動地区	活動頻度 平均月単位回数	参加者募 集の有無
例①	17	高輪地区情報誌「みなとっふ」編集参加	発行に伴う企画、取材、編集、校正作業	高輪地区総合支所	7	4	3	有
例②	5	アドプト活動	芝地区3か所園芸保全活動	自主活動 (芝CCクラブ)	4	1	4	有
1								
2								
3								
4								
5								

活動区分 (問14の区分)

1. 高齢者支援
2. 子育て支援
3. 障がい者支援
4. 地域防災
5. 緑化・環境美化
6. 交通指導
7. 語り部 (観光案内)
8. 国際交流
9. 民生委員・児童委員
10. 語学教育
11. 知識・資格取得を通じた支援活動
12. 趣味・教養を生かした支援活動
13. まちおこし
14. 景観保護
15. 町会・自治会の活動 (会の運営)
16. マンション管理組合・自治会活動 (会の運営)
17. 区民参画型の区の事業
18. その他

活動拠点 (問13の区分)

1. 社会福祉協議会でのボランティア活動
2. 町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等
3. NPO法人/社団法人
4. CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動
5. シルバー人材センター
6. 港区役所 (本庁)
7. 各地区総合支所 (芝浦港南、芝、高輪、麻布、赤坂)
8. 地域団体 (いきいきプラザなど)
9. 個人、グループの自主的活動
10. CC大学在学中あるいは修了後新たに立ち上げた個人、グループ活動
11. その他

活動地区

1. 芝地区
2. 麻布地区
3. 赤坂地区
4. 高輪地区
5. 芝浦港南地区
6. その他

1. チャレンジコミュニティ大学とは

(1) 基本情報

- 名称 : チャレンジコミュニティ大学 (略称 CC 大学)
 ※学校教育法に基づく学校ではありません
- 運営主体 : 東京都港区 (港区長=CC 大学学長)
- 運営委託先 : 明治学院大学
- 学習施設 : 東京都港区白金台 明治学院大学白金キャンパス
- 開設年 : 2007 年
- 申込資格 : 港区在住で、地域福祉の向上や地域社会の活動に関心があり、修了後、地域で積極的に活躍する意欲のある 60 歳以上の人、もしくは民生委員・児童委員
- 募集人員 : 60 名 (申込書による選考)
- 受講期間 : 1 年間 (90 分授業×2 コマ×約 40 日間)

(2) 開設の経緯と趣旨

【経緯】

地域の課題として

港区は、都心 3 区のひとつとして「華やかな観光地・大企業本社多数が多く、平均年収が高い＝税金が多い豊かな都市」というイメージがある一方、一人暮らし高齢者の孤立・貧困問題が深刻な地域でもあるという指摘(河合克義(2015)『老人に冷たい国・日本』光文社新書。)があった。そこで自分の課題を発信したり、声を上げられず苦しんでいる人々のために、区民が実態を知り、出来ることを考え、実践する姿勢を養う必要が求められた。

明治学院大学の社会的使命として

建学の精神「キリスト教による人格教育」のもと、創設者ヘボンが生涯貫いた精神 “Do for Others(他者への貢献)” を教育理念に掲げている。“Do for Others” という教育理念の実現のために、各学部、教養教育センターで提供される正課カリキュラムに加え、国際交流、ボランティア、キャリア教育など、さまざまな取り組みにも力を入れている。明治学院大学には建学の精神と教育理念を大切にして社会に貢献していく使命があった。

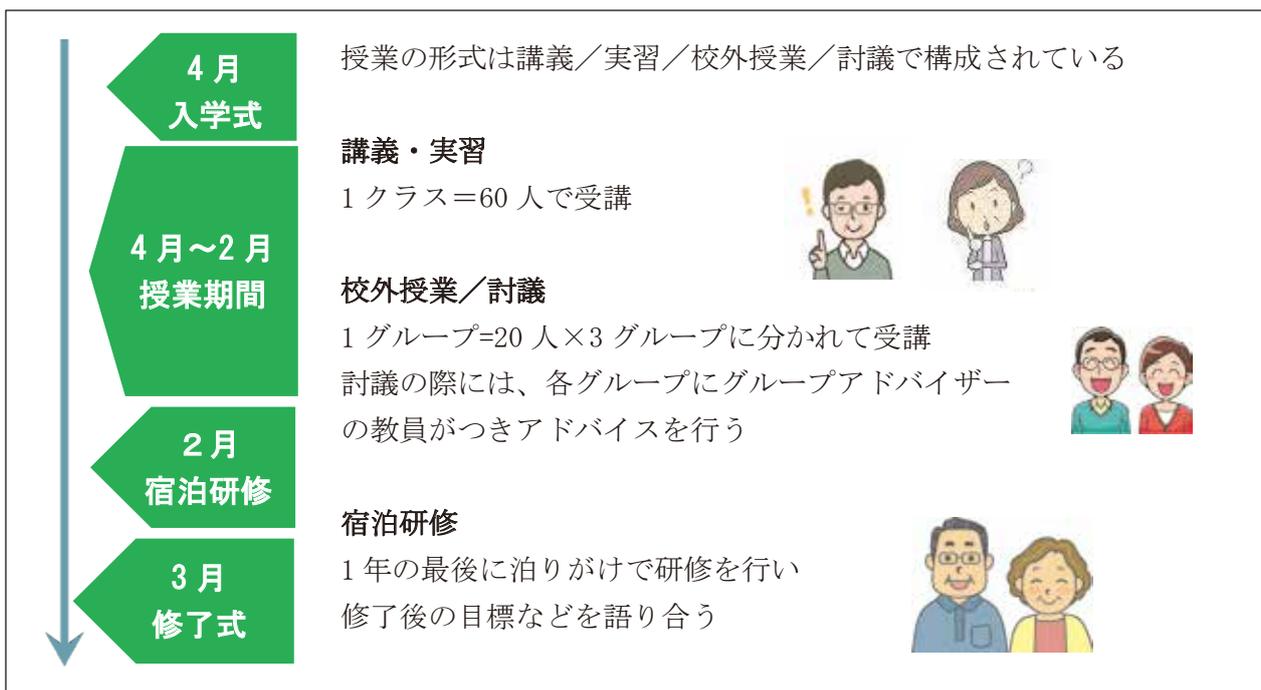
⇒港区が明治学院大学に業務委託し、チャレンジコミュニティ大学が発足した。

【趣旨】「チャレンジコミュニティ大学」の目指すもの

- ・高齢者や今後高齢期を迎える世代がいままで培ってきた知識・経験を地域に生かす
 - ・生きがいのある豊かな人生を創造する
 - ・学習を通じて、個々の能力を再開発することを目指す
 - ・高齢社会の充実のため、地域の活性化や地域コミュニティの育成の原動力として積極的に活躍していただく、地域活動のリーダーを養成する。
- ※就労者世代ではまだまだ地域生活は作りにくいこともあり、地域に根付く活動が可能な高齢者世代の力を借りることにした。CC 大学は高齢者の地域デビュー・地域との接点づくりの手助けをすることによって、地域の課題の解決を目指している。

2. チャレンジコミュニティ大学のカリキュラム

(1) チャレンジコミュニティ大学の1年間の流れ



(2) カリキュラム

①社会参加

福祉や行政関連など地域活動をするにあたっての基礎知識をテーマにした授業

講義：「地域福祉と住民参加」「ボランティア・NPO活動論」「高齢者福祉」「児童福祉」「精神障害と社会福祉」「今日の貧困と社会福祉」「社会保障の国際比較」「町内会・自治体と地域づくり」「地域課題発見方法、地域組織化と地域活動リーダーの役割」

見学：母子生活支援施設・障害者生活支援施設・生活自立センター

港区による授業：議会棟見学・区長・副区長・行政担当者による講義
 社会福祉協議会・民生委員・児童委員による講義



②健康増進

生涯スポーツや校外授業など、健康の管理や増進をテーマにした授業

講義：「高齢者の健康と体力」「運動不足によるからだの変化と運動」「身体運動の仕組みと身体機能の加齢性変化」「医療覚醒」

実習：「運動処方入門」「有酸素運動入門」「元気で動ける身体をめざして」

散策：横浜キャンパスに隣接する公園での自然探索



③一般教養

高齢者に身近な法律、社会経済事情、芸術などの教養をテーマにした授業

講義：「日本の現代小説」「港区の風景と文化」「老年期の心理」「認知症の理解とその予防」「組織のリスク・マネジメント」「暮らしと税金」「暮らしに役立つ民法」「身近な消費者問題」

鑑賞：美術館見学・音楽鑑賞



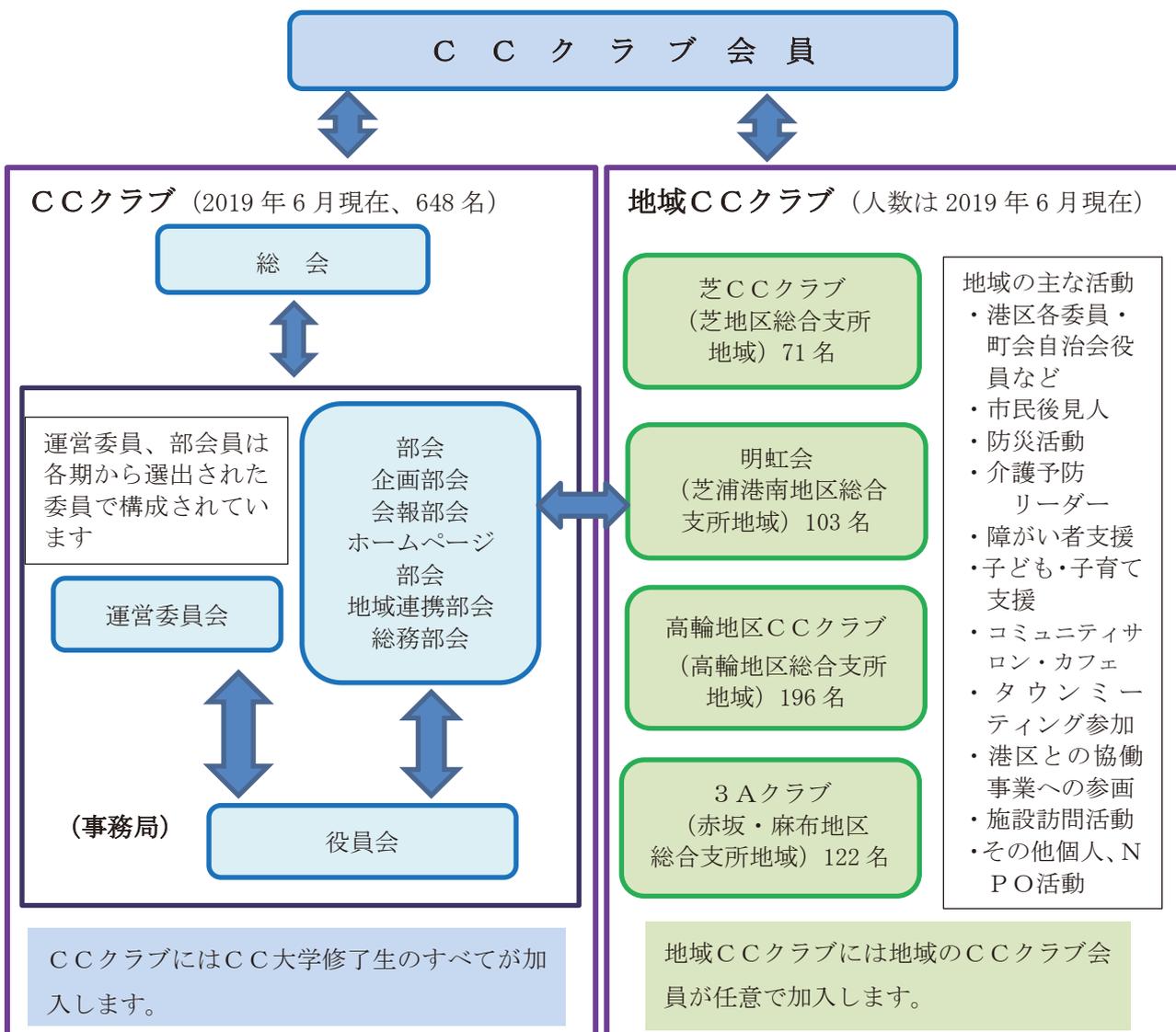


2008年3月、チャレンジコミュニティ大学第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ（略称CCクラブ）が創設されました。

CCクラブは、会員相互の情報交換を図るとともに、CC大学で学んだこと及び各自の社会経験等を活用することにより、コミュニティの醸成、維持、発展に向けた地域活動を推進し、住みやすい地域の実現に寄与することを目的としています。また、港区の街づくりや地域ネットワークの構築を支援し、地域活動を通じてリーダーを育成し、そして、会員は充実した人生を送り、広く社会に貢献していきます。

CCクラブは、各個人、グループそして運営部門の活動として、港区、大学、NPOとの協働プロジェクトへの参画、社会福祉団体、町会・自治会等への参画を推進するとともに、地域活動に関するタイムリーな情報提供、そして社会への広報活動や会員相互の交流活動などを行っています。

地域CCクラブは各地域に関わる地域活動をCCクラブ会員に限定せず、地域住民の参加を積極的に推進する活動を行っています。



チャレンジコミュニティ・クラブと会員の活動 (CC通信に掲載された11年間の活動)

チャレンジコミュニティ大学第1期生修了後の2008年4月にCCクラブが発足し、CCクラブ会員個人、グループそしてクラブ全体の活動をCC通信で皆さまにお知らせしております。今回、活動実態調査報告書を刊行するにあたり、CC通信に掲載された過去11年間のCCクラブの主な活動と会員活動を紹介します。誌面の都合で項目のみの紹介となりますので、詳細内容をご覧になりたい方はバックナンバーでご確認ください。バックナンバーは、創刊号から最新号までをCCクラブホームページ会員サイトに、26号(2014年10月発行分)以降は一般サイトにも掲載しております。

2008.4~2009.3 (創刊号~4号)

- 映画上映会「いのちの作法―沢内『生命行政』を継ぐ者たち」研修旅行のプレ講座(2号)

2008年8月2日(土) 明治学院大学
河合克義チャレンジコミュニティ大学総括
コーディネーターの解説

岩手県旧沢内村の紹介と老人医療制度の歴史の解説

- 岩手県旧沢内村ツアー報告(2号)

2008年9月17日(水)~18日(木)
岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)



旧沢内村研修会の参加者

- CCクラブ会員の活動報告(2号)

・私のボランティア活動 1期 塩見幸子
・サイエンスカフェイン高輪の活動について

1期 岩村道子

・第3グループの活動報告 1期 古橋義弘

- 港区社会福祉協議会訪問記(3号)

1期 吉田秀博

- CCクラブ会員の活動報告(3号)

・私のボランティアとの関わり

1期 原澤芳子

- ・科学マジッククラブの活動紹介

1期 小林政雄

- CCクラブ講習会報告(3・4号)

第1回「高齢者サービスについて―在宅支援を中心に」、
「これからの高齢者地域福祉」

2008年10月29日(水) 15:00~17:00

明治学院大学

講師 港区保健福祉支援部高齢者支援課

在宅支援係 長瀬伸一主任 海津美江主任

高輪地区総合支所くらし応援課

西津雅子課長

第2回 「ボランティア活動の実践～あなたにとってボランティアは何色～」

2008年12月8日(月)

講師 明治学院大学 社会学部附属研究所

ソーシャルワーカー 平野幸子氏

第3回「ともに生きる地域社会を築いていくために～障害のある人の地域生活を理解する～」

2009年1月21日(水) 15:00~17:00

明治学院大学

講師 愛知淑徳大学医療福祉学部

谷口明広教授

- シンポジウム「コミュニティづくりとチャレンジコミュニティ・クラブ」と交流会報告

- ・シンポジウム

2009年3月5日(水) 15:00~17:00

明治学院大学

「コミュニティづくりとCCクラブ」

CCクラブ一年間の活動報告、各グルー

プの報告そして2期生も含んだ会場からの質問と地域連携推進室をはじめとした関係者からの回答

○CCクラブ会員の活動報告 (4号)

- ・私がこの1年間に取り組んできた事の報告
1期 明石美穂子
- ・私の地域コミュニティ活動報告
1期 江原一弥

2009.4~2010.3 (5号~8号)

○岩手県旧沢内村研修報告 (6号)

2009年9月3日(木)~4日(金)
岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)

1日目

深澤晟雄資料館見学、太田祖電(元村長)氏講演、高橋典成(NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表)氏講演

2日目

光寿苑見学、光寿苑 太田宣承副園長講演、長瀬野新集落見学、長瀬野の方と昼食、懇談

○第2期生 活動報告 (6号)

- ・第1グループ(CC21) 2期 西野文子
- ・第2グループ(「みなトーク」会)
2期 樋口賢一
- ・第3グループ(Club 3MC) 2期 川野和彦

○OKAMOTO「サロン」News からー1期生2グループ機関誌一 (7号)

○CCクラブ会員の活動報告 (7号)

- ・男の料理教室 1期 雨宮範夫
- ・初心者のための「パソコンたまり場」
1期 五十嵐武
- ・私の子育て支援活動 1期 井林靖雄
- ・緑のカーテン・サポーター
1期 飯塚洗子、1期 坂下妥子
- ・生け花とお茶とマナー 1期 福島君子
- ・私の高齢者支援活動 2期 青木みよ
- ・青少年対策三田地区委員会の一員として
2期 上野良子
- ・福祉施設でコンサート 2期 仲島泰子
- ・「ボランティア」のこと 2期 佐藤恵子

・コミュニティサロンのサポーター

CCクラブ参加者12名 1期 飯塚洗子

○CCクラブ主催講演会報告 (7号)

1.「都市高齢者の孤独問題と社会的ネットワーク日中比較」

2009年10月21日(水)

講師 山東工商学院社会学科研究所
林明鮮教授

2.「隣人としてできることから」~DV被害者支援に関わって~

2009年11月11日(水)

講師 NPO法人男女平等参画推進みなと(GEM) 船尾豊子事務局長

○CCクラブ主催講演会報告 (8号)

「みんなで支えあう福祉のまちづくりを目指して」

2010年1月27日(水)

講師 NPO法人「ぐるーぷ藤」

鷲尾公子理事長

○2009年度「CCクラブ活動報告会とシンポジウム」と交流会の報告 (8号)

2010年2月27日(土) 明治学院大学

・活動報告 2009年度CCクラブ活動総括

1期 米永栄一郎

・シンポジウム 2009年度の「活動状況と今後」

明治学院大学 河合克義教授、

1期 小林政雄 2期 安藤洋一 2期 青木稔

○修了後2年の「いま」-1期生各グループより- (8号)

・笑顔に逢いたくて 1期生第1グループ

・OKAMOTO「サロン」NEWS からー会員の近況などー

1期生第2グループ、岡本多喜子先生



報告会会場と報告者

- ・「シルバーライフ曼荼羅」より<他人事ではなく、自分事として参加する>
1期生第3グループ（トリプルC）
- ・フロアとのディスカッション

2010.4～2011.3（9号～12号）

○第3回岩手県旧沢内村研修会報告（10号）

2010年9月12日（日）～13日（月）
岩手県旧沢内村（現和賀郡西和賀町）

1日目

深澤晟雄資料館見学、増田進（元沢内病院長）氏講演、高橋和子（NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表）氏講演

2日目

ワークステーション湯田・沢内（障害者支援施設）見学、照井洸（西和賀町森林組合長）氏講演、高橋典成（施設長）氏講演、

○CCクラブ会員の活動報告（10号）

- ・忙中歓あり 1期 篠崎つたえ
- ・2年目を迎えたみなトーク会 2期 安藤洋一
- ・「キワニス・ドール」をご存知ですか？ 3期 山根幸子
- ・声に出して本を読むことで、つながりたい・・・朗読ボランティアを目指して活動しています。 2期 久津弘子

○CCクラブ会員の活動報告（11号）

- ・「北川清一先生のお話を聞く会」を開催して 2期 細井典子
- ・OKAMOTO「サロン」勉強会 テーマ「妻を介護する夫たち」 1期 吉田秀博
- ・旧沢内村「ふるさと交流会」に参加して 1期 飯塚洸子
- ・講演会 高齢社会の課題「老人介護の現状、問題点、今後望まれる認知症対策」を聞いて 1期 坂下妥子

○2010年度CCクラブ「活動報告とシンポジウム」～コミュニティへの挑戦と創造～（12号）

- 2011年2月26日（土） 明治学院大学
- ・活動報告 2010年度CCクラブ活動報告 3期 清水英武
 - ・シンポジウム

「若い世代にとっての家族と地域社会」
シンポジウム参加者

東日本国際大学福祉環境学部

- 菅野道生准教授、 1期 井林靖雄
- 2期 吉田由紀子、 3期 坂上宗男



活動報告会とシンポジウム会場

○CCクラブ会員の活動報告

～民生・児童委員特集～（12号）

- ・民生・児童委員の“しごと” 1期 桑原水枝
- ・民生・児童委員になって 1期 吉山昌志
- ・6年間の民生委員活動をふりかえって 3期 坂上宗男
- ・高齢者を大事にする地域社会づくりを！ 2期 野口美津子

○第2回CCクラブ主催講習会（12号）

2011年1月26日（水） 明治学院大学

- 『60歳からの楽々サバイバル』～災害時に空白の3日間を生き延びる～に参加して 4期 徳竹道子

2011.4～2012.3（13号～16号）

○CCクラブカミングディ（同窓会）報告（14号）

2011年7月15日（金） 明治学院大学

講師 NHKラジオ 村上信夫氏

○CCクラブ会員の活動報告（14号）

- ・芝CCクラブ活動報告 3期 新井隆治
- ・芝浦港南台場エリアCCクラブ『明虹会』報告 4期 伊藤文子
- ・第4期生「チャレコミ4」活動報告 世話人石井、伊藤、島崎、村松、村井、平岩
- ・「みなトーク」会の3年目の活動～さらに深く、大きく、広がる輪～ 2期 久津弘子

・[地域のつながり創り活動]

3期 荒澤経子

・パーキンソン病の知識を得る会

2期 田口博子

○CCクラブ主催 「講演とパネルディスカッション」～成年後見制度とは何？ その上手な利用とは 私たちにできることは～ (15号)

2011年10月19日(水)

明治学院大学

基調講演

明治学院大学法学部 黒田美亜紀准教授

品川成年後見センター 齋藤修一所長

パネルディスカッション

講演者2名、社会福祉士 築田晴氏、

明治学院大学法学部 今尾真教授

○佐久総合病院研修旅行報告(15号)

2011年11月13日(日)～14日(月)

長野県佐久市佐久総合病院



佐久総合病院と研修旅行参加者

1日目

講演会 佐久総合病院のこれまでの歩みと

現状 元小諸厚生病院事務局次長

依田発夫氏

懇親会 依田先生を交えての懇親会

2日目

講演会 「佐久総合病院における地域ケア活動の実践」

佐久総合病院

夏川周介統括院長

見学会

○CCクラブ会員の活動報告(15号)

・文部科学省主査「全国生涯学習ネットワークフォーラム2011」に参加して

1期 米永栄一郎

・文部科学省主催の講演生涯学習制度の強化充実にチャレンジしよう！！

2期 野口美津子

・コミュニティ・サロンのサポート

4期 鈴木豊子

・「手話を学び始めて」

3期 角南澄子

○CCクラブ2011年度「活動報告とシンポジウム」(16号)

2012年2月25日(土) 明治学院大学

・特別講演 被災地の復興と地域コミュニティの再生～3.11の津波は私たちに何をもたらしたのか～

講師 岩手看護短期大学

鈴木るり子教授

鈴木るり子教授

・活動報告とシンポジウム・交流会

・CCクラブ活動報告 3期 坂上宗男

・シンポジウム

高輪いきいきプラザ幼児英語教育<英語でしゃべっちゃオ> 2期 田部揆一郎

港区パーキンソン病友の会の新設と歩み

3期 小原進

港区にノルディックウォーキングを！

4期 藤原冬子

○町会・自治会の役員として(16号)

・生き返った植木鉢 1期 古橋義弘

・高輪地区の町会活動に従事して

2期 安藤洋一

・高輪共和会について

3期 片桐義雄

・地域の住民になるということ

4期 野上一治

○CCクラブ会員の活動報告(16号)

・被災地「気仙沼」を訪問して

4期 畔柳和子

・アートサポーターとしてのお手伝い

4期 小川町子

2012. 4～2013. 3 (17号～20号)

○夏の集い “What a Wonderful 2nd life !”

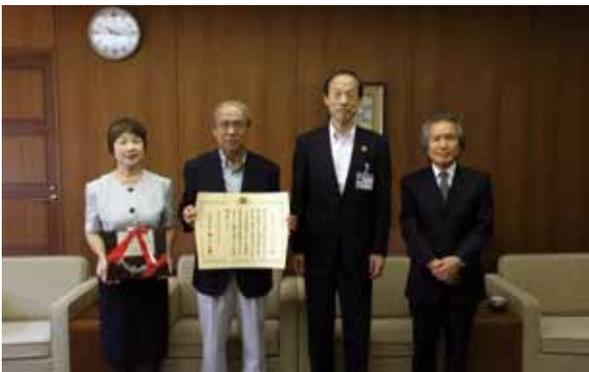
(18号) 2012年7月14日(土)

- ・当世・港区銭湯事情—高齢者のお風呂
1期 塩見幸子
- ・～自助・共助をめざして～「みなトーク」会の活動
2期 久津弘子
- ・高齢者チームのチャレンジ ヨットで横浜から沖縄へ
3期 片桐義雄
- ・ご近所の方々と会話をしていますか?
4期 平岩力
- ・夏の交流会報告
5期 伊藤昌一
- ・会報部会より、参加者の感想から
5期 大竹裕

○あなたの地区の“ふれあい相談員”をご存じですか? (18号)

○私達の活動が内閣府から「エイジレス・ライフ社会活動実践団体」に選定されました! (19号)

2012年9月24日(月) 港区役所



港区役所での表彰と表彰状

○「安全で安心できる暮らしのための防災教室」(19号)

2012年11月7日(水)

- ・企画部会より
5期 伊藤昌一
- ・講座を振り返って
5期 小野田マサ子

○活動報告 (19号)

- ・OKAMOTO「サロン」活動について
1期 吉田秀博
- ・「エンゼルの会」ご報告
3期 山根幸子
- ・介護予防とは
3期 入江紀子
- ・ノルディックウォーキングを通しての社会貢献
4期 藤原まき子

・大使館と史跡めぐりの活動状況

5期 増田由明

○地域連携部会だより (19号)

活動状況報告の概要 2期 吉田由紀子

○活動報告会とシンポジウム～広がる高齢者支援の輪～ (20号)

2013年2月23日(土) 明治学院大学

- ・活動報告 2012年度CCクラブ活動報告
4期 伊藤文子
- ・シンポジウム
ふれあい相談を通じた高齢者の実態
芝地区ふれあい相談員 近藤朋美氏
活動状況調査の結果から見えるもの
2期 吉田由紀子
- とらべり会の活動
3期 池谷敏雄
- 赤坂青山地区高齢者「ふれあいサロン」
1期 桑原水枝

○地域貢献活動報告 (20号)

- ・「港区まち創り研究会」の活動報告
2期 安藤洋一
- ・動き出した3年目を迎える「芝CCクラブ」
2期 細井典子

○高齢者福祉活動報告(20号)

- ・生涯教育で大切な事“希望、探究心”
4期 出島彰
- ・私の好きな歌を歌い続け、4年目
2期 仲島泰子
- ・「人生100年」に向けて!
3期 田中眞弓
- ・「楽体(らくだ)クラブ」が目指すもの
5期 佐藤洋

- ・高齢者施設ボランティア“買い物代行サービス”
5期 大竹裕

○CCクラブ主催講演会「海外に学ぶアクティブシニアライフスタイル」(20号)

2012年12月12日(水) 明治学院大学

講師 三菱総合研究所 松田智生氏

- ・講演会に参加して
3期 池谷敏雄
- ・リタイアメント・コミュニティ
4期 奥田博章
- ・講演「アクティブシニア」を聴いて感じたこと
6期 篠原咲子

2013. 4～2014. 3 (21号～24号)

○2013年第1回講演会(22号)

2013年7月20日(土) 明治学院大学
講師 明治学院大学 井上孝代名誉教授
テーマ 「60歳からのルネサンス～エイジングの心理学～」

○七夕シンポジウム報告(22号)

—港区高齢者2人世帯の生活実態調査報告—
2013年7月7日に開催された河合教授主幹の
シンポジウムの報告
“おふたりさまでも、安心できない”

6期 川上利春

○アンケート中間報告(22号)

○CCクラブ第2回講演会(23号)

“協働とは?”～日頃の気楽な“いとなみ”にあ
る～

2013年11月6日(水)

港区立白金台いきいきプラザ B2ホール
講師 安藤雄太(東京ボランティア・市民活
動センターアドバイザー)氏
港区産業・地域振興課 遠井基樹課長
事例発表

・ベイヤッププロジェクト

2期 道佛仁子

・協働・芝CCクラブ会員の活動

3期 新井隆治

・第6回健康長寿 in みなと 6期 遠山哲

・NPO法人あざ六プラスの紹介

一般参加 高柳由紀子氏

○【明治学院創立150周年記念EXP02013】

白熱討論会について(23号)

2013年12月14日(土) 明治学院大学
大学生とCCクラブ会員が「社会貢献」をキー
ワードにした討論会

討論参加者

1期 吉田、2期 田部・馬場、3期 梅宮・
坂上、5期 呉、6期 宇賀神・篠原・
尾藤・忍足

・あれ?討論って…楽しい!!

6期 尾藤幸彦

・「世代間交流」という新しいコミュニティ
～若者とプラチナ世代が激論バトル!!～

実行委員長 明治学院大学 社会福祉学科

4年 荻野真奈美



白熱討論会会場

○「活動状況報告書」のまとめ(23号)

地域連携部会

2期 吉田由紀子

○“全地区にCCクラブ誕生”(23号)

・高輪地区CCクラブ

1期 米永栄一郎

・3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地区)

6期 篠原咲子

○CCクラブ2013年度活動報告会とシンポジウ ム&交流会」～広げよう地域の輪・ひとの輪～ (24号)

2014年3月1日(土) 明治学院大学

・地域CCクラブ「現状と今後の取り組み」

基調講演 明治学院大学 河合克義教授

報告 明虹会「芝浦・港南・台場地区」

芝CCクラブ「芝地区」

高輪地区CCクラブ

3Aクラブ「赤坂・青山・麻布地区」

2013年度CCクラブ活動報告

・シンポジウム

○CCクラブメンバーによる地域活動の紹介

(24号)

・地域連携部会

2期 吉田由紀子

2014. 4～2015. 3 (25号～28号)

○平成26年度CCクラブ・ホームカミングデー ～特別講演と地域活動の紹介～(26号)

2014年7月26日(土) 明治学院大学

・特別講演

テーマ ドイツをめぐる雑感

講師 明治学院大学 鵜殿博喜学長

・地域活動の紹介

- 芝の語り部 5期 増田由明
- 「みなと第九を歌う会」2期 田部揆一郎
- 「ブルモン料理研究会」6期 斎藤正精
- 「Kiss ポート・エンジェルス・ハーモニー」5期 暮地友子

○パリ研修旅行速報 (26号)

- パリの青空のもとで 2期 吉田由紀子

○地域活動紹介 (26号)

- 白金台いきいきプラザ 麻雀ボランティア 6期 白井レツイ

○フランス研修旅行報告～フランスの法律と福祉を学ぶ～ (27号)

- ・フランス研修旅行の意義 河合克義教授
- ・日仏の成年後見制度について 今尾真教授
- ・フランスの民間団体の活動 河合克義教授
- ・フランス研修旅行に参加しての雑感 1期 飯塚洗子



パリ第2大学パンテオン校舎

○平成26年度秋のイベント～新東京丸に乗って東京湾の役割を学ぼう～ (27号)

- 第1部 海上からの施設見学
- 第2部 第2部東京みなと館・浜離宮散策

○2014年度シンポジウム・活動報告会～地域でやっていること・やりたいこと～ (28号)

- 港区との共同開催
- 2015年2月28日(土) 明治学院大学

第1部シンポジウムと活動報告会

- ・シンポジウム
- コーディネーター 明治学院大学 河合克義教授
- ・基調報告「その一歩、人がつながる楽しいまちづくり」

港区協働推進委員会 安藤雄太委員長

・パネルディスカッション

会社の活動紹介

太陽生命保険株式会社 秋山清茂氏

団体の活動紹介

ジービーパートナーズ 上野佳代子氏

大橋力氏

高輪一丁目町会松が丘部会活動

高輪地区CCクラブ 2期 安藤洋一

7年目の「みなトーク」会活動

高輪地区CCクラブ 2期 久津弘子

ペーパークラフト講座活動

芝CCクラブ 5期 佐々木博子

介護相談活動

明虹会 6期 石高則子

子ども会や東麻布街づくり活動

3Aクラブ 7期 宮崎貴美子

・全体講評 安藤雄太委員長 河合克義教授

・活動報告

2014年度CCクラブの1年を振り返る

クラブ活動報告

会報部会 5期 大竹裕

クローズアップCCについて

地域連携部会 6期 川上利春

・港区のお知らせ

高輪地区総合支所協働推進課

野澤靖弘課長

・閉会あいさつ

港区地域振興課 遠井基樹課長



シンポジウム会場

○地域CC年間活動報告 (28号)

芝CCクラブ、明虹会、高輪地区CCクラブ、3Aクラブ

2015. 4～2016. 3 (29号～32号)

○平成27年度CCクラブ・ホームカミングデイ～ 邦楽演奏と地域活動の紹介 (30号)

2015年7月22日(土)

明治学院大学白金校舎アートホール

・第1部 三味線演奏：あなたの知らない邦楽 ワンダーランド

演奏者 中島久子(5期)を始め中島勝祐
記念会の皆さん

・第2部 ご一緒しませんか？私たちの地域活 動 初心者大歓迎

介護予防リーダーの活動これから

6期 小倉徳子

NPO法人プラチナ美容塾 美容ボラン
ティア活動紹介&美容ボランティアへの
お誘い

4期 伊藤文子

白金台いきいきプラザの麻雀

5期 大竹裕

○2015年度夏・秋のイベント特集 (31号)

・宮古島・CCクラブ研修旅行

訪問記 宮古島市役所、福祉部福祉調整課
宮古島市社会福祉協議会、
特別養護老人ホーム松風園



宮古島 特別養護老人ホーム松風園と研修参加者

・～今年もまた新東京丸に乗って東京湾を見学 しよう～

・NHK歌謡コンサート

○活動報告～町会活動特集～ (31号)

- ・三田一丁目町会 5期 伊藤昌一(芝)
- ・芝浦三・四丁目町会 2期 青木稔(明虹会)
- ・高輪一丁目・松ヶ丘会 2期 安藤洋一(高輪)
- ・赤坂八丁目町会 3期 西勇治(3A)

○CCクラブ 2015年度活動報告会～めげないシ

ニアの作り方～ (32号)

2016年2月27日(土) 明治学院大学

活動報告会

・CCクラブ活動報告 2015年度CCクラブ
活動報告 副代表 7期 丸山保夫
地域活動の状況 地域連携部会

8期 野村知義

・事例報告

豊岡いきいきプラザでのシニア英会話教
室講師

港区豊岡いきいきプラザ 今中亜希子氏
2期 田部揆一郎 5期 小野田マサ子

「ラクっちゃ」における介護予防リーダー
の活動

港区介護予防総合センター 佐藤むつみ氏
3期 新井隆治

港区芝浦港南総合支所との協働事業

港区芝浦港南地区総合支所

羽田悠一郎氏、2期 青木稔

活動の現状と今後の活動

チャレンジコミュニティ・クラブの意義と
今後の活動への期待

明治学院大学河合克義教授

CCクラブの今後の課題

CCクラブ 斎藤正精世話人代表

○2015年度地域CC年間活動報告 (32号)

芝CCクラブ、明虹会、
高輪地区CCクラブ、3Aクラブ

2016. 4～2017. 3 (33～34号)

○第1回チャレンジコミュニティ・クラブ定期総 会 (HP版、特別号)

7月16日(土)

明治学院大学白金校舎

○平成28年度CCクラブ・ホームカミングデイ 特別講演会 (HP版、特別号)

「ぼくのライフワークはアホウドリの再生」
東京都民文化栄誉賞受賞者・東邦大学
長谷川博名誉教授

○港区政70周年記念事業 (34号)

チャレンジコミュニティ大学10周年記念シン

ポジウム

コミュニティを切り拓く～港区における地域・人づくりの挑戦～ (34号)

2016年12月10日(土) 明治学院大学

・記念講演

共同体的人間関係の再生

東京大学 神野直彦名誉教授

・基調講演

生涯学習と地域づくりの方向性について

文部科学省生涯学習政策局参事官

小谷和浩氏

・特別報告

アクティブシニアが導く～人生二期作・二毛作～

三菱総合研究所主席研究員 松田智生氏

・シンポジウム

～港区における地域・人づくりの挑戦～
コーディネーター

明治学院大学 河合克義教授

・NPOによる広域エリアの地域活動

NPO法人 プラチナ美容塾

4期 伊藤文子

・区と協働で進める地域活動

コミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブ 1期 飯塚洗子

・町会活動や多世代間交流などの地域活動

飯倉三・四町会 6期 野村知義



CC大学10周年記念シンポジウム会場

○2016年度CCクラブ年間活動報告 (34号)

・2016年度CCクラブ活動

第1回チャレンジコミュニティ・クラブ
定期総会

平成28年度CCクラブ・ホームカミングデー

特別講演会と交流会

みなと区民まつりへの出展参加

第1回港区地域福祉フォーラムに運営協力

・企画部会、地域連携部会、ホームページ部会、
会報部会、総務部会の報告

○2016年度地域CC年間活動報告 (34号)

○活動報告～民生委員・児童委員活動報告～

(34号)

港区民生委員・児童委員協議会前会長

1期 古橋義弘

芝地区

5期 野瀬かほる

高輪地区

3期 梅澤和子

麻布地区

7期 山口明子

芝浦・港南地区

9期 堀野美千子

2017.4～2018.3 (35～37号)

○2017年度CCクラブ第2回総会・ホームカミングデー・交流会 (36号)

・CCクラブ第2回定期総会

・2017年度ホームカミングデー

「2015年度ノーベル生理学・医学賞受賞者大村智先生の人となり」と微生物の魅力に魅せられて」

講演者 高橋洋子北里大学名誉教授

○2017年度CCクラブ国内研修旅行 (36号)

「佐久総合病院の歩みと地域づくりの方法を学ぶ研修旅行」(36号)

○2017年度・秋のイベント特集 (36号)

・みなと区民まつり

・第2回港区地域福祉フォーラム

・みなと子ども読書まつり

サイエンスワークショップ



地域福祉フォーラム/高輪地区CCクラブカフェと芝CCクラブ折り紙活動

○2017 年度 C C クラブ 活動報告会・河合克義教授
特別講座・交流会 (37 号)

・活動報告会

地域 C C クラブ 活動報告

芝 C C クラブ	3 期	新井隆治
明虹会	10 期	岡部正実
高輪地区 C C クラブ	2 期	吉田由紀子
3 A クラブ	9 期	川村潔

・河合克義教授特別講座

私の研究の基礎視角とボランティア・アクションーチャレンジコミュニティ・クラブの活動に期待するものー

明治学院大学教授 河合克義氏
(チャレンジコミュニティ大学総括
コーディネーター)

○2017 年度 部会活動報告 (37 号)

○2017 年度 地域 C C 年間活動報告 (37 号)

○活動報告～介護予防活動特集～ (37 号)

・介護予防総合センターの取り組み

港区立介護予防総合センター ラクっちゃ
コミュニティーワーカー 武藤京介氏

・待ったなしの介護準備へ 7 期 牧野匡道

・教わる側から介護予防リーダー活動へ
7 期 管美知子

・介護予防リーダーになって得たもの
8 期 水野禮子

○表彰案内 (37 号)

港区社会福祉協議会「地域福祉功労章」

かんがり宛名活動に対して 3MC グループ

港区景観表彰景観街づくり賞特別賞

アドプト活動に対して 芝 C C クラブ

2018. 4～2019. 3 (38～40 号)

○2018 年度 C C クラブ 第 3 回 定期総会・ホームカ
ミングデー・交流会 (39 号)

2018 年 6 月 16 日 (土) 明治学院大学

・ C C クラブ 第 3 回 定期総会

・ 2018 年度 ホームカミングデー

やっと見つけた！手ごたえのある生き方
～ボランティアとフィランソロピー～

講師 フィランソロピー研究所
渡邊一雄 所長

○2018 年度 C C クラブ 活動 (39 号)

・ 明治学院高等学校 家庭科 授業参加

・ 夏の子ども会・サイエンス講座

・ みなと区民まつり

・ 第 3 回 港区 地域福祉 フォーラム



みなと区民まつりと夏
の子ども会・サイエンス
講座



○2018 年度 C C クラブ 活動 (40 号)

・ チャレンジコミュニティ・クラブ

2020 応援フォーラム

講演会『視覚障害者の学びと夢』

講師：長野県松本盲学校校長 矢野口 仁

・ 2018 年度 バス 研修旅行

足利市「こころみ学園」、ココ・ファーム・
ワイナリー、栗田美術館

・ MINATO シティ ハーフ マラソン

2018 ボランティア体験記



研修旅行「こころみ学園」

○社会福祉協議会 社会福祉功労賞の紹介 (40 号)

・ 地域福祉貢献賞 SoLi の会

・ 地域福祉功労賞

石綿修一 (5 期・介護相談員)

加藤彌生 (6 期)

川上利春 (6 期)

小林和子 (8 期)

古川久江 (8 期)

○2018 年度 部会 活動報告 (40 号)

○2018 年度 地域 C C 年間 活動報告 (40 号)

○活動報告～サロン活動特集～ (40 号)

・ みんなでつながる サロン 活動

港区社会福祉協議会 地域福祉係

・ 「サロンはなみずき」活動 8 期 小林和子

・ 「サロン茜」活動 8 期 古川久江

・ 「なぎさサロン」活動 12 期 平田渥美

・ SoLi の会 6 期 香西慧

東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書
編集/チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会 (2018 年度)

吉田 由紀子 (2 期)	新井 隆治 (3 期)
呉 東富 (5 期)	及川 廣子 (6 期)
川上 利春 (6 期)	太田 則義 (7 期)
小田切 恵子 (7 期)	石黒 富志子 (8 期)
今泉 昌代 (10 期)	岩田 孝子 (11 期)
進藤 君枝 (11 期)	三浦 紀久子 (11 期)
森下 和彦 (11 期)	

東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書

発行日 2019 年 7 月 15 日

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

編集 チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会

協力 明治学院大学学長特別補佐・名誉教授・

チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター 河合克義

明治学院大学総合企画室社会連携課

株式会社明治学院サービス

〒108-0071 東京都港区白金台 1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>



チャレンジコミュニティ・クラブ